

高浜 I 遺跡 (3 区)

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

2019年3月

島根県教育委員会



高浜 I 遺跡（3 区）

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

2019 年 3 月

島根県教育委員会



1. 遺跡空中写真(1947年10月3日)



2. 遺跡空中写真(北から)

序

本書は、島根県教育委員会が島根県土木部から委託を受けて、平成29年度に実施した一般県道矢尾今市線（大塚工区）予定地内に所在する高浜I遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

高浜I遺跡は出雲平野の中央部、里方町・高岡町・平野町に広がっています。これまでに1区で15世紀から16世紀頃の有力者の居館跡、2区で16世紀から17世紀頃の居館跡が見つかっています。とくに1区の居館跡から日本最古の将棋盤が出土し大きな話題となりました。

今回ふたつの居館跡のあいだに位置する3区を調査した結果、15世紀から16世紀頃に埋没した川跡などが見つかりました。館跡周辺の景観復元に加えて、出雲平野における土地利用の変遷を知るうえでも貴重な成果となりました。

本書がこの地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めるために、広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および報告書の作成にあたり御協力いただきました島根県土木部をはじめ、出雲市、地元の方々、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

島根県教育委員会
教育長 新田 英夫

例 言

1. 本書は、島根県土木部道路建設課からの委託を受けて、島根県教育委員会が平成 29 年度に実施した一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査地は下記のとおりである。
出雲市里方町 941-47 外 高浜 I 遺跡
3. 調査組織
調査主体 島根県教育委員会
平成 29 年度
[事務局] 萩 雅人（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（同総務課長）、
池淵俊一（同管理課長）
[調査担当者] 間野大丞（調査第三課長）、角森玲子（同調査補助員）、佐野木信義（同）、
高木優子（同）
平成 30 年度
[事務局] 植 真治（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋 聰（同総務課長）、
守岡正司（同管理課長）
[調査担当者] 間野大丞（調査第三課長）、米田美江子（同調査補助員）、佐野木信義（同）
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については、株式会社トーワエンジニアリングに委託した。
5. 発掘調査にあたっては以下の方々から御指導いただいた。
中村唯史（島根県立三瓶自然館企画情報課調整幹）
6. 掃図中の方位は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系 X 軸方向を示し、座標系の XY 座標は世界測地系による。レベル高は海拔高を示す。なお、『高浜 I 遺跡（1 区）』『高浜 I 遺跡（2 区）』では方位を世界測地系によると記載していたが、日本測地系であったので訂正する。
7. 本書で使用した第 1 図は国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図（出雲今市・大社・稗原・神西湖）、第 2 図・第 42 図は出雲市都市計画図、第 45 図から第 51 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 旧版図（今市・杵築・木次・大田）を使用して作成したものである。また巻頭図版 1 で使用した空中写真は国土地理院所蔵の写真を使用し、整理番号等は図版目次に記載した。
8. 出土遺物の保存処理は公益財團法人大阪市博物館協会に委託している。
9. 本書に掲載した写真是埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て間野が撮影した。
10. 本書に掲載した遺構・遺物実測図の作成・浄書は調査員・臨時職員・遺物整理作業員が行ったほか、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
11. 本書の執筆は、第 2 章と第 4 章第 3 節は米田、第 4 章第 4 節は間野と米田、その他を間野が行なった。
12. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は島根県教育厅埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

凡例

1. 本文、図版中の表に用いた遺構略号は次のとおりである。

SB：堀立柱建物、SD：溝、SX：墓その他の遺構、SK：土坑、SE：井戸、NR：自然河道

2. 本文、挿図、写真図版中の遺物番号は一致する。

3. 遺物実測図の▲印は軸際を示す。

4. 陶磁器および石製品に関しては下記の論文・報告書を参考にした。

木戸雅寿「石鍋の生産と流通について」『中近世土器の基礎研究IX』日本中世土器研究会

1993年

九州近世陶磁器学会『九州陶磁の編年 - 九州近世陶磁学会 10周年記念 -』2000年

佐伯昌俊「須佐焼の生産・流通と石見焼 - 近世末から近代初頭の鉢類を中心に」『近世・近代の石見焼の研究』島根県古代文化センター研究論集第17集 島根県古代文化センター

2017年

重根弘和「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念論文集

近藤喬一先生退官記念事業会 2003年

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 位置と歴史的環境	2
第3章 高浜I遺跡	14
第1節 調査の概要	
第2節 遺構の調査	
第3節 包含層の調査	
第4章 総括	46
第1節 遺跡の立地と様相	
第2節 古墓の様相	
第3節 出雲平野における遺跡の分布と土地利用－古代・中世を中心にして－	
第4節 出雲平野の中世の館跡及び屋敷地	
第5節 おわりに	

挿図目次

第1図 高浜I遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第2図 高浜I遺跡調査区配置図	15
第3図 調査区全体図	16
第4図 調査区グリッド配置図	17
第5図 3-1区北壁土層断面図	18
第6図 3-2区東壁土層断面図(1)	19
第7図 3-2区東壁土層断面図(2)	20
第8図 3-2区5ライン土層断面図	21
第9図 3-2区茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物実測図	22
第10図 3-2区遺構平面図(1)	23
第11図 3-2区遺構土層断面図(1)	24
第12図 3-2区遺構平面図(2)	25
第13図 3-2区遺構土層断面図(2)	26
第14図 3-2区遺構土層断面図(3)	27
第15図 3-2区遺構土層断面図(4)	28
第16図 3-2区遺構平面図(3)	29
第17図 3-2区遺構土層断面図(5)	30
第18図 ピット出土遺物実測図	31
第19図 SD03・08出土遺物実測図	31
第20図 SK01・02・04・06・07出土遺物実測図	32
第21図 NR01出土遺物実測図(1)	32
第22図 NR01出土遺物実測図(2)	32
第23図 SD01・NR01実測図	33
第24図 NR02・SD04・SD05土層断面図	34
第25図 NR02出土遺物実測図(1)	34
第26図 NR02出土遺物実測図(2)	35
第27図 SX01実測図	36
第28図 SX02実測図	36
第29図 SX01出土遺物実測図	36
第30図 SX02出土遺物実測図	36
第31図 3-1区包含層出土遺物実測図(1)	37
第32図 3-1区包含層出土遺物実測図(2)	38
第33図 3-1区包含層出土遺物実測図(3)	39
第34図 3-1区包含層出土遺物実測図(4)	39
第35図 3-2区包含層出土遺物実測図(1)	40
第36図 3-2区包含層出土遺物実測図(2)	41

第 37 図	3-2 区包含層出土遺物実測図 (3).....	42
第 38 図	3-2 区包含層出土遺物実測図 (4).....	43
第 39 図	3-2 区包含層出土遺物実測図 (5).....	44
第 40 図	3-2 区包含層出土遺物実測図 (6).....	44
第 41 図	3-2 区包含層出土遺物実測図 (7).....	45
第 42 図	高浜 I 遺跡の中世屋敷跡復元図	47
第 43 図	高浜 I 遺跡遺構全体図	48
第 44 図	城小路西遺跡出土五輪塔実測図	49
第 45 図	出雲平野の遺跡分布図（明治 28 年地図）.....	51
第 46 図	縄文時代の遺跡分布図	52
第 47 図	弥生時代の遺跡分布図	52
第 48 図	古墳時代の遺跡分布図	52
第 49 図	古代の遺跡分布図	52
第 50 図	中世前半の遺跡分布図	53
第 51 図	中世後半の遺跡分布図	53
第 52 図	築山遺跡・角田遺跡・寿昌寺遺跡の中世屋敷跡復元図	57

表目次

第 1 表	古代～近世前半 遺跡一覧表.....	61
第 2 表	出土土器觀察表	68
第 3 表	出土木製品觀察表	72
第 4 表	出土錢貨觀察表	73
第 5 表	石・金属製品觀察表	73
第 6 表	2 区出土石製品觀察表.....	73

巻頭図版目次

巻頭図版 -1 遺跡空中写真（1947 年 10 月 3 日） UR5143-CA-34

巻頭図版 -2 遺跡空中写真（北から）

本文写真目次

写真 1	高浜 I 遺跡 2 区 遠景（上空：南から）.....	59
写真 2	高浜 I 遺跡 2 区 近景（上空：南から）.....	59

写真図版目次

- 図版 1 1. 3-1 区表土掘削後（南東から）
2. 3-1 区調査終了後（南東から）
- 図版 2 1. 3-2 区表土掘削状況（北から）
2. 3-2 区調査終了後（南から）
- 図版 3 1. 3-1 区北壁土層堆積状況（西から）
2. 3-2 区東壁土層堆積状況（南から）
- 図版 4 1. 3-2 区ピット検出状況（東から）
2. 3-2 区ピット半裁状況（南から）
- 図版 5 1. ピット 33 完掘後（北から）
2. SD01 調査状況（東から）
- 図版 6 1. SD01 土層堆積状況（東から）
2. SD04・05 土層堆積状況（南から）
- 図版 7 1. SK01 半裁状況（東から）
2. SK02 調査状況（東から）
- 図版 8 1. SK06 土層堆積状況（南から）
2. NRO1 調査状況（東から）
- 図版 9 1. NRO1 漆器椀（第 22 図 1）出土
状況（東から）
2. NRO1 瓜子状木製品（第 22 図 2）
出土状況（東から）
- 図版 10 1. NRO1 完掘状況（東から）
2. NRO2 杖（第 26 図 2～4）出土
状況（東から）
- 図版 11 1. NRO2 五輪塔水輪部（第 25 図 4）
出土状況（北から）
2. SD04・SD05 完掘状況（南から）
- 図版 12 1. SX01 検出状況（東から）
2. SX01 半裁状況（北東から）
- 図版 13 1. SX01 人骨出土状況（北東から）
2. SX01 底面検出状況（北から）
- 図版 14 1. SX02 検出状況（東から）
2. SX02 検出状況（北から）
- 図版 15 1. 土師器鍋（第 35 図 8）出土状況（東
から）
2. 青灰色粘質土：須恵器（第 9 図 4）
出土状況（東から）
- 図版 16 1. 茶褐色土：中世須恵器（第 9 図 2）
出土状況（北東から）
2. 茶褐色土：須恵器甕（第 9 図 1）
出土状況（西南から）
- 図版 17 1. 茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物
(第 9 図)
2. ピット 33 出土遺物（第 18 図）
- 図版 18 1. 溝状構出土遺物（第 19 図）
2. 土坑出土遺物（第 20 図）
- 図版 19 1. NRO1・02 出土遺物（第 21 図）
2. NRO1 出土遺物（第 22 図）
- 図版 20 1. NRO2 出土遺物（第 25 図）
2. NRO2 出土遺物（第 25・26 図）
- 図版 21 1. SX01・02 出土遺物（第 29・30
図）
2. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物（第
31・32 図）
- 図版 22 1. 3-1 区包含層出土遺物（第 32 図）
2. 3-1 区包含層出土遺物（第 33 図）
- 図版 23 1. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物（第
33・34 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 35 図）
- 図版 24 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 35 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物
- 図版 25 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 36 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）
- 図版 26 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38 図）
- 図版 27 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 35・
37・38 図）
- 図版 28 1. 3-2 区包含層出土遺物（第 39 図）
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 38・
40・41 図）

第1章 調査に至る経緯と経過

一般県道矢尾今市線は、地域高規格道路境港出雲線（国道 431 号）と一般国道 9 号線（出雲バイパス）及び山陰自動車道を連結する道路であるとともに、広域的な地域連携に寄与するために計画された道路である。

平成 17 年 10 月 26 日に島根県出雲土木建築事務所（現：出雲県土整備事務所）から出雲市文化観光部文化財課（以下、出雲市文化財課と称す）に対して、出雲市大塚町から高岡町地内における埋蔵文化財の有無について照会があった。同年 12 月 27 日に出雲市文化財課は事業予定地内に近接して周知の遺跡である大塚遺跡が存在することから確認調査を実施し、大塚遺跡が事業地内にも広がっていることが確認されたため、12 月 28 日付で発掘調査が必要な旨を回答した。その後、出雲市文化財課では当事業予定地内の調査について対応が困難な状況であることから、島根県教育委員会が事業を実施することとなった。平成 19 年 4 月から大塚遺跡の発掘調査を実施し、平成 21 年 3 月に報告書が刊行されている。

その後、出雲県土整備事務所から平成 20 年 8 月 20 日付で高岡町から矢尾町地内における埋蔵文化財の有無について島根県教育委員会に照会があり、事業予定地内には周知の遺跡である高浜 I 遺跡と下澤遺跡が存在することから遺跡の取り扱いについて協議が必要であることを同年 12 月 1 日付で回答した。これを受けて出雲県土整備事務所から文化財保護法第 94 条の 1 の通知が提出され、島根県教育委員会では工事着手前に記録保存のための発掘調査が必要な旨を勧告した。

上記の法的手続きに基づいて、高浜 I 遺跡の発掘調査に着手した。調査の経過は下記の通りである。

平成 21・22 年度 1 区の調査。15～16 世紀の居館跡を検出。日本最古級の将棋盤など特殊な遺物が出土。平成 22 年度に報告書を作成。

平成 23 年度 1 区の北側水田で水路工事に伴う立会調査。遺構面を形成する基盤層は確認されたが、明確な遺構は検出されず。

平成 24 年度 国道 431 号の南に位置する下澤遺跡の試掘確認調査。遺構・遺物は検出されず。

平成 25 年度 一畑電鉄大社線の南側から県道矢尾今市線までの区間について試掘確認調査。

市道高浜 97 号線から北は遺構面を形成する基盤層が検出されず。市道以南を本調査対象範囲（2 区）とする。

平成 26 年度 2 区を調査。16 世紀～17 世紀にかけての建物跡などを検出。

平成 27 年度 2 区の報告書を作成。

平成 29 年度 3 区（1,000m²）を調査。調査は 5 月 22 日から着手、9 月 4 日に完了。

平成 30 年度 3 区の報告書を作成。

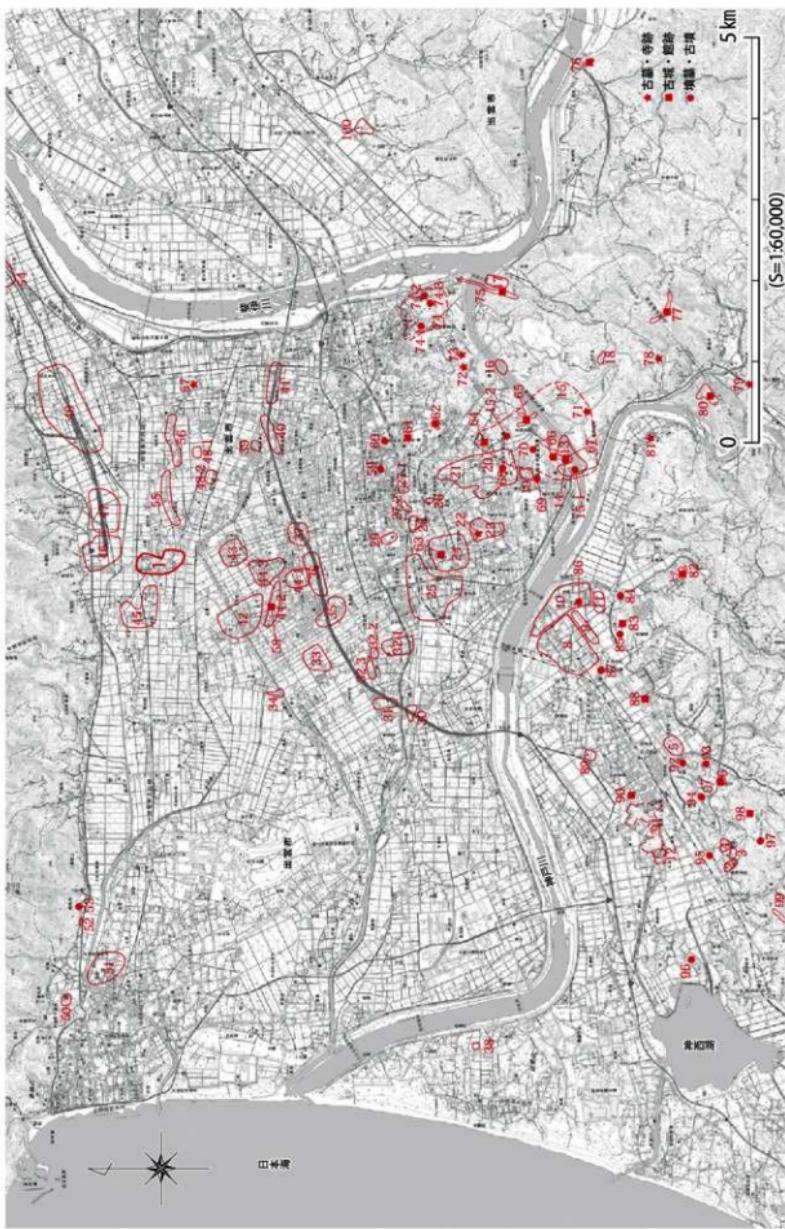
第2章 位置と歴史的環境

出雲平野は斐伊川・神戸川の二大河川により形成されてきた沖積平野である。約6,300年前（縄文時代早期）の温暖な時期には、現在の宍道湖が西の日本海側まで開いた湾（古宍道湾）の水海域であったとされる。約4,800年前（縄文時代前期）と約3,600年前（縄文時代後期）には三瓶山で大規模な噴火が起り、神戸川を介して出雲平野に数mもの厚い洪水砂が流され堆積している。三田谷I遺跡ではボーリング調査により、築山遺跡では発掘調査によりその堆積を確認している。

天平5（733）年編纂の『出雲国風土記』によると、当時は平野の西半分を占める「神門水海」とよばれる周囲35里75歩（18.84km）の水海が、現在の神戸川河口付近で日本海へ口を開け、その水海には出雲大川（旧斐伊川）と神門川（旧神戸川）が注いでいたとされる。出雲郡の帖には「出雲大川。源は伯耆と出雲との二國の境なる島上山より流れて、・・・・出雲郷の境なる多義村に出て、

1	高浜I遺跡	34	井原遺跡	66	半分城跡
2	五園川遺跡	35	瀬崎中島跡	67	上船泊遺跡
3	玉保今堀遺跡	36	瀬崎内遺跡	68	上船泊渓谷頂
4	御前合遺跡	37	御前内遺跡	69	地底小丘頂
5	長柄山遺跡	38	上長浜I遺跡	70	地底小丘頂
6	長柄II遺跡（後浜II古墳）	39	中野内遺跡	71	万明寺3号古墳
7	長柄III遺跡	40	中野I古墳群	72	佐佐古墳
8	下仁井遺跡	41	中野古墳遺跡	73	長谷院寺
9	川畠遺跡	42	（人ノ頭）北面跡を含む）	74	内野古墳群
10	占木本遺跡	43	大庭遺跡	75	内野3号古墳
11	占木本遺跡	44	大庭遺跡	76	内野15号古墳
12	小浜山越谷・鳥居原	44.1	小浜遺跡第1地点	77	鹿谷山遺跡
13	三田谷I・II遺跡	2	第2地点	78	猪ノ頭山遺跡
14	梅見山（引切山）遺跡	3	第3地点	79	地底小丘頂
15	上船泊湖・八幡原	45	（甲子）六石遺跡含む）	80	御前山遺跡
1	第33支群	46	下仁井遺跡	81	小坂・古賀行原
2	第40支群	47	（高浜I古墳を含む）	82	安樂山遺跡
16	上浜II遺跡	48	高浜II古墳2地点	83	洛・寺・山城跡
17	長徳遺跡	48.1	高浜II古墳2地点	84	新山I・II古墳
18	大井谷II遺跡	2	高浜II古墳	85	新山II古墳
19	寺谷II遺跡	49	寺谷遺跡	86	人體小丘頂
20	塩山遺跡	50	（高浜II古墳を含む）	87	人體小丘頂
21	角川遺跡	51	高浜II古墳	88	比良・青留跡
22	神門寺境内遺跡	52	奥出迎跡	89	知多古多間山遺跡
23	神門寺北遺跡	53	内田I・II古墳	90	御前山遺跡
24	高岡遺跡	54	吉木遺跡	91	御前山・鳥居原
25	大神遺跡	55	高岡遺跡	92	御前山古墳
26	熊ヶ森山遺跡	56	高岡遺跡	93	御前山古墳
27	熊ヶ森遺跡I地点	57	林仔・鳥居原	94	御前山古墳
28	洛行II遺跡	58	三木氏宿跡	95	J・I・II・III古墳
29	施上遺跡	59	海山I・II古墳	96	山形古墳
30	金小路遺跡	60	大今古・古墳	97	日光寺・古墳
31	白木本遺跡	61	平家丸遺跡	98	高岡遺跡
32.1	志田遺跡I・次高砂地点	62	向山遺跡	99	神門城跡
12	2次高砂地点	63	淨音寺・鶴の脚跡	100	後谷I・古墳
3	3次高砂地点	64	馬治神社古墳内遺跡		
33	4次高砂遺跡				

第1図 高浜I遺跡の位置と周辺の遺跡



河内・出雲の二郷を経て北に流れ、更に折れて西に流れ、即ち伊努・杵築の二郷を経て、神門水海に入る。」と。神門郡の帖には「神門川。源は飯石郡の琴引山より出でて北に流れ、・・・・神門郡の餘戸里門立村に出て、即ち神戸・朝山・古志等の三郷を経、西に流れて水海に入る。」と説明している。

この二大河川によってつくられた自然堤防（微高地）に集落が築かれ、本流のほかにも支流が何本も流れその後背湿地には水田が広がっていたことが発掘調査で明らかになってきた。そのような風景は、縄文時代晚期から徐々にできあがり風土記の時代に至ることになる。以後、近世までには徐々に「神門水海」は沖積作用により縮小していく。

現在の出雲平野の景観はほぼ近世になって形成されたものである。斐伊川は、東流して宍道湖に注ぎ、上流からの鉄穴流しにより土砂が流されて天井川となっていく。この堆積状況が中野清水遺跡のボーリング調査により明らかとなっている。「神門水海」は縮小して神西湖となり、肥沃な湿地帯は水利管理されて有数の穀倉地帯となっていく。

高浜Ⅰ遺跡は、この出雲平野の中央北寄りの出雲市里方町、平野町、高岡町にまたがって所在する。遺跡空白地域を挟んだ南側は、縄文時代以降の集落遺跡である矢野遺跡や小山遺跡を中心とする四絡遺跡群が存在しており、出雲平野の形成過程を研究していく上でも重要な地域の一つとなっている。

縄文時代

早期になると菱根遺跡や上長浜貝塚などの遺跡が確認されるようになる。前者は「菱根式」と呼ばれる当地域における早期末の纏維土器の標式遺跡である。後者からは菱根式から前期初頭の轟B式の土器が出土している。山持遺跡からも早期からの土器が出土しており注目される。後期になると三田谷Ⅰ遺跡では土器の他にドングリピットや丸木舟などが確認され、築山遺跡からは後期初頭の中津式土器が出土し、壱丁田遺跡から磨消繩文土器が確認されている。当遺跡に近い矢野遺跡では縄文後期後葉の福田KⅢ式・元住吉山Ⅱ式が採集されている。続く晚期には矢野遺跡のほか、蔵小路西遺跡・善行寺遺跡・築山遺跡・三田谷Ⅰ遺跡・浅柄遺跡・九景川遺跡などから遺物が出土している。また蔵小路西遺跡では縄文晚期の火甕が確認されており、縄文時代晚期までには出雲平野中央部まである程度陸地化していたものと考えられる。

弥生時代

弥生時代になると平野全域に集落が形成され始める。前期には縄文時代から続く山持遺跡・矢野遺跡・築山遺跡・三田谷Ⅰ遺跡・浅柄遺跡・九景川遺跡などのほか、新たに原山遺跡・五反配遺跡・中野美保遺跡・海上遺跡・角田遺跡などが築かれる。墓域としては原山遺跡で前期の配石墓が確認されている。

中期に入ると遺跡は急増し、神戸川などによって生成された自然堤防上には小山遺跡・天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡・田畠遺跡などが知られ、環濠集落の様相を呈した大規模な集落も出現してくる。旧斐伊川の微高地縁辺部に位置する中野清水遺跡、「神門水海」の汀線付近にはサメの絵画土器が出土した白枝荒神遺跡、貝塚のある知井宮多聞院遺跡などが築かれ始める。他地域との交流を示すものとして、北部九州の須玖式土器が出土した天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡、備後北部の塙町式系土器が出土した古志本郷遺跡・下古志遺跡などがある。

後期になると中期に形成された多くの集落が継続して営まれ、遺物量も大幅に増加する傾向にある。平野中央部では姫原西遺跡など新たな遺跡も加わる。山持遺跡・矢野遺跡・白枝荒神遺跡などでは吉備系特殊土器やその模倣品が確認されているほか、西部瀬戸内系の土器も出土する。中野清水遺

跡では西部瀬戸内系・北部九州系土器のほか朝鮮半島系の土器も出土する。また古志本郷遺跡では北部九州の下大隈式土器が出土し、中期から引き続き他地域との交流も活発に行われていたことを窺い知ることができる。

墳墓遺跡としては、中野美保遺跡で中期中葉の方形貼石墓が確認され、青木遺跡では中期後葉の小規模な四隅突出型埴丘墓が築造されている。後期には平野南側の丘陵上に最大級の四隅突出型埴丘墓である西谷3号墓をはじめとする西谷墳墓群が、平野低地部の中野美保遺跡や青木遺跡でも中小規模の四隅突出型埴丘墓が築造されている。また、三田谷I遺跡では方形周溝墓が確認されている。

古墳時代

古墳時代の集落は基本的には弥生時代から継続して営まれているが、小山遺跡・天神遺跡・古志本郷遺跡・下古志遺跡のように前期には大溝への土器廃棄後、衰退する事例が多く、出雲平野の集落は前期以降減少する傾向が認められるようである。中・後期になると南側の丘陵上に位置する長船遺跡・御崎谷遺跡・玉泉寺裏遺跡・九景川遺跡や南側の丘陵下に位置する三田谷I遺跡・浅柄遺跡などが知られる。平野中央部では矢野遺跡・中野西遺跡・中野美保遺跡・井原遺跡など数例しか知られていない。また、御崎谷遺跡・玉泉寺裏遺跡・九景川遺跡などからは建物跡や中期を中心とする多量の遺物が出土しており、この地域に古墳時代中期頃を中心とする大規模な集落が営まれていたものと推測される。

古墳の様相としては、前期から中期初頭は、北山南麓の大寺1号墳・神西湖東岸の山地古墳・浅柄II古墳・間谷東古墳・浅柄北古墳が知られる。当遺跡の北東に位置する大寺1号墳は出雲平野の前期古墳では唯一の前方後円墳である。山地古墳・浅柄II古墳・間谷東古墳は埋葬施設に縪床を備えている。山地古墳は径24mの円墳で筒形銅器や銅鏡など豊富な副葬品を有する古墳である。間谷東古墳は奥才型木棺と称される柏底碟敷の組合式木棺を有する古墳である。奥才型木棺の分布は北部九州から北近畿に限定されていることから、海上交通を中心とした広域な地域間交流が存在していたことが窺える。

中期中葉には神西湖東岸の南側丘陵に出雲平野を見下ろすように北光寺古墳が築造される。全長64mと中期では出雲西部において最大の前方後円墳である。その周辺には箱式石棺を伴う浅柄古墳、全長10mの方墳と推定される丁之内古墳・神戸川と斐伊川に挟まれた南側の丘陵上に全長約15mの方墳と考えられる池田古墳・西谷15号墓、径約11mの円墳である西谷16号墓などの小規模古墳が築かれる。北山南麓の西側には、箱式石棺が確認されている西組古墳、東側にも箱式石棺が確認されている平林寺山6・7号墳・膳棚山3号墳・美談神社1号墳などの小規模古墳が築かれている。

後期になると平野中央部に出雲西部最大クラスの前方後円墳である大念寺古墳・上塩治築山古墳・地蔵山古墳などが築かれるようになる。これらに次ぐ規模の古墳として、神戸川左岸地域で妙蓮寺山古墳や放れ山古墳などが築かれる。後期後葉以降は横穴墓の造墓が盛んに行われ、平野南部の丘陵には上塩治横穴墓群や神門横穴墓群などの大規模な横穴墓群が営まれるようになる。また、築山遺跡では上塩治築山古墳の周辺南東部を囲むように、時期を前後して径10~25m級の円墳7基が築かれ、群集墳の様相を呈している。その副葬品から直ぐ南に広がる上塩治横穴墓群の被葬者と階層差があったと考えられている。また塚山古墳・大槻古墳・宝塚古墳など平野部にも古墳が築かれている。

奈良・平安時代

奈良時代の出雲平野は律令制下の行政区画でいう「出雲郡」と「神門郡」に編成される。高浜I遺

跡は、出雲郡伊努郷と神門郡八野郷の境界付近と推定される。

多くの古代遺跡は、官衙関連遺跡・寺院・神社跡などに比定されており、集落遺跡は少ない。

出雲平野北部の高浜Ⅱ遺跡と平野中央部の東寄りに位置する中野美保遺跡・中野清水遺跡では、建物跡などが検出され古代の遺物が多く出土する。北山裾に位置する下澤遺跡では古墳時代末から8世紀にかけての水田跡を検出している。同じ北山裾に位置する山持遺跡では盛土工事を行なった道路状遺構・畝状遺構・水田耕作跡を検出している。

平野の南部では、多数の掘立柱建物跡が検出された浅柄遺跡、建物跡や多量の遺物が確認されている九景川遺跡、貝塚が形成された上長浜貝塚などが知られている。九景川遺跡は溝により区画された北東部に居住用建物、北西部に倉庫群及びそれに付随する施設が計画的に配置されている。墨書き器「中」「伎」や鉄鉢形土器も出土しており、単なる集落ではないかもしない。『出雲国風土記』の滑狭郷の帖に「都家の南西八里なり。」これは約4.3kmで、九景川遺跡にほぼ一致する。滑狭郷か。また建物の軸方位は、南北正位を志向するものと、当時の山陰道の地割に合わせたものがある。この二つの軸方位は、遺跡から旧山陰道を東へ直進したところに位置する古志本郷遺跡の二時期の官衙建物の軸方位と、それぞれ一致することが指摘されている。また、その中間位置に当たる浅柄遺跡の建物跡の軸も旧山陰道に平行している。上長浜貝塚は砂丘上に位置しており、『出雲国風土記』「神門郡」の帖に「即ち水海と大海との間に山あり。長さ22里234歩、広さ3里あり。此は意美豆努^{おみづね}の國引き坐しし時の綱なり。今俗人、号けて蘭松山と云ふ。地の形体、壤も石も並びになし。白き沙のみ積み上がり。即ち松の林茂繁るも、四風吹く時は、沙飛び流れて松の林を掩ひ埋む。」と記載されている。貝塚は8世紀後半～9世紀に形成されており、土器以外にも製塩土器、大量の土錘・釣針などが出土している。貝塚には『風土記』記述の魚貝以外にもヤマトシジミが大量に出土し、オキアサリ・フグなど多くの貝殻・魚骨が出土している。網漁を中心とした漁労、貝の採取、製塩など漁村の全ての労働が集約された專業的な漁業集落の存在が考えられている。

集落遺跡と考えられる遺跡が少ないため、民が暮らした様子は不明な点が多い。しかし『出雲国風土記』『出雲郡』の帖に「河(旧斐伊川)の両邊は、或いは土地豊かにこえて土穀・桑・麻、稔りたわわに、百姓のうるおいの齒なり。・・・河口より河上の横田村に至るまでの間、五つの郡の百姓、河に便りて居めり」と記載された通りだとすると、民は旧斐伊川の両岸に住まいし、潤った土地で田畠を耕し、河の恵みに恩恵を受けた生活をしていたと思われる。

官衙関連遺跡としては、古志本郷遺跡が神門郡家に、後谷V遺跡が出雲郡家の関連施設として比定されている。

矢野遺跡では、建物跡・倉庫などを伴う屋敷地が5箇所検出され、転用硯、墨書き器「内」「内家」「家」「八内」「大山」「伊」「大」「三」「酒」「専」などが出土した。小山遺跡第3地点では、墨書き器「池内」「井」「人□」やヘラ描土器「井」が出土しているが、計画性に乏しい大型柱穴の建物跡・倉庫・区画溝などが集中する。天神遺跡では、墨書き器「旱天」、縁軸陶器が出土したり、大型の柱穴をもつ建物跡が検出された。三田谷I遺跡では、「八野郷」「高岸」の木簡、墨書き器「神門」、鉄鉢形土器などを出土し、倉庫群を検出した。以上は神門郡の官衙関連施設である可能性が指摘されている遺跡である。

そのほかに、中野清水遺跡からは所在する郷名の「塩治」などの墨書き器・硯・銅製分銅などが出土している。また古志本郷遺跡の郡庁跡中心部から約900m南に所在する古志遺跡は、付近から古瓦が出土する遺跡として注目されていた。発掘調査の結果、多くの建物跡や窓を含む生活具が出土

しており、郡庁の厨か役人の居住域ではないかと考えられる。伊努郷に位置する山持遺跡では、墨書き土器「國益」「益」「華」「圓」「田」「屋」「西 大坏 大木犬」、吉祥天などが書かれた板絵、木簡「伊努郷若倭部□□」「神戸額田部□問」などが道路状遺構から出土しており、その居住域は単なる集落ではないと思われる。出雲郡では多量の墨書き土器や木簡の出土した青木遺跡を出雲郡家の出先機関的功能を備える遺跡と評価する見方もある。

寺院跡としては、『出雲国風土記』記載の「神門郡」朝山郷新造院に比定される神門寺境内庵寺や長者原庵寺が知られている。なお、『風土記』に「神門軍団は、郡家の正東7里（約3.75km）なり」と記されており、長者原庵寺が存在する地域には神門軍団が置かれていたと推定される。大井谷II遺跡では2条の大溝が天応元辛酉（781）年創建とされる般若寺が所在する北の山上から南の谷部に向かって削られており、上流部から流された寺院関係の遺物が出土している。角田遺跡は古瓦が出土する遺跡として知られる。築山遺跡1～4号墳周辺では墳丘部をはずすように建物跡が検出されており、古代には引き続き神聖な場として認識されていたと考えられる（中世には墳丘及び主体部を破壊して集落を築いている）。墨書き土器「佛」「吉」「田」「無」「門」「舍」「家」「酒」「井」、鉄鉢形土器（「勝」の刻文）、水瓶、灯明皿、赤彩土器など仏教関係を思わせる遺物が出土し、この建物跡を含め仏教関連施設があった可能性を示唆している。また約100m東の調査区（5号墳と6号墳の間）では、火葬骨がぎっしりと収められた須恵器蓋壺の埋置された小土壙が検出され、付近には土壙墓も造られている。三田谷I遺跡の官衙関連遺構が集中する丘陵地より更に奥の丘陵地に位置する三田谷II遺跡では、土壙墓5基が確認されている。

上塩治築山古墳と築山遺跡の群集墳、上塩治横穴墓群が集中するこの地域を囲むように、火葬骨を納めた石櫃が出土した光明寺3号墓、菅沢古墓、朝山古墓のほか、石櫃を納めた小坂古墳、西谷古墓などが造られている。この一帯が地域有力者の奥津城であることが認識されており、宗教的な聖域と観念されていたことを物語っている。

このほか「出雲郡」では青木遺跡で、社殿を想定する建物跡が検出されており、「伊努」「美社」の墨書き土器が出土することから伊努社、美談社、縣社などに推定されている。「八野郷」では矢野遺跡で「社」「社司」の墨書き土器が出土することから矢野社に推定されている。現在でも遺跡北西部に八野神社が鎮座する。

中世

高浜I遺跡（1区）では、大規模な造成（盛土）を行なって15～16世紀中心の建物跡、井戸などが検出されている。特殊な木製品や将棋の駒とともに最古の将棋盤が出土していることも特に注目される。高浜I遺跡（2区）では、14世紀中頃～17世紀初頭を中心とした屋敷地を囲む堀と建物跡、井戸、土壙墓などがみつかっている。堀の周囲は遺構の空閑地となっており、土壙が築かれていたものと思われる。

平野中央部に位置する渡橋沖遺跡からは、13世紀前半～14世紀の区画溝を伴う庇付きの総柱建物跡を含み、井戸などが検出される。ミニチュア五輪塔も出土しており一般の屋敷とは差異があるようである。渡橋沖遺跡の約700m東に位置する蔵小路西遺跡では、12世紀後半～15世紀前半の一町四方の屋敷地を囲む幅約4mの堀を検出しており、屋敷地内に建物跡、井戸、木棺墓・土壙墓などが検出された。陶磁器類も多数出土しており、朝山氏または塩治氏の居館跡と推定されている。その北西約10mには小山遺跡第1地点の同時期の土坑・柱穴などがトレンチ調査で検出されており、館

に関わる小集落が存在したと思われる。またこの遺跡の北には、佐々木塙治氏から分かれた三木氏の屋敷跡と伝えられる館跡がある。矢野遺跡では13～14世紀の30m四方の屋敷地を囲む堀状の大溝を検出している。余小路遺跡では、区画溝を伴う建物跡が検出され、中世後半には浜山の南部でも集落を形成できるほど地盤が安定したことがわかる。余小路遺跡の約200m北東に位置する白枝本郷遺跡では、中世後半に南北に走る道路の側溝が検出され、その両側には木棺墓・土壙墓が造られている。この道は墓道と考えられ、その東には建物跡・井戸なども検出されている。旧斐伊川付近の山持遺跡・中野清水遺跡・中野美保遺跡では中世後半には水田耕作地として利用される。

上塙治地域では、角田遺跡・築山遺跡・寿昌寺遺跡で屋敷地を囲む堀を検出している。角田遺跡では12～13世紀の屋敷跡を検出している。築山遺跡では、現在の塙治神社から150m西に15～16世紀の屋敷跡があり、その南には13～14世紀の屋敷跡と14～15世紀の屋敷跡が東西に並ぶ。それらの南には15世紀頃の30m四方の区画溝が検出されている。遺跡南西部には13～14世紀の屋敷跡が検出されている。寿昌寺遺跡では14～15世紀の屋敷跡がある。築山遺跡で検出された15～16世紀の一町四方の屋敷跡は、塙治神社が正徳3（1713）年に現在地に遷座される前の旧塙治神社の敷地内であると考えられる。輸入陶磁器も多数出土し、13～14世紀には舟形木製品を使った祭祀を行なったと考えられる遺構も検出している。遺跡南西部の13～14世紀の想定一町四方の屋敷跡は塙治氏の推定居館跡地に位置しており、南東部調査地からは塙治氏家紋入りの漆器碗が出土している。ほかに塙治氏の館跡候補地として、土塁や堀の痕跡が残る淨音寺境内館跡がある。

神戸川左岸では、下古志遺跡で、幅約2mの堀や建物跡、井戸などを伴う16～17世紀頃の屋敷地と考えられる区画を検出している。屋敷外からは溝・建物跡・井戸・畝状の耕作跡が検出されている。これらは古代の遺構の集中箇所をずらして作られたようである。古志本郷遺跡でも古代遺構の集中する箇所とは多少ずれながら、区画溝を伴った建物跡、井戸がセットで検出されている。また遺跡中央の正法寺が存在していたとされる付近からは15世紀後半～17世紀の土壙墓が集中して検出されている。建物跡・井戸も検出されており、墓地を伴う寺跡の可能性が高い。また遺跡の北端にも15～17世紀の火葬墓・土壙墓が集中し、一部は古代の郡庁跡を壊している。

上長浜貝塚では、12世紀に再び貝塚が形成されるが、古代後半から「神門水海」が埋没し沼地化するに従い、飛砂も増えて漁業集落として機能しなくなる。「神門水海」の南部神西湖の南丘陵上に位置する九景川遺跡では、小貝塚を複数形成し鯨骨・漁労具などが出土することから、漁労も行なっていたと思われる。

寺院跡としては、大井谷II遺跡があげられる。古代と13世紀の大溝がいずれも15世紀頃に埋没し、その後般若寺への参道かと思われる階段状遺構、五輪塔を伴う墓域、建物跡、石敷き遺構などが造られている。荻抒古墓では常滑焼の大甕に青磁碗・皿を副葬している。姫原西遺跡では中世後半の木棺墓が墓域を形成する。天神遺跡では遺跡北西部のL字状に区画した溝内に土壙墓が築かれている。また寿昌寺遺跡では東側に位置する（通称）中屋山で近世に土留めとして再利用された石塔が見つかっており、中世にその中腹に墓地があったと考えられている。

室町時代から戦国時代にかけて多数の山城が築かれる。当遺跡の北東の丘陵上には戦国時代に鳶ヶ巣城が築かれる。尼子氏復興戦の際には毛利氏による高瀬城攻略拠点となつたことで著名である。斐伊川・神戸川の南丘陵寄りには、塙治氏との関わりが指摘される半分城跡・権現山城跡・大井谷城跡、向山城跡がある。向山城跡のすぐ北には平家に関わる城との伝承を持つ平家丸城跡が所在する。神戸

川左岸には、神西氏の居城である**神西城跡**、保知石氏の居城である**高城跡・智伊郎跡**がある。比布智神社のある独立丘陵の頂部には土塁で囲繞された**比布智館跡**が存在する。また古志氏の居城である淨土寺山城跡・栗柄城跡がある。神戸川上流の朝山には、朝山氏の居城である**姉山城跡**、土塁の残る唐墨城跡がある。斐伊川左岸をやや遡ると龍谷山城跡、畠ノ前城跡、上ノ郷氏の居城である**上ノ郷城跡**が斐伊川沿いに所在する。

近世

高浜Ⅰ遺跡（3区）では水田耕作地・墓域が検出され、**高浜Ⅱ遺跡**では墓域として利用される。

平野中央部に位置する**矢野遺跡**第2地点では、中世後半の居住域の後に建物跡・水溜め・井戸・土壤墓が、第3地点では墓域が検出されている。**小山遺跡**第2地点では、宅地跡の調査で、当該期の区画溝を伴う屋敷跡が検出されており、近世の居住地が現在の宅地として継続している様子が伺われる。**中野美保遺跡**では中世から近世にかけて遺跡全体が水田耕作地となり、人・牛の足跡が多数検出されている。旧斐伊川の洪水により水田を1～2回復旧した跡も確認されている。**余小路遺跡**では中世の屋敷地が近世まで利用されている。近世になると屋敷地内と外に土壤墓・木棺墓・桶棺墓群が4箇所認められる。遺跡のすぐ北側では高瀬川の普請が真享4（1687）年に行なわれており、それに関連する遺跡の可能性がある。**白枝本郷遺跡**では中世の堀を壊して建物を建てている。**井原遺跡**では当該期の水路及び西側の微高地側に土壤墓などが検出されている。**毛丁田遺跡**の南部では、多くの土壤墓・木棺墓・骨壺墓が集中して検出されている。宝暦4（1754）年『神門郡北方萬指出帳』には、付近に「長圓寺」という寺が存在していたという記載があり、その寺の墓地の可能性がある。

塩冶地域では、天神遺跡で旧河道上の湿地になっている区間に石を敷いて安定させた道状遺構を検出している。角田遺跡では木棺墓と桶棺墓が近距離で検出されている。**築山遺跡**の東丘陵に位置する上塙治横穴墓群第40支群6・7号穴墓道上付近には土壤墓が集中して出土している。上塙治横穴墓群第33支群3～7号穴付近では、石塔がグループをなして出土しており、中世末～近世初頭にかけての墓地と考えられる。その石塔は、谷を挟んだ東側にある権現山石切場で製作されたものと考えられている。

神戸川左岸に位置する古志本郷遺跡では旧山陰道の周辺に建物跡が、遺跡中央の正法寺跡と思われる周辺に水田耕作地と建物跡が集中している。下古志遺跡の北西部では、早くに水田耕作地となり、牛の足跡が検出されており牛耕を行なっていたようである。南部では中世からの屋敷地が継続していくが、近世半ば頃には廃絶され水田耕作地となっている。

各遺跡の詳細は、「第1表 古代～近世前半 遺跡一覧表」（P.61～67）にまとめている。

【古代以降の参考文献】

高浜Ⅰ道路

島根県教育委員会「高浜Ⅰ道路」『一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2011
島根県教育委員会「高浜Ⅰ道路（2工区）」『一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3』2016
九景川道路

島根県教育委員会「九景川道路」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1』2008

島根県教育委員会「九景川道路」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2017

玉泉寺遺跡

島根県教育委員会「玉泉寺裏遺跡」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1』2008

島根県教育委員会「玉泉寺裏遺跡」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2017

御崎谷道路

島根県教育委員会「御崎谷道路」『一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3』2009

浅柄道路

出雲市教育委員会「浅柄道路」『西出雲駅南地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

浅柄Ⅱ道路

島根県教育委員会「浅柄Ⅱ道路」『山陰自動車道鳥取益田線（宍道～出雲間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2』2005

浅柄Ⅲ道路

島根県教育委員会「浅柄Ⅲ道路」『一般国道 9 号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4』2017

下古志道路

出雲市教育委員会「下古志道路」『一般県道多伎江南出雲線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2001

出雲市教育委員会「下古志道路」『平成 11 年度古志遺跡群範囲確認調査報告書』2002

出雲市教育委員会「下古志道路一考察編一」『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 12 集』2002

島根県教育委員会「下古志道路（第 3 次調査）」『一般県道多伎江南出雲線地域活動基盤創造交付金（交通安全）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2012

田畠道路

東森市良「破壊に瀕している低湿地遺跡」『季刊文化財 第 20 号』1973 島根県文化財愛護協会

田中義典・宮本正義「出雲市田畠遺跡出土の弥生土器について」『山陰地域研究 第 5 号』1989 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「田畠遺跡」『市道浅柄古志線歩道設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

古志本郷道路

出雲市教育委員会「古志本郷道路」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 4 集』1994

出雲市教育委員会「古志本郷道路」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 5 集』1995

出雲市教育委員会「市道本郷新宮線道路改良工事に伴う古志本郷道路第 6 次発掘調査報告書』1998

出雲市教育委員会「古志地区土地改良事業地内古志本郷道路発掘調査報告書』1999

島根県教育委員会「古志本郷道路」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 VI』1999

島根県教育委員会「古志本郷道路Ⅱ」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XI』2001

島根県教育委員会「古志本郷道路Ⅲ」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XII』2001

島根県教育委員会「古志本郷道路Ⅳ」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 14』2002

出雲市教育委員会「古志本郷道路」『平成 11 年度古志道路群範囲確認調査報告書』2002

島根県教育委員会「古志本郷道路Ⅴ」『出雲國門郡家連通跡の調査』『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVI』2003

島根県教育委員会「古志本郷道路VI～K 区の調査」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XVI』2003

古志遺跡

出雲市教育委員会「古志遺跡」「古志運動広場等整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2005

小山田横穴墓群 1（神門横穴墓群第 10 支群）

出雲市教育委員会「小山田横穴墓群 1（神門横穴墓群第 10 支群）」「十間川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1995

三田谷 1 道跡

島根県教育委員会「三田谷 1 道跡 Vol.1」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 V』1999

島根県教育委員会「三田谷 1 道跡 Vol.2」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 VI』2000

島根県教育委員会「三田谷 1 道跡 Vol.3」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 IX』2000

出雲市教育委員会「三田谷 1 道跡」「塙治 299 号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2000

三田谷 II 道跡

島根県教育委員会「三田谷 II 道跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 I』1994

権現山石切堀跡

島根県教育委員会「権現山石切堀跡」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XV』2003

上塙治横穴墓群

島根県教育委員会「上塙治横穴墓群第 7・12・22・23・33・35・36・37 支群」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 IV』1998

出雲市教育委員会「上塙治横穴墓群第 33 支群」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 14 集』2004

出雲市教育委員会「上塩治横穴墓群第40支群」「県道出雲三刀屋線・塩治工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告32 2016

上沢Ⅲ遺跡

島根県教育委員会「上沢Ⅲ遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XIII」2001

長堀遺跡

島根県教育委員会「長堀遺跡(Vol.1)」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XIV」2001

島根県教育委員会「長堀遺跡(Vol.2)」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 XV」2003

出雲市教育委員会「長堀遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書 IV」2003

大井谷Ⅱ遺跡

出雲市教育委員会「大井谷Ⅱ遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 III」2001

出雲市教育委員会「大井谷Ⅱ遺跡」「斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書 IV」2003

寿昌寺遺跡

出雲市教育委員会「寿昌寺遺跡」「出雲市梁山土地区調整事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2004

築山遺跡

出雲市教育委員会「塩治宮跡」2003

出雲市教育委員会「塗山古墳」2004

出雲市教育委員会「築山遺跡」「出雲市築山土地区調整事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2004

出雲市教育委員会「築山遺跡 I」「県道出雲三刀屋線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2005

出雲市教育委員会「築山遺跡 II」「県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2007

出雲市教育委員会「築山遺跡 III」「県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告 5 2009

出雲市教育委員会「築山遺跡 IV」「県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告 6 2009

出雲市教育委員会「築山遺跡」「平成 26 年度出雲市文化財調査報告書」出雲市の文化財報告 27 2015

角田遺跡

出雲市教育委員会「角田遺跡」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 5 集」1995

出雲市教育委員会「角田遺跡」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 8 集」1998

出雲市教育委員会「角田遺跡第 3 次発掘調査報告書」「都市計画道路天神一の谷線道路改良事業地内」2004

出雲市教育委員会「角田遺跡」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第 16 集」2006

神門寺境内廃寺・神門寺付近道路

池田満雄「史跡、初期寺院址」「出雲市の文化財－出雲市文化財調査報告第一集－」1956 出雲市教育委員会

出雲市教育委員会「神門寺境内廃寺－第 1 次発掘調査概報－」1983

出雲市教育委員会「神門寺境内廃寺－第 2 次発掘調査概報－」1984

出雲市教育委員会「神門寺境内廃寺」1985

出雲市教育委員会「神門寺付近道路」「出雲市都市計画道路（医大前新町線 3 工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告 9 2009

出雲市教育委員会「神門寺付近道路 II」「出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2」出雲市の文化財報告 13 2010

出雲市教育委員会「神門寺付近道路 III」「出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3」出雲市の文化財報告 23 2013

高西遺跡

出雲市教育委員会「高西遺跡」「出雲市都市計画道路医大前新町線 3 工区道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3」出雲市の文化財報告 23 2013

天神遺跡

池田満雄「考古資料」「出雲市の文化財－出雲市文化財調査報告第一集－」1956 出雲市教育委員会

出雲市「[出雲市天神遺跡調査の記録]」1972

東森市良「破壊に瀕している低湿地遺跡」「季刊文化財 第 20 号」1973 島根県文化財愛護協会

出雲市教育委員会「天神遺跡」「国立島根医科大学教職員宿舎建設にかかる緊急発掘調査概報」1977

出雲考古学研究会「天神遺跡の諸問題－ 78 年発掘調査報告－」「古代の出雲を考える 1」1979

大國晴雄「天神遺跡の問題」「菅谷考古第 15 号」1979 島根大学考古学研究会

出雲市教育委員会「建設者職員宿舎新築に伴う天神遺跡発掘調査報告書」1982

出雲市教育委員会「建設者職員宿舎新築に伴う天神遺跡発掘調査報告書 IV」1986

出雲市教育委員会「出雲市駅付近連続立体交叉事業地内天神遺跡第 7 次発掘調査報告書」1997

出雲市教育委員会「建設者職員宿舎新築に伴う天神遺跡第 8 次発掘調査報告書」1996

出雲市教育委員会「出雲市駅付近連続立体交叉事業地内天神遺跡第 9 次発掘調査報告書」1999

出雲市教育委員会「天神遺跡（第 10 次発掘調査）」「市道山底本線北沿線混層予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2002

出雲市教育委員会「（社）中国建設弘済会事務所建設に伴う天神遺跡第 11 次発掘調査」2001

出雲市教育委員会「天神遺跡第 12 次発掘調査」「市道山底本線南沿線設置予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2002

藤ヶ森南遺跡

出雲市教育委員会「藤ヶ森南遺跡」「出雲郵便局移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1999

藤ヶ森道路

出雲市教育委員会「藤ヶ森道路(Ⅰ地点・Ⅱ地点)発掘調査報告書」「JR山陰本線・私鉄一畑電鉄連続立体交差事業地内」1998
出雲市教育委員会「藤ヶ森道路」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第11集」2001

善行寺道路

出雲市教育委員会「善行寺道路」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第7集」1997

海上道路

出雲市教育委員会「海上道路」「出雲市民病院移転予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」2002

余小路道路

島根県教育委員会「余小路道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8」2007

島根県教育委員会「余小路道路(2)」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9」2008

出雲市教育委員会「余小路道路」「神戸川(赤川)広域基幹河川改修事業埋蔵文化財発掘調査報告書」「出雲市の文化財報告2」2008

白枝本郷道路

島根県教育委員会「白枝本郷道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7」2006

志田田道路

出雲市教育委員会「出雲市駅前白枝線街路事業地内志田田道路発掘調査報告書」1998

出雲市教育委員会「志田田道路(2次調査)」「都市計画道路「出雲市駅前白枝線」街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」「出雲市の文化財報告3」2008

白枝荒神道路

出雲市教育委員会「白枝荒神道路」「市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」1997

出雲市教育委員会「白枝荒神道路」「白枝地区ふるさと農道整備事業に伴う発掘調査報告書」2002

井原道路

出雲市教育委員会「井原道路発掘調査報告書」「新内藤川広域基幹河川改修事業地内」2002

出雲市教育委員会「井原道路」「白枝地区ふるさと農道整備事業に伴う発掘調査報告書」2002

渡橋沖道路

島根県教育委員会「渡橋沖道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告3」1999

藏小路内道路

島根県教育委員会「藏小路西道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告2」1999

柳原西道路

島根県教育委員会「姫原西道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告1」1999

出雲市教育委員会「姫原西道路」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第9集」1999

上長浜貝塚

出雲市教育委員会「上長浜貝塚」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第1集」1988

出雲市教育委員会「上長浜貝塚」1996

中野西道路

出雲市教育委員会「中野西道路」「出雲市北部第二土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書」2002

中野美保道路

出雲市教育委員会「中野美保道路」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第11集」2001

島根県教育委員会「中野美保道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4」2004

出雲市教育委員会「中野美保道路」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第15集」2005

中野清水道路(大津町北道路は含める)

島根県教育委員会「中野清水道路・大津町北道路」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5」2004

島根県教育委員会「中野清水道路(2)」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6」2005

島根県教育委員会「中野清水道路(3)」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書7」2006

矢野道路

山本清「弥生式文化」「新修島根県史 通史篇1 考古・古代・中世・近世」1968 島根県

東市森「破壊に瀕している低湿地道路」「季刊文化財 第20号」1973 島根県文化財愛護協会

池田謙雄・足立克巳「出雲市矢野道路出土の縄文土器」「鳥根考古学会誌 第4集」1979

出雲考古学研究会「出雲市矢野道路出土の特殊器台形・壺形土器」「八表立つ楓上記の丘 No.74」1985 島根県立八雲立つ楓上記の丘

出雲考古学研究会「矢野道路とその周辺」「古代の出雲を考える 5 由雲平野の集落遺跡II」1986

田中義昭ほか「出雲市矢野道路の研究(1)」「山陰地域研究 第3号」1987 島根大学山陰地域研究総合センター

島根県教育委員会「古代玉作道路の概要 矢野道路」「島根県生産道路分布調査報告書IV 玉作関係道路」1987

田中義昭ほか「出雲市矢野道路の発掘調査」「古代出雲文化の展開に関する総合的研究—斐伊川下流域を中心として—」1989 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「矢野道路」「出雲健康公園整備プロジェクト事業に伴う 矢野道路第2地点発掘調査報告書」1991

田中義昭「出雲市矢野道路第1地点の調査」「古代金属生産の地域的特性に関する研究—山陰地方の銅・鉄を中心にして—」1992 島根大学山陰地域研究総合センター

出雲市教育委員会「矢野道路」「四絃地区道路発掘調査報告書」1992

- 出雲市教育委員会「矢野遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第10集』2000
- 出雲市教育委員会「矢野遺跡」「新内藤川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告 10 2010
- 大塚遺跡
出雲考古学研究会「矢野遺跡とその周辺」『古代の出雲を考える 5 出雲平野の集落遺跡Ⅱ』1986
- 島根県教育委員会「大塚遺跡」「一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1」2009
- 小山遺跡
田中義昭「出雲市小山遺跡第1地点の調査」『古代金属生産の地域的特性に関する研究—山陰地方の銅・鉄を中心にして—』1992 島根大学山陰地域研究総合センター
- 出雲市教育委員会「県立看護短期大学教員宿舎整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 小山遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第6集』1996
- 出雲市教育委員会「市道渡橋平野線道路改良工事に伴う 小山遺跡第2地点発掘調査報告書」1998
- 出雲市教育委員会「平成9年度島根県立看護短期大学教員宿舎建設に伴う 小山遺跡発掘調査報告書」1999
- 出雲市教育委員会「平成12年度市道四輪30号外1線道路改良工事に伴う 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第3次発掘調査）」2002
- 出雲市教育委員会「平成12年度四輪相撲相撲改良事業に伴う 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第4次発掘調査）」2002
- 出雲市教育委員会「四輪30号外1線改良工事地内 小山遺跡第3地点発掘調査報告書（第5次発掘調査）」2005
- 出雲市教育委員会「小山遺跡」『平成23年度出雲市文化財調査報告書』出雲市の文化財報告 20 2012
- 高浜II遺跡・里方八石原遺跡
出雲市教育委員会「里方八石原遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第8集』1998
- 出雲市教育委員会「高浜II遺跡」『高浜地区ふるさと農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1999
- 出雲市教育委員会「高浜II遺跡」『出雲市埋蔵文化財調査報告書 第10集』2000
- 下澤遺跡
島根県教育委員会「下澤遺跡」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 11」2013
- 里方本郷道路
島根県教育委員会「里方本郷道路」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6」2008
- 高岡遺跡
出雲市教育委員会「高岡遺跡」「出雲ジンテンドー般地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」2000
- 高岡II遺跡
出雲市教育委員会「高岡II遺跡」「出雲市埋蔵文化財調査報告書 第16集」2006
- 山持遺跡（山持川川岸遺跡を含める）
島根県教育委員会「2 出雲・山持川川岸遺跡」「島根県埋蔵文化財調査報告書 第17集」1981
- 出雲市教育委員会「山持川川岸遺跡」1996
- 島根県教育委員会「山持遺跡 Vol.1」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2」2005
- 島根県教育委員会「山持遺跡 II・III 区 Vol.2」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 IV」2007
- 島根県教育委員会「山持遺跡（IV 区）Vol.3」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 V」2007
- 島根県教育委員会「山持遺跡 4(5・7 区)」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6」2008
- 島根県教育委員会「山持遺跡（6 区）Vol.5」「国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 7」2009
- 出雲市教育委員会「山持遺跡」『平成23年度出雲市文化財調査報告書』出雲市の文化財報告 20 2012
- その他
出雲市教育委員会「出雲市の文化財－出雲市文化財調査報告第一集－」1956
- 島根県教育委員会「出雲・上坂治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書」1980
- 出雲市教育委員会「古墳と城跡」「出雲市の文化財」1981
- 出雲考古学研究会「出雲平野の集落遺跡」『古代の出雲を考える 3』1983
- 出雲市教育委員会「塩治地区遺跡分布調査」1986
- 出雲市教育委員会「塩治地区道路分布調査 II」1987
- 出雲市教育委員会「古志地区道路分布調査報告書」1988
- 田中義昭・西尾克己「出雲平野における原始・古代集落の分布について」『山陰地域研究 第4号』1988 島根大学山陰地域研究総合センター
- 出雲市教育委員会「神門地区遺跡詳細分布調査報告書」1989
- 西尾克己・大國晴雄「出雲平野の古墳」『出雲市民文庫9』1991 出雲市教育委員会
- 出雲市教育委員会「出雲市遺跡地図」1993
- 出雲市教育委員会「遺跡が語る古代の出雲」1997
- 島根県教育委員会「出雲・隠岐の城館跡」「島根県中世城館跡分布調査報告書 <第2集>」1998
- 松本岩雄・松尾充晶「史料編（民俗・考古資料）」「大社町史」2002 大社町
- 佐藤 謙「出土文字資料が語るあたらしい古代史像」「出土文字資料が語る古代の出雲平野 平成15年度島根県埋蔵文化財調査センター講演会資料」2004 島根県埋蔵文化財調査センター
- 藤永照蔵「遺跡の分布からみた出雲平野の古地理再考」「八雲立つ風上記の丘 No.182」2005 島根県立八雲立つ風上記の丘
- 米田美江子「遺跡分布から見た出雲平野の形成史」「島根考古学会誌 第23集」2006 島根考古学会
- 出雲塩冶町刊行委員会「出雲塩冶誌」2009
- 京都国立博物館・島根県立古代出雲歴史博物館「古事記1300年・出雲大社遷宮特別展覧会 大出雲展」2012
- 高浜歴史研究会「高浜探跡」2015

第3章 高浜I遺跡

第1節 調査の概要（第2図～第9図）

高浜I遺跡は県道斐川・大社線の北側から一畠電鉄大社線の南側にかけて広がる大規模な集落跡である。調査区は東西に延びる水路により南北に分かれるため、北を3-1区、南を3-2区とした。3-1区は宅地、3-2区は畑および水田として利用されていた。調査前の標高は3-1区が4.8m、3-2区が3.9m前後であった。

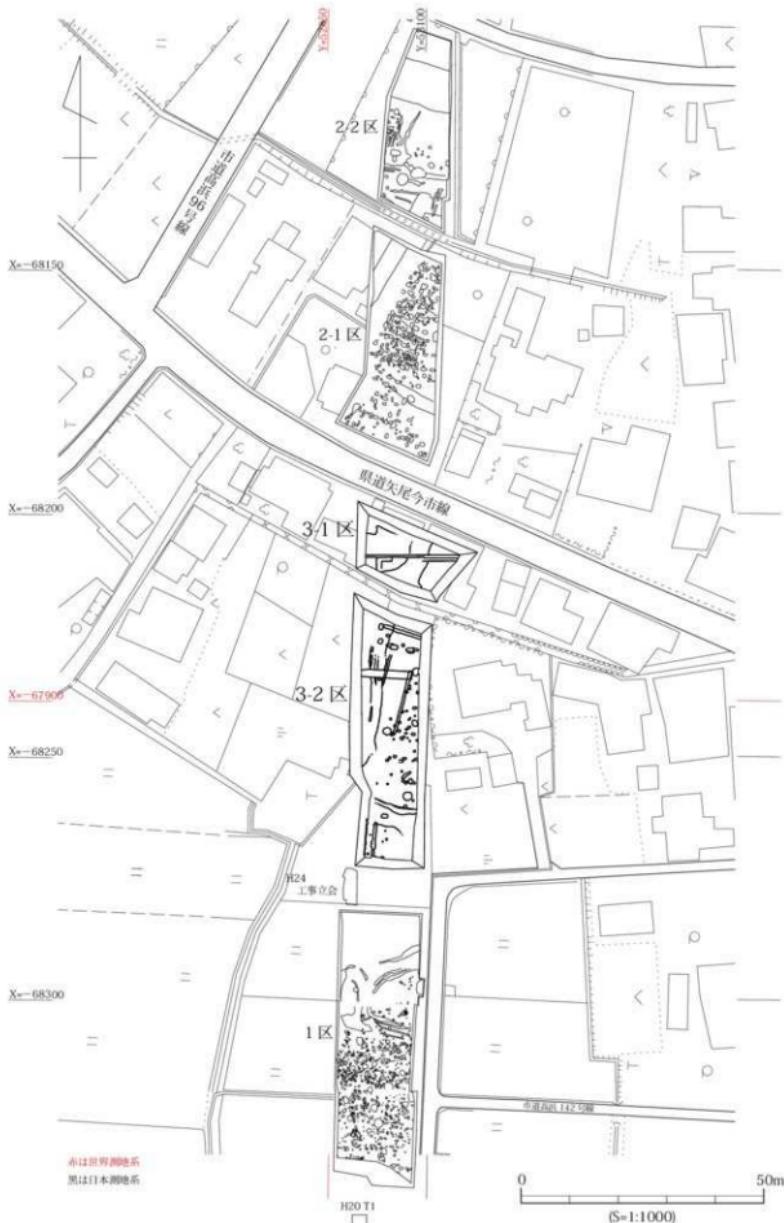
調査は国土座標、 $X = -67860$ と $Y = 52850$ の交点を基準に、10mメッシュでグリッドを設定し、遺構に伴わない遺物の取り上げをおこなった（第4図）。

3-1区は宅地造成土の下層には、旧水田耕作土と思われる粘質土と砂質土が堆積する（5・6・7層）。その下層、標高3.4～3.5mで青灰色～黄灰色粘質土（基盤層）となる。基盤層の上面は平たんではなく、調査区中央や東端で浅く窪み、砂質土（10層・20層）が堆積する。この堆積は南北方向の自然河道（NR02）によるものと思われる。基盤層は北側の2区で検出した硬い黄褐色土と異なり、グライ化した粘質土となっている。遺構は確認されず、2区の屋敷地が営まれた時期には居住域ではなかったと思われる。遺物は表土（2層）から最下層の青灰色砂質土（20層）まで混ざっている。

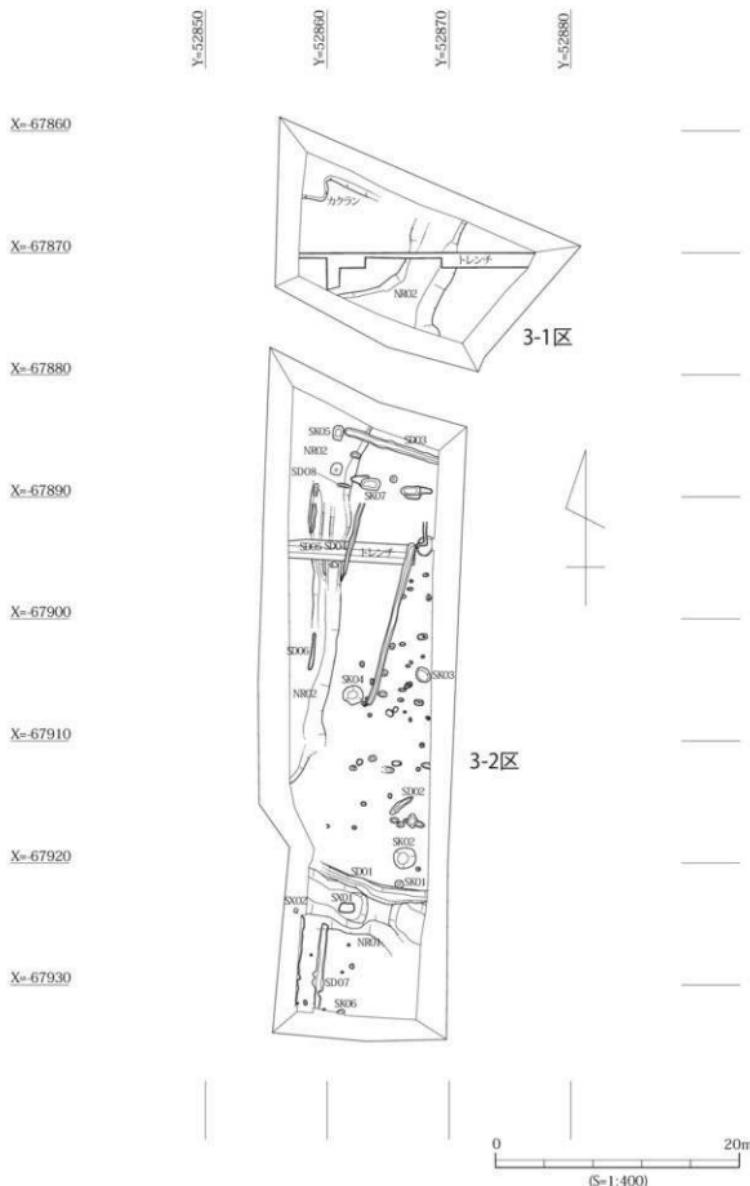
3-2区では畑・水田耕作土の下層で硬い褐色土の基盤層を検出した。標高は3.8～3.5mで、調査区中ほどでは茶褐色土（10層）と灰色土（9層）を盛り土し遺構面としている。茶褐色土には、わずかに遺物が含まれていた。第9図の1は調査区東壁で出土した。須恵器甕の胴部破片である。焼しきが甘く、内外面・断面が摩耗している。外面に平行タタキ、内面に同心円當て具痕がみえる。2は中世須恵器系の鉢である。底部内面に細かいハケ調整をし、体部は放射状に粗いハケ調整をする。3は「壺」系陶器の甕で、備前焼の可能性がある。1区でも須恵器・土師器の細片が混ざった整地層が確認されている。調査区の整地層には中世後期の遺物が混ざっており、1区とは整地された時期が異なるものと思われる。遺構面は調査区北東に向けて高くなる。この遺構面は西側を流れる自然河道NR02、南側のNR01上面につながっている。NR01の南側には硬い基盤層はみられず、グライ化した青灰色土となる。NR01が削り込んでいる青灰色粘質土からは、第9図4の須恵器高台付き壺が1点出土したのみである。同じ青灰色粘質土は南側の1区にもみられ、上面から鉄錐と木製品が出土している。この層は厚さ1m以上堆積し、さらに下層で腐食土層（オモカス層）を確認している。1区と3区の間には自然河道が流れ、周間に湿地がひろがっていたことがわかる。

調査の結果、柱穴50基あまりと溝8条、土坑7基、墓2基のほか、自然河道2条を検出した。柱穴・土坑は調査区東寄り、B4・B5・B6グリッドを中心に検出している。柱穴のなかに、盛り土を掘り下げる段階で検出したものもある。土坑は切り合い関係や出土遺物から、いずれも近世・近代の廃棄土坑と考えられる。

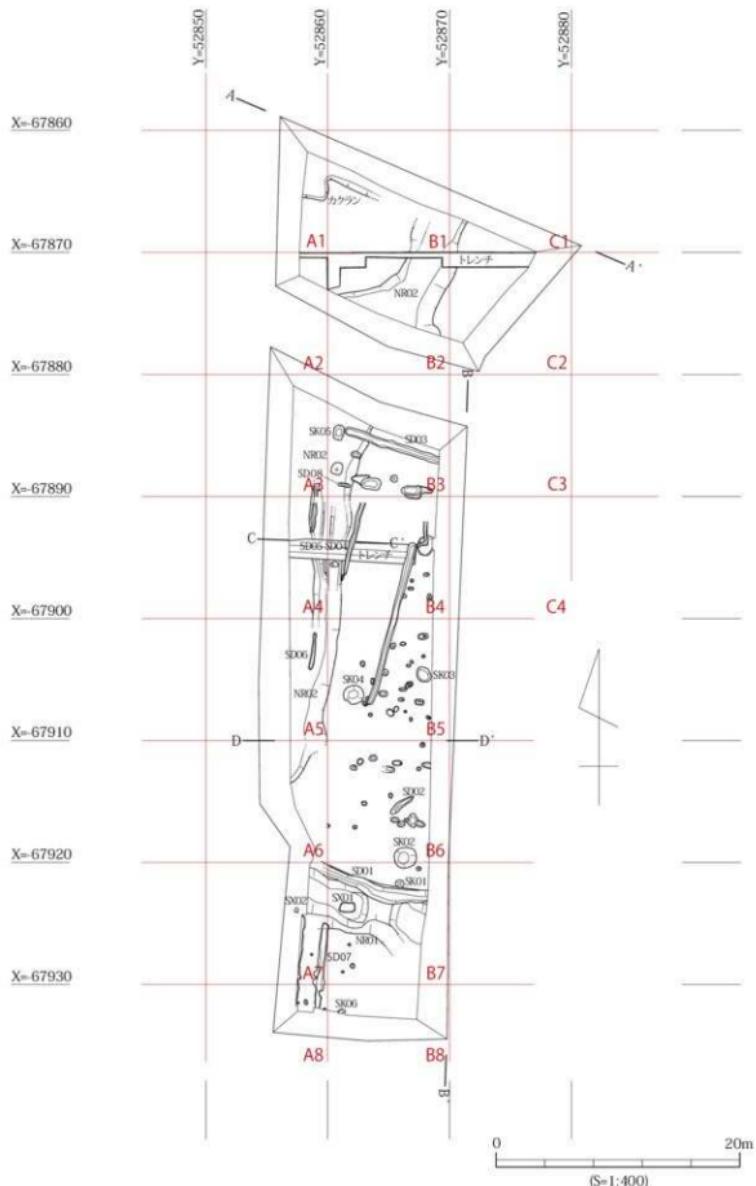
また遺構に伴わないが中世の土師器、石鍋、青磁のほか、近世以降の陶磁器類が多数出土している。近世・近代の遺物は3-2区A3・B3・C3グリッドで多くみられる。北側を流れる水路の浚渫などに伴い、廃棄されたものと思われる。



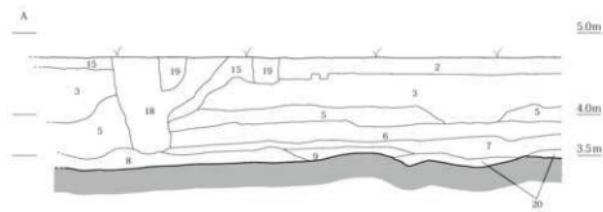
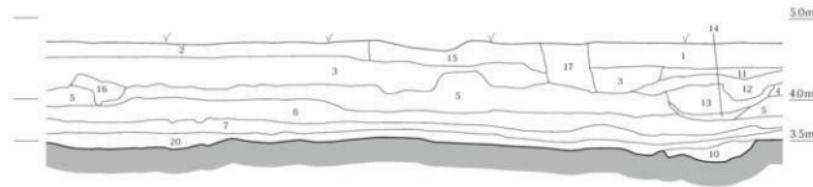
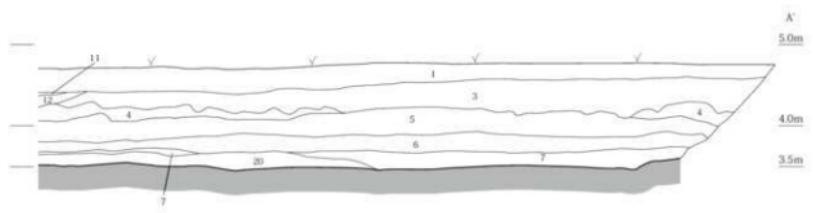
第2図 高浜1遺跡調査区配置図



第3図 調査区全体図



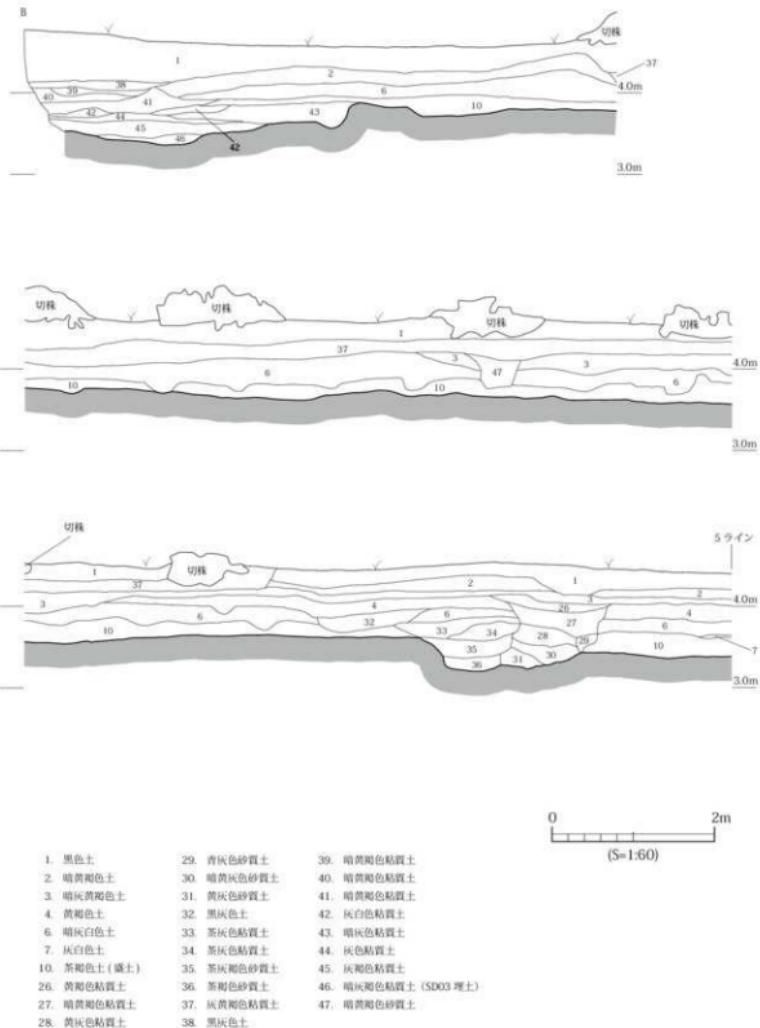
第4図 調査区グリッド配置図



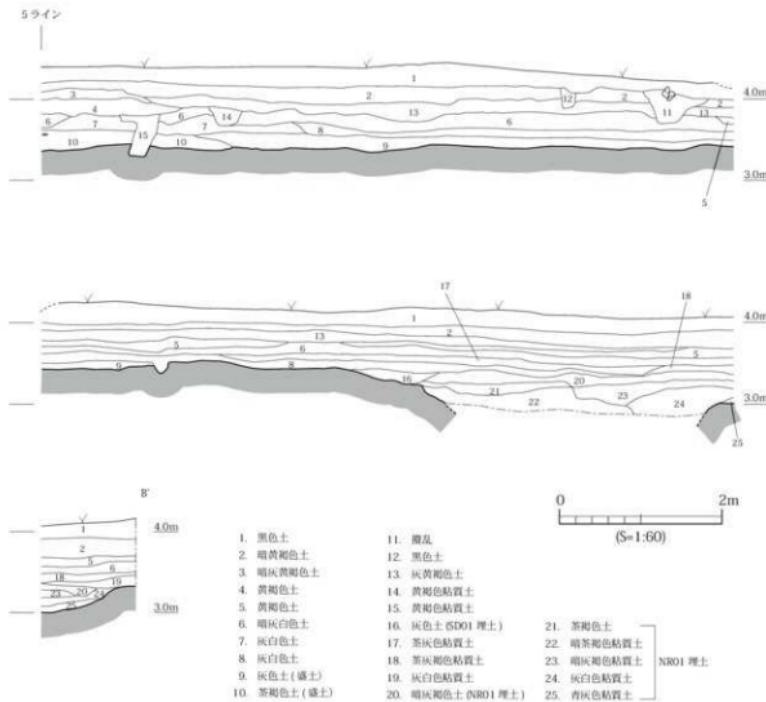
- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. パラス | 11. 茶褐色砂質土(造成土) |
| 2. 表土 | 12. 灰色土(鉄分含) |
| 3. 黑褐色土(造成土) | 13. 黄灰色砂質土 |
| 4. 灰色土 | 14. 灰色土(溝の堆積土) |
| 5. 灰色粘質土 | 15. 真砂土 |
| 6. 灰色砂質土 | 16. 瓢瓦 |
| 7. 灰白色粘質土 | 17. 離瓦 |
| 8. 黑褐色粘質土 | 18. 漏瓦 |
| 9. 灰白色土 | 19. 水路跡 |
| 10. 青灰色砂質土 | 20. 青灰色砂質土 |

0 2m
(S=1:60)

第5図 3-1区北壁上層断面図



第6図 3-2区東壁土層断面図(1)



第7図 3-2区東壁土層断面図(2)

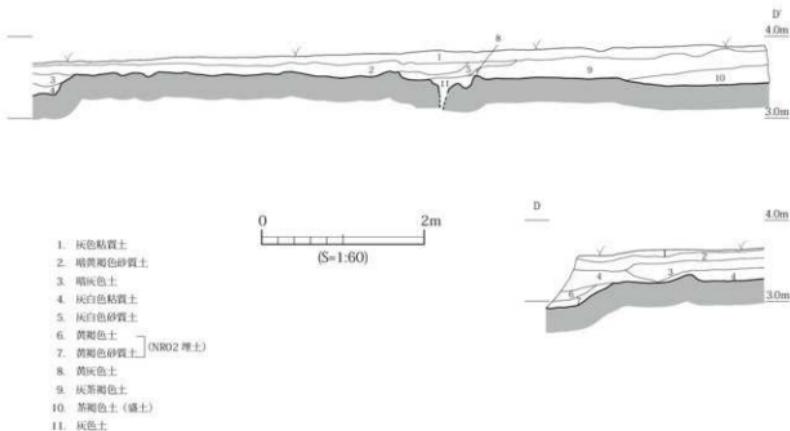
第2節 遺構の調査

1. 柱穴群(第10図～第14図・第16図・第17図)

B4・B5・B6グリッドで柱穴群を検出した。柱穴は50基あまりだが、建物は復元できなかった。柱穴は直径30～50cm、検出面からの深さ20～30cm前後である。さらに小型で浅いピットもあり、遺構の性格は明確でない。2区建物跡の柱穴は径・深さともに1m前後あるのに対し、3区は小規模である。埋土は大きく灰褐色土と淡灰色・灰色土に分かれる。遺構は切り合い、整地層を掘り下げて確認したものもあるため、すべて同時期ではない。遺物が出土していないため時期は不明である。ピット33・ピット46には柱根が残っていた(第14図)。

柱穴出土遺物(第18図)

ピット33の柱根である。長さ85.5cm、最大径16.5cmの芯持材である。先端は粗くはつって平らに仕上げている。側面には1か所、えつり孔が彫り込まれている。えつり孔は幅5.0～6.5cm、深さ4.0cm前後の不整な長方形をしている。



第8図 3-2区5ライン土層断面図

2. 溝状遺構

自然流路に平行する水路と思われる溝跡 (SD01・04・05)、現在の水路に平行するもの (SD03)、水田耕作に関係する溝跡 (SD07 など)などを検出した。時期は SD01 が 16 世紀以降、SD03・04・05 が 17 世紀以降、SD07 が 18 世紀以降と思われる。

SD01 (第16図・第23図) 自然河道 NRO1 の埋め戻しの後に開削されている。南西から北東に延びる。幅 90 ~ 110cm 前後、深さ 20cm である。石が多数含まれており、溝の埋没時に投棄されたと考えられる。

SD02 (第12図・第15図) B6 グリッドで検出した長楕円形の溝である。長さ 2.1m、深さ 5 ~ 10cm、幅 50cm 前後である。

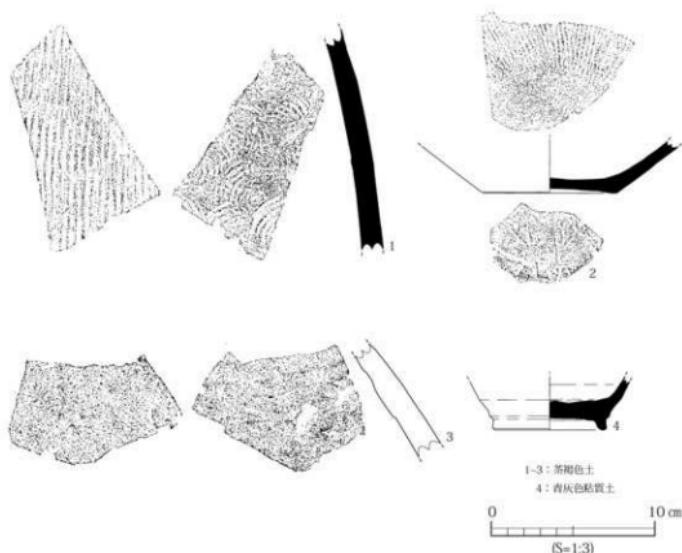
SD03 (第10図) NRO2 埋没後に開削されている。東西方向に延び、幅 60cm 前後である。この溝跡は北側を流れる水路と平行する。南側には杭列や SK07 など近代以降の廃棄土坑が造られていた。

SD04・05 (第4図・第10図・第12図・第24図) NRO2 埋没後に開削されている。南北方向に平行して延び、SD05 が新しい。SD04 を埋め立てて居住域を広げている。規模は幅 80 ~ 130cm 前後、底面の標高は 3.1m である。

SD06 (第12図) SD04・05 の埋没後に開削されている。南北方向に延びる溝で、幅 20 ~ 30cm、深さ 16cm。近代以降と思われる。

SD07 (第16図) A7・A8 グリッドで検出した。幅 45 ~ 50cm、深さ 10cm 前後である。埋土は灰色土である。西に平行して流れる溝がある。

SD08 (第10図) NRO2 埋没後に掘削されている。東西方向に長い長楕円形をしている。長さ 1m、幅 22cm、深さ 30cm である。



第9図 3-2 区茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物実測図

溝状遺構出土遺物（第19図）

SD01 からは産地不明の陶器が出土している（図版 18-1 No.1）。SD03 からは 1・2 が出土した。どちらも土師器鉢で 1 は口縁部、2 は底部の破片である。1 は内面に煤が付着している。2 は剥落により外面が凸凹している。内面には粗いハケメを施す。SD07 からは、青磁輪花碗の小片（図版 18-1 No.2）が出土している。SD08 からは 3 の肥前陶器が出土している。内外面に白化粧のハケメを施す。18世紀前半。

3. 土坑

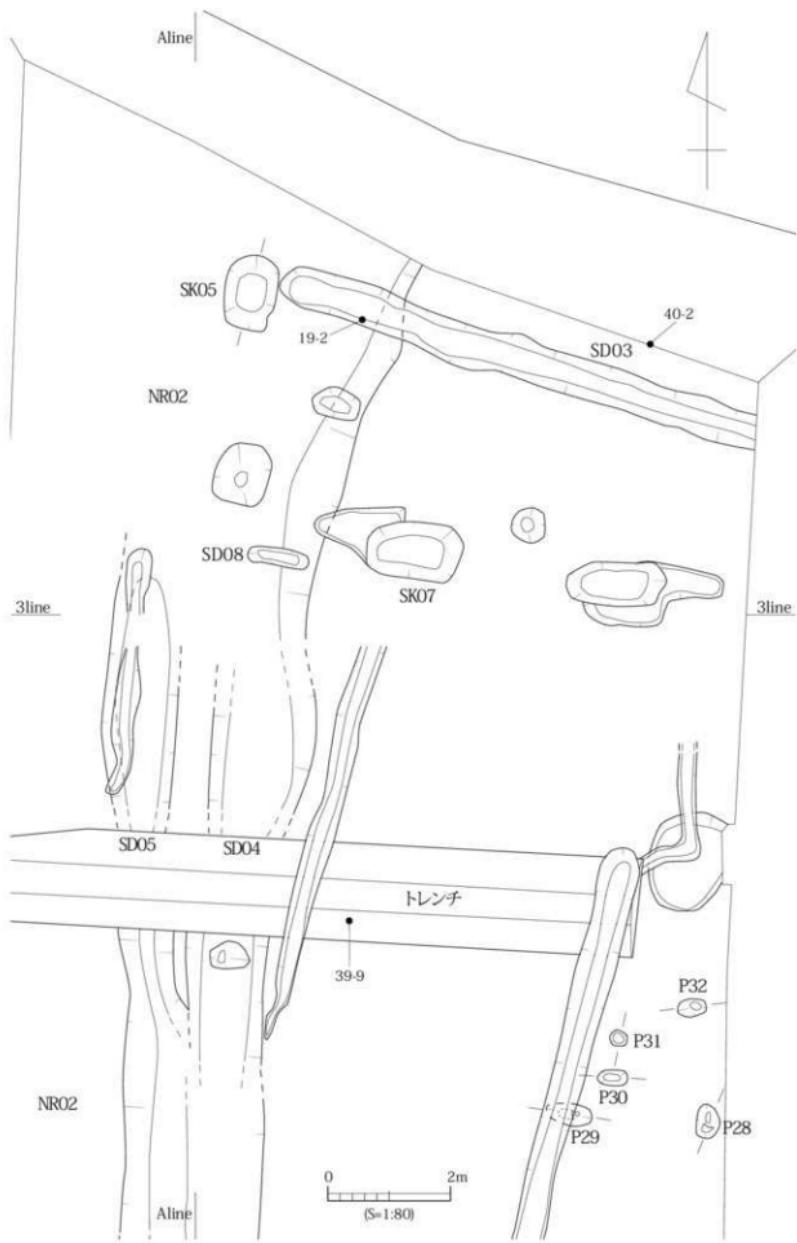
いずれも廃棄土壤と考えられる。SK02～05 は直径 1m 以上の大型土壠である。SK01～05・07 は埋土や出土遺物、遺構の切り合い関係から近代以降と考えられる。

SK01（第16図・第17図） B7 グリッドで検出した。SD01 の掘り方（北側）と重複し SD01 より新しい。平面円形をし、63cm × 66cm、深さ 20cm である。埋土は 3 層に分かれている。

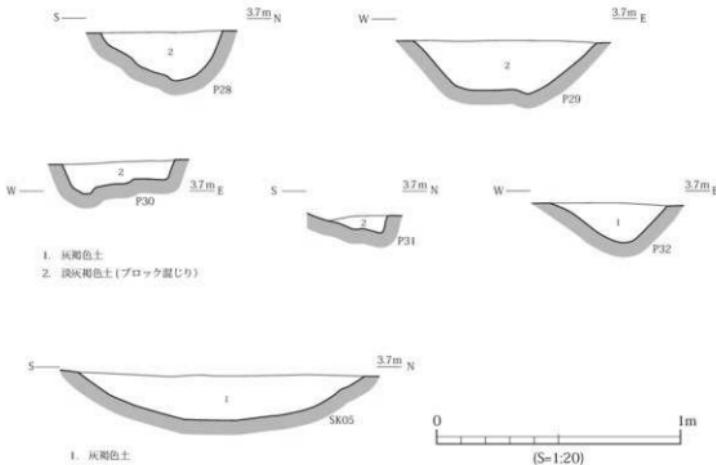
SK02（第16図・第17図） B6～B7 グリッドで検出した。平面円形をし、規模は 1m65cm × 1m78cm、深さは 31cm である。埋土は 4 層に分かれれる。第 2 層を中心自然石が多数混ざっている。土器は土師器・青磁の小片が出土したのみである。

SK03（第12図・第15図） B5 グリッドで検出した。平面円形をし、規模は 1m20cm × 1m13cm、深さ 30～40cm である。

SK04（第12図・第15図） B5 グリッドで検出した。平面円形の浅い土坑である。規模は 1m55cm × 1m45cm、深さ 24cm である。



第10図 3-2区遺構平面図(1)



第11図 3-2区遺構土層断面図(1)

SK05 (第10図・第11図) B3 グリッドで検出した。NRO2 の埋没後に掘り込まれている。平面円形をし、規模は 1m15cm × 85cm、深さ 20cm である。埋土は灰褐色土の単一層である。

SK06 (第16図・第17図) B8 グリッドの調査区際で検出した。東西 56cm、南北 30cm 以上、深さ 45cm である。10 ~ 20cm 角の自然石に混ざって備前焼擂鉢の破片が出土している。

SK07 (第10図) B3 グリッドで検出した。規模は 1m55cm × 80cm、深さ 10cm である。近代以降の廃棄土坑である。下層からは洋釘の打ち込まれた角材が横倒しになって出土している。東 1.6m にも同時期の土坑がみられる。

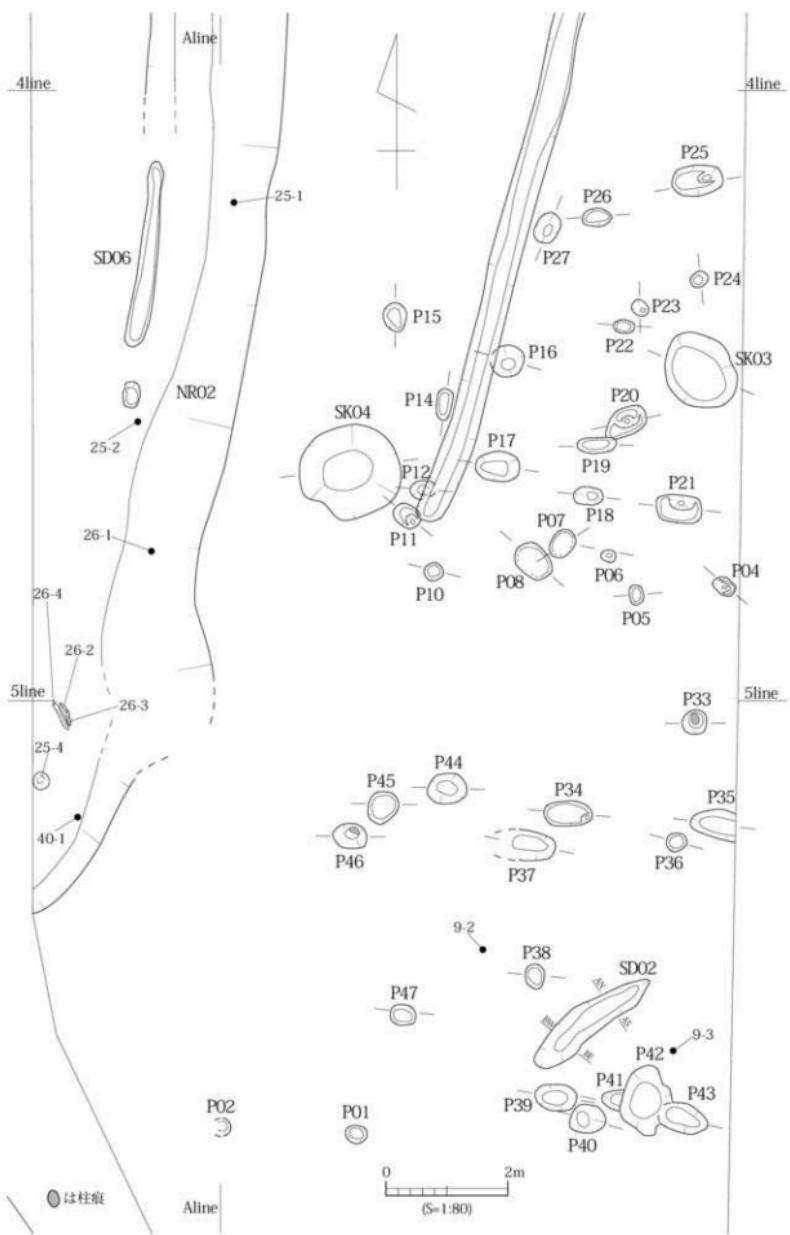
土坑出土遺物 (第20図)

中世の遺物を中心に、近世の遺物は代表的なものを掲載している。1 は SK01、2・3 は SK02、4 は SK04、5 は SK06、6 は SK07 からそれぞれ出土している。

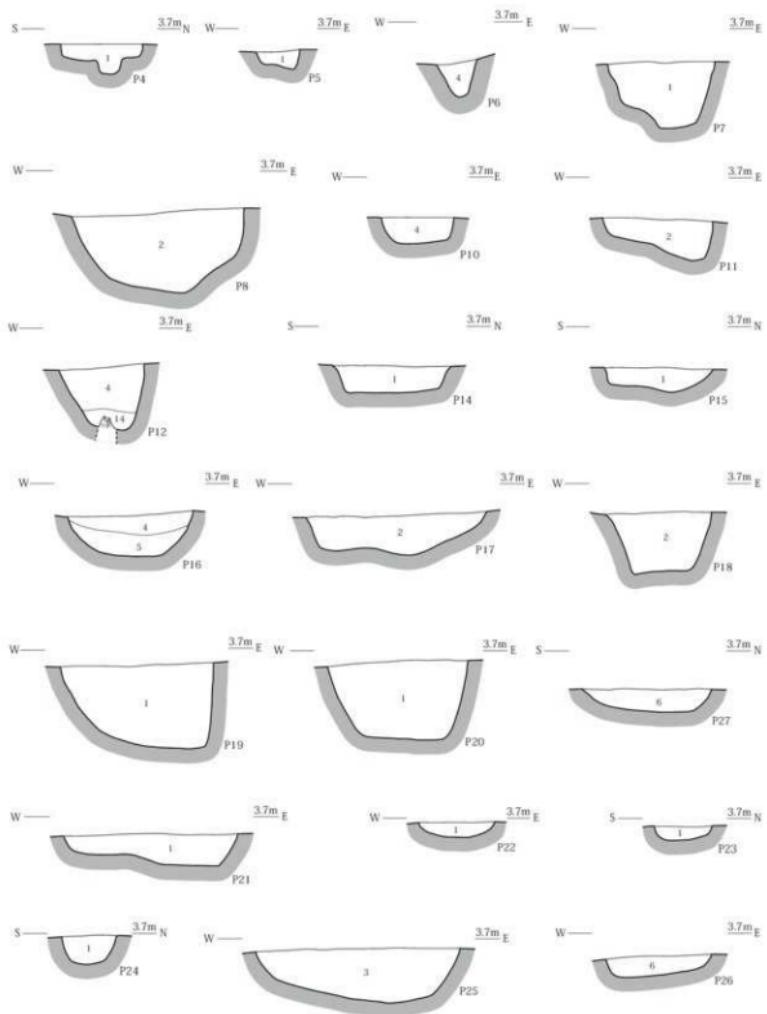
1 は青磁碗で龍泉窯系青磁碗 II-B 類。2 は土師器環の口縁部。薄手で堅緻な作りである。3 は青磁碗。4 は唐津皿の口縁部で 17 世紀後半から中期。5 は備前焼の擂鉢で IV-A-1 類に該当する。6 は肥前系磁器の染付で 18 世紀前半から中期。このほか SK02 からは、青磁 (図版 18-2 No.3) と高麗青磁 (図版 18-2 No.4) の小片も出土している。No.4 は内面に象嵌があり、14 世紀代である。

4. 自然河道

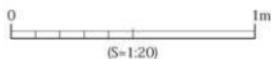
NRO1 (第23図) 3-2 区南寄りを東西方向に延びる。北側は基盤層、南は青灰色粘質土を削り込んでいる。規模は幅 3 ~ 4m 前後、深さ 40 ~ 60cm、底面の標高は 2.6 ~ 3.0m 前後である。埋土は 4 ~ 5 層に分かれる。中位の腐植土層をはさんで上層は人為的に埋め立てている。その上層から土師



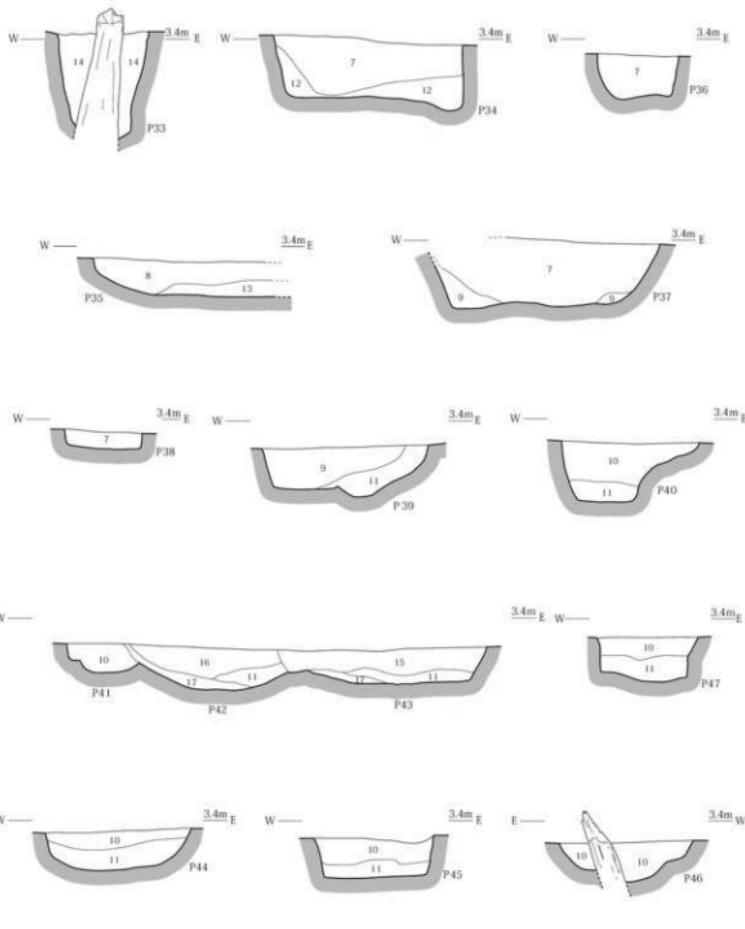
第12図 3-2図遺構平面図(2)



1. 灰褐色土
2. 淡灰褐色土（ブロック盛り）
3. 灰褐色土（塊状系微）
4. 淡灰色土
5. 灰白色土
6. 淡灰色土（砂礫じり）



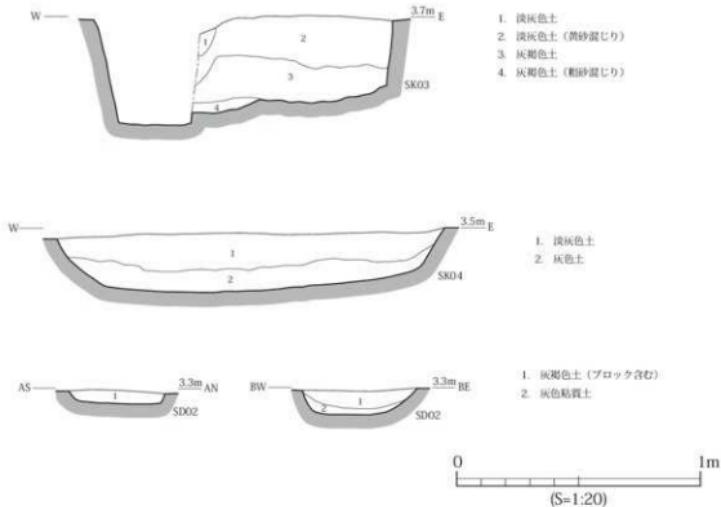
第13図 3-2区遺構土層断面図(2)



- 7. 灰色土（ブロック混じり）
- 8. 灰色土（砂混じり）
- 9. 灰色粘質土
- 10. 灰色土
- 11. 青灰色土
- 12. 四輪車粘質土
- 13. 暗灰黑色粘質土
- 14. 青灰色粘質土
- 15. 灰色土と淡灰黑色土混じる（15より暗い）
- 16. 灰色土と淡灰黑色土混じる（15より明い）
- 17. 青灰色土（11より浅い）

0 1m
(S=1:20)

第14図 3-2区遺構土層断面図(3)



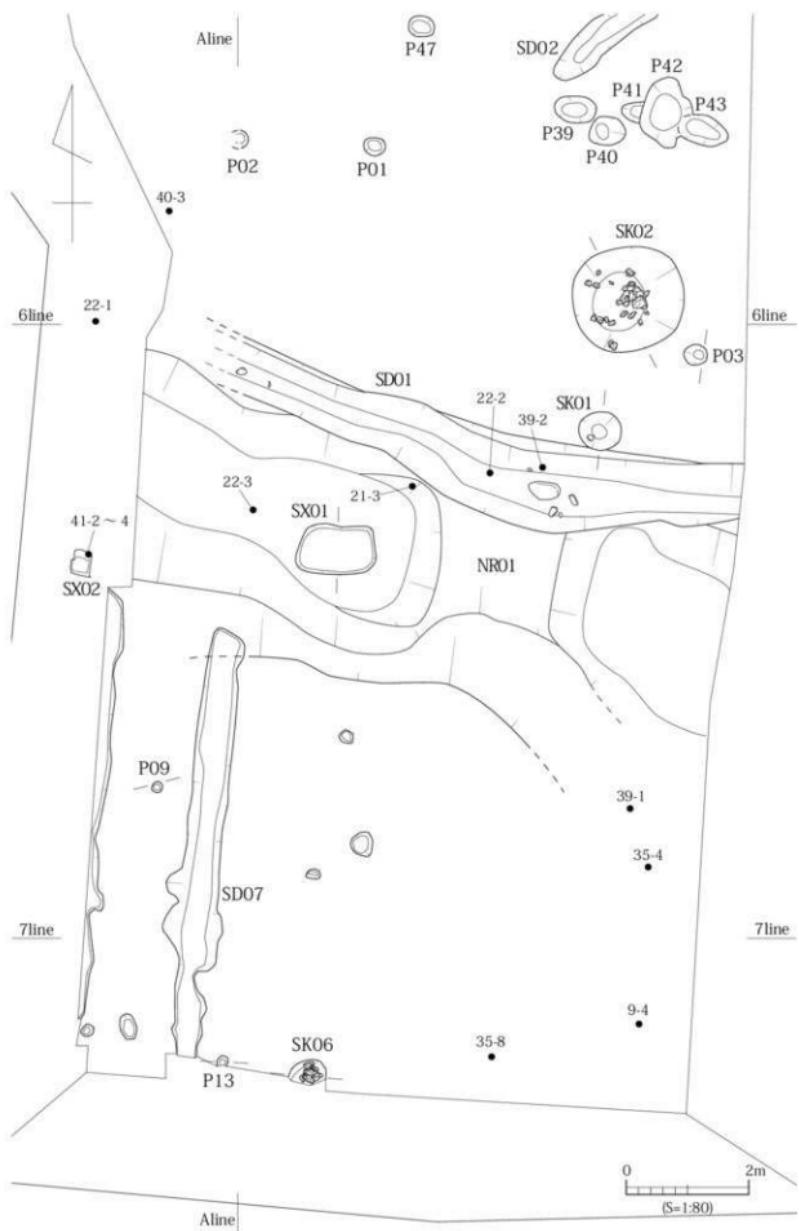
第15図 3-2区遺構土層断面図(4)

器・青磁の破片、杓子状木製品、漆器碗が出土している。下層に砂礫層が堆積していないことから河道の流れは強くなかったと推測される。遺物から15世紀代には埋没したものと思われる。

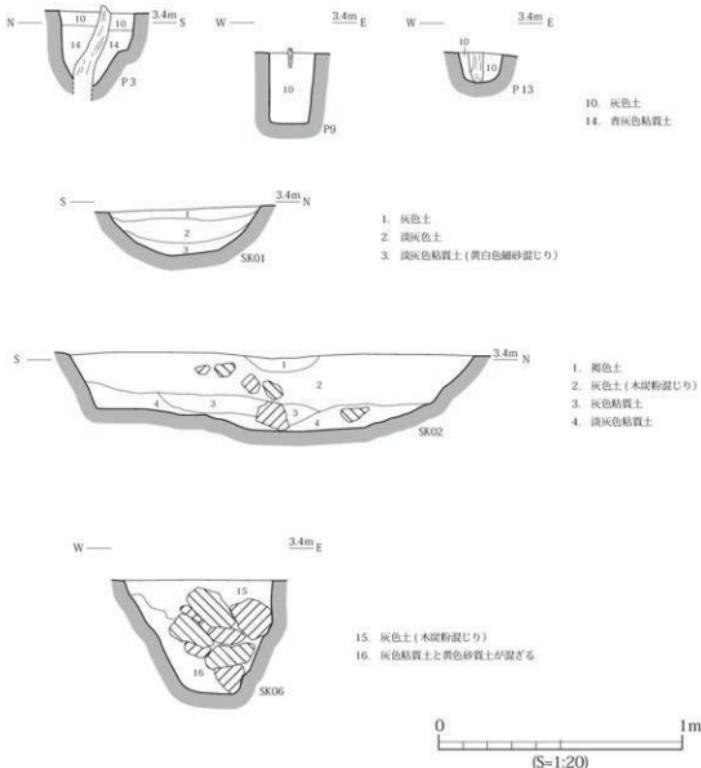
NRO1出土遺物（第21・22図）

第21図1は土師器の皿。2は備前焼鉢で備前IV期に当たる。3・4は青磁碗。龍泉窯系で15世紀代の所産である。第22図1は調査区側溝で出土した漆器碗である。出土位置と層位からNRO1に伴うものと推定した。樹種はトチノキである。黒色塗塗で、外面に赤色漆で絵付けが施されている。外面下位はハケメが明瞭で、高台には5条の深いロクロ目が残っている。また底部には0.3～0.5cmの孔が8か所あけられている。ほかにも1か所、未貫通のL字形の掘り込みがある。2は杓子状木製品。樹種はスギである。先端が使用により摩耗している。先端の裏面から側面、柄の一部が黒く焦げている。3は図の下側を割りとておらず、製品ではなく端材と考えられる。樹種はマツ属複維管束亞属である。このほか産地不明の陶器の破片（図版19-1 №5）も出土している。

NRO2（第3図・第8図・第10図・第12図・第24図） 3-1区の中央から3-2区の西端をかすめるように南北方向に走る。埋土は大きく上層の黄褐色土と下層の暗黄褐色粘質土～砂質土にわかれる。下層からは杭3点がまとまって出土した。上層からは、土師器皿、白磁、五輪塔水輪部、加工材が出土している。遺物から16世紀代に埋没したものと思われる。埋没後は面的に検出できなかったが、小規模な溝（SD08）で管理されたと思われる。



第16図 3-2区遺構平面図(3)



第17図 3-2区遺構上層断面図(5)

NR02 出土遺物（第25図・第26図）

第25図1は土師器皿である。薄手の堅緻な作りである。2は柱状高台部。3は陶器壺の体部である。外面には自然釉がかかる。このほかに白磁が2点（図版20-1 №6・№7）、備前2点（図版20-1 №8、図版19-1 №9）が出土している。№6は白磁皿E群の口縁部である。4は五輪塔の水輪部である。全体に風化摩滅している。梵字はない。最大径30.3cm、高さ18.5cmの小型品。最大径は下面から10.5cm上にある。上下面とも中央部を一辺10.5～12.0cmの方形で、深さ2.4～3.1cmでくぼめている。幅2.5cmの工具痕がこる。第26図1は薄いスギの板材を短冊状に加工したものである。2～4は杭である。いずれも芯持ち材で先端を尖らせている。樹種は1がスギ、2がガマズミ属、3がカツラ、4がマツ属複葉根束亜属である。2は最大径2.9cmの棒材の先端を尖らせている。3は径5.0cm前後の棒材の先端を尖らせる。一部に樹皮が残っている。

5. 墓

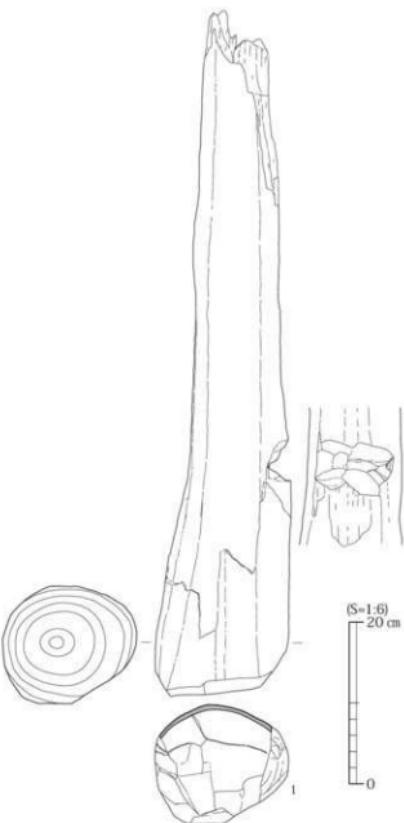
2基検出した。いずれも自然河道 NRO1 と重複し、河道の埋没後に造られている。

SX01 (第 27 図) B7 グリッドに位置する。東西方向に主軸をとり、平面は小判形をする。規模は南北 74cm、東西 124cm、検出面からの深さ 20cm 前後である。木棺は蓋と底板が無く、墓壙底面に直径 2 cm、長さ 45cm 前後の棒（枝）を平行に 6 本並べ、それを側板と小口板で挟む構造である。人骨の散布状況から、頭を東、顔を南に向けた横臥屈葬に復元される。

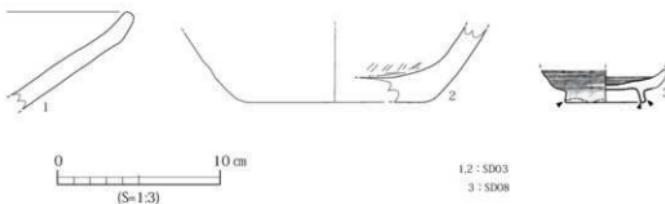
SX01 出土遺物 (第 29 図) 2 点とも埋土中の出土で小片である。1 は土師器環の口縁部、2 は瓦質土器の鉢である。

SX02 (第 28 図) A7 グリッドに位置する。調査区側溝の掘削中に検出したため、掘り方を確認していない。木棺は箱状をし、小口板は欠損している。規模は東西 29cm、南北 43cm 以上、高さ 11.5cm である。板の厚みは 3 ~ 4mm である。内部には骨片が散布していた。

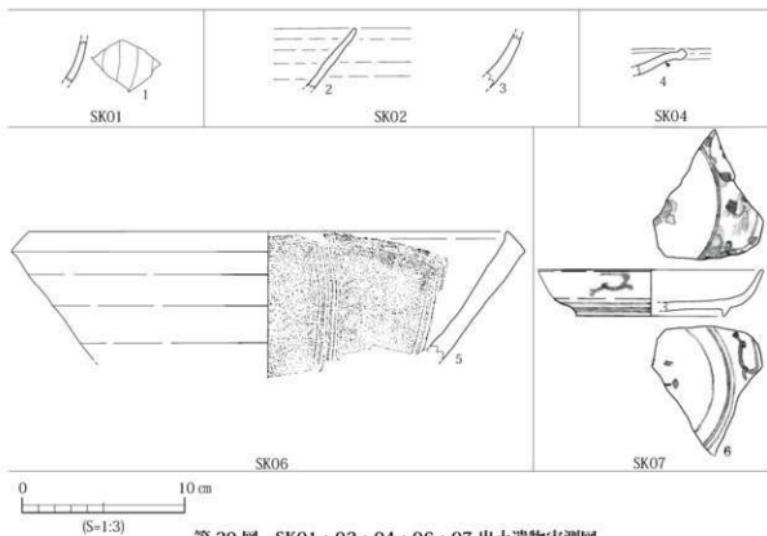
SX02 出土遺物 (第 30 図) 木棺のなかから土師器の小片のほか、「寛永通寶」(1697 年初鑄) 2 枚 (1・2)、棺外からも銭種不明の錢貨 1 枚 (3) が出土した。



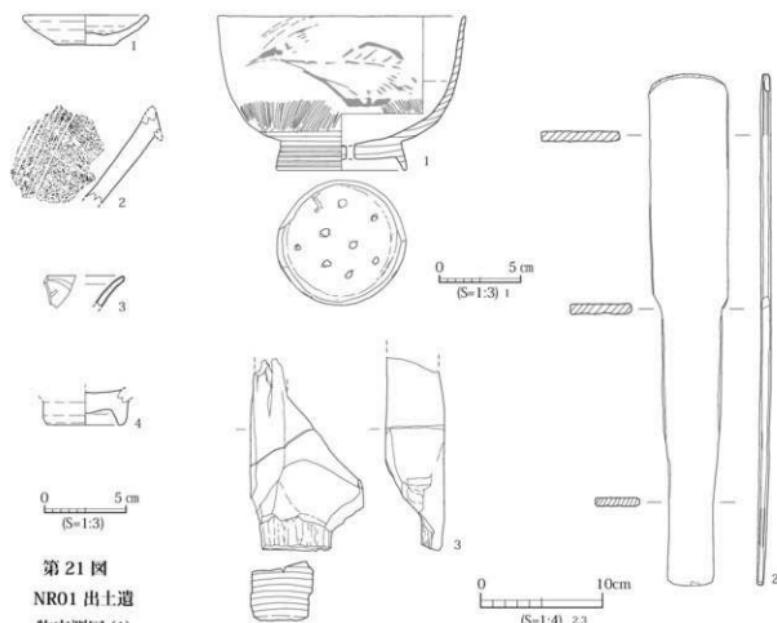
第 18 図 ピット出土遺物実測図



第 19 図 SD03・08 出土遺物実測図

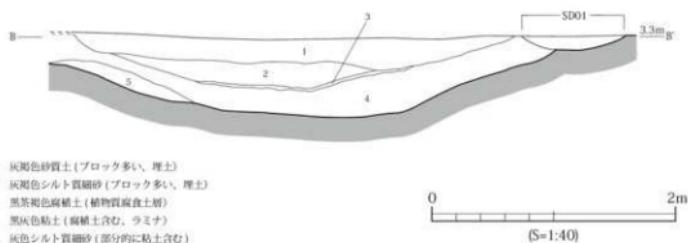
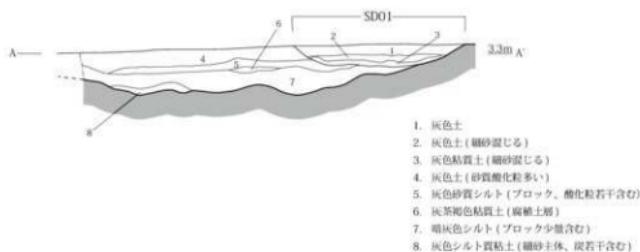
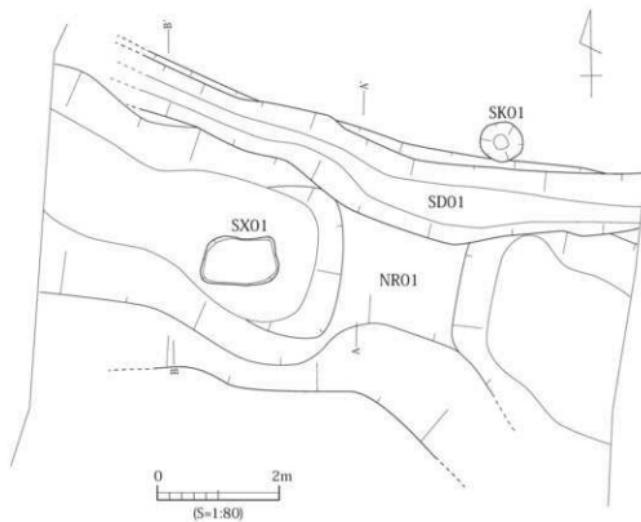


第20図 SK01・02・04・06・07出土遺物実測図

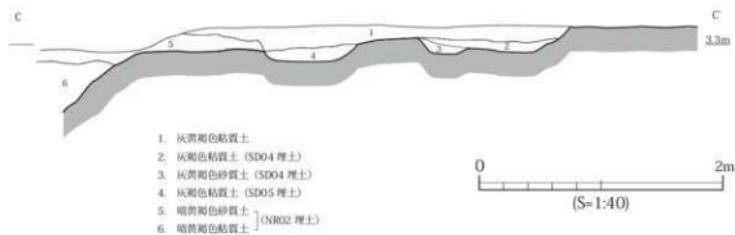


第21図
NR01出土遺物実測図(1)

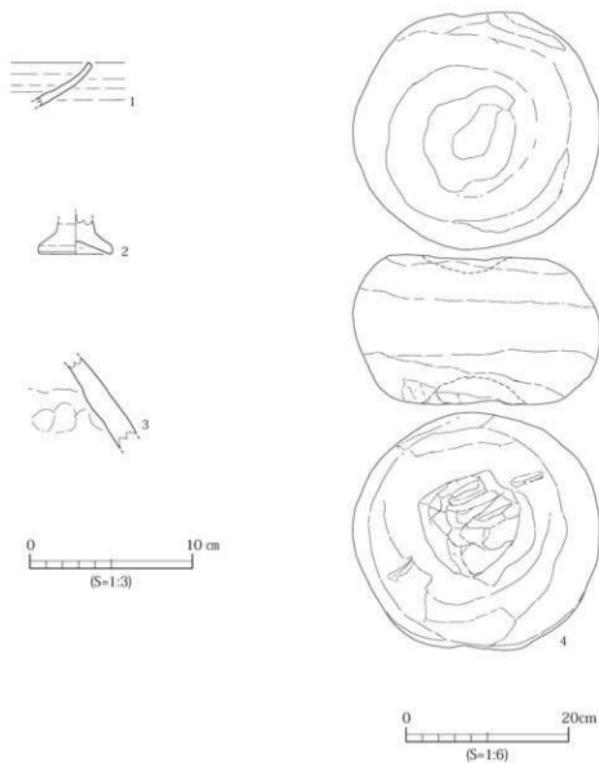
第22図 NR01出土遺物実測図(2)



第23図 SD01・NR01実測図



第24図 NR02・SD04・SD05 土層断面図



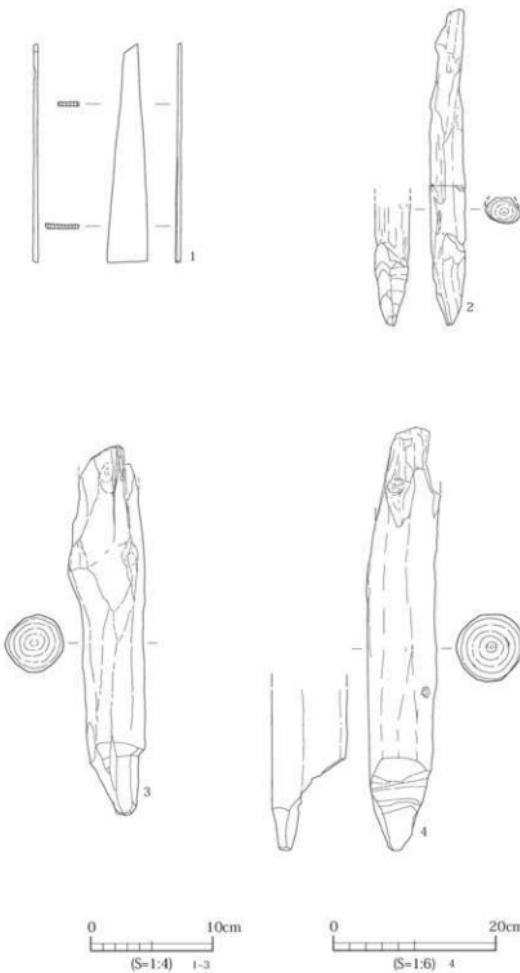
第25図 NR02 出土遺物実測図(1)

第3節 包含層の調査

(1) 3-1区出土遺物(第31図～第34図)

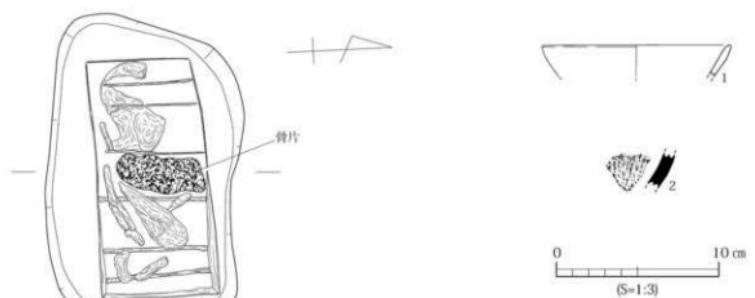
上層の造成土から下層まで遺物が混ざっている。多くは近世・近代の陶磁器類であり、それ以前にさかのぼるものは少ない。近世以降の遺物の多くは、南を流れる水路の浚渫により廃棄されたものと考えられる。

第31図1は須恵器甕の頭部である。2は土師器の皿である。体部は逆ハ字状に開く。全体に風化摩滅している。3は土師器の擂鉢である。内面に6条一単位の擂り目がある。内外面とも黒斑があり、内面は全体が使用により摩耗している。4は瓷器系陶器甕でN字状口縁をする。5・6は備前焼擂鉢である。5は口縁端部を欠損している。内面の擂り目は8条以上ある。6は備前IV期。このほかにも備前焼甕の破片は出土している(図版21-2 №10)。7は白磁碗、8は青磁碗である。9は李朝陶器の可能性がある。このほかにも青磁と白磁の小片が出土している(図版21-2 №11・№12)。

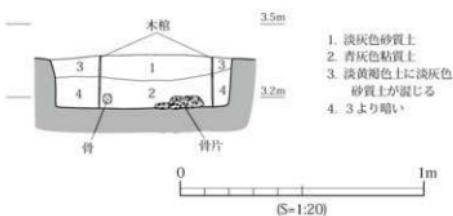


第26図 NR02 出土遺物実測図(2)

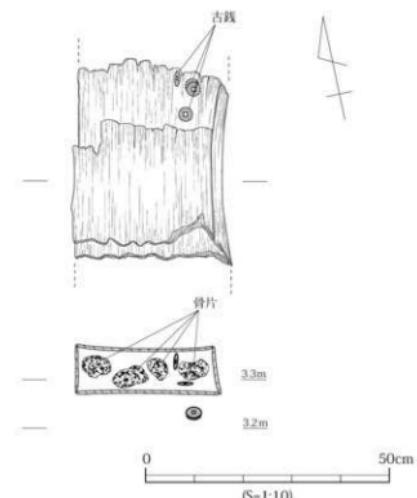
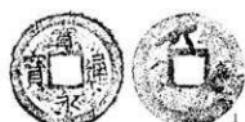
第32図は肥前系の陶磁器などである。時期は17世紀中頃から19世紀前半までみられる。1～5は肥前系陶器。1は流し掛けの碗、2は皿、3・4は甕、5は擂鉢。6～8は肥前系磁器の染付である。9は肥前系かあるいは在地産の可能性もある。6は合子蓋、7は小丸碗、8は方形皿、9は八角鉢である。6は18世紀後葉、8は19世紀前半。10は陶胎染付で18世紀前半。11は須佐焼と思われる擂鉢である。12は萩系陶器で幕末頃と思われる。



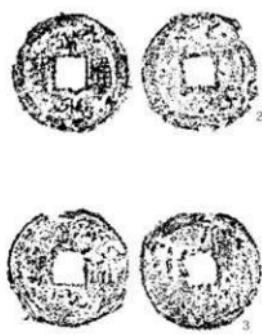
第29図 SX01出土遺物実測図



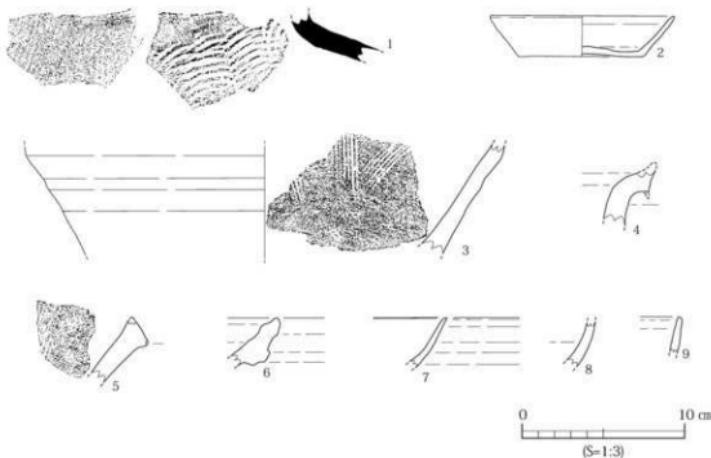
第27図 SX01実測図



第28図 SX02実測図



第30図 SX02出土遺物実測図



第31図 3-1区包含層出土遺物実測図(1)

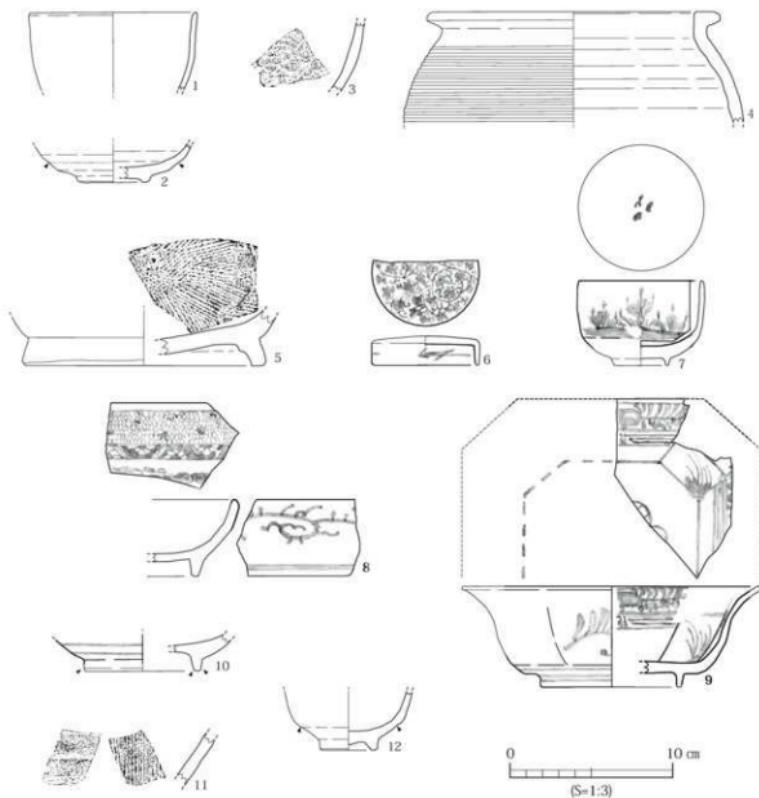
第33図は在地産の陶磁器などである。1は布志名焼の碗である。胴部に丸みをもつ「ぼてぼて茶碗」である。19世紀第1四半期。2は磁器で、久村焼の可能性がある。3は鉄軸の小壺。茶入れの可能性がある。4は備前焼べこかんの模倣品である。内外面に鉄軸を施し、外面には櫛描沈線文をめぐらしている。5～8は石見焼である。5は擂鉢で来待軸を施す。口縁端部を折り返し、内面は口縁端部の櫛目をナデ消す。6～8は判読できないが、いずれも底部に墨書きで文字が記されている。9は焙烙である。口縁部は外傾し、下端が突出する。外底部は接合部分で剥離する。

第34図は煙管である。1は雁首、2は吸い口で火皿の根元のみ残っている。19世紀代である。

(2) 3-2区出土遺物（第35図～第41図）

第35図1は縄文晩期の浅鉢の可能性がある。外面に二条の沈線を施す。2～4は土師器。2・3は壺、4は高台付きの壺。4の高台は逆ハ字に開く。焼成時のゆがみがみられる。5～7は土師器の鉢。5・6は内外面を粗いハケ調整をする。7は焼きがよく、外面はナデ調整している。6と7は内面に3～4条以上の摺り目が深く入る。土師器の鉢はこのほかにも1点出土している（図版24-2 №13）。8は土師器鍋。口縁部は逆L字に折れ、体部は丸みをもつ。外面は黒く焼け煤ける。9は瓦質土器の鉢である。口縁部は玉縁状で、内外面をヨコナデする。10は瓷器系陶器甕、口縁部がN字状に拡張している。13～14世紀初め。11は中世須恵器の壺口縁部で、端部に面をつくっている。12～14は備前焼の甕と思われる。ほかにも2点（図版24-2 №14・№15）出土している。15～17は備前擂鉢の胴部である。18・19は古瀬戸。18は碗皿類、19は卸皿の口縁部である。20は瀬戸美濃の天目碗である。このほか備前焼が2点（図版24-2 №16・№17）、中世陶器4点（図版24-2 №18～21）が出土している。

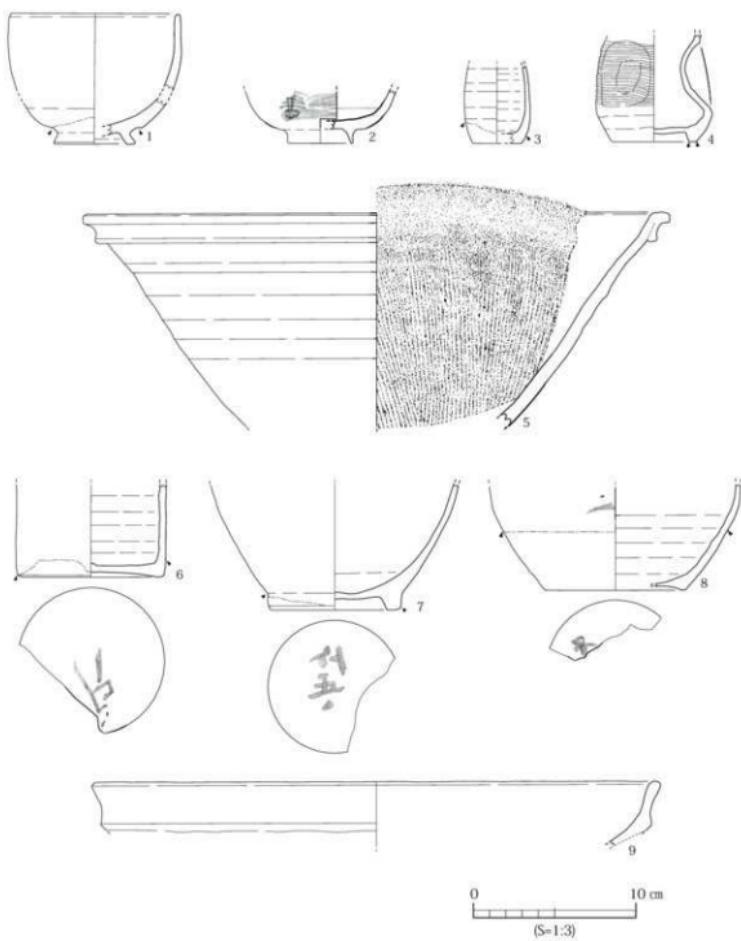
第36図1・2は青磁碗。青磁はほかに5点出土している（図版25-1 №22～№25、図版21-2



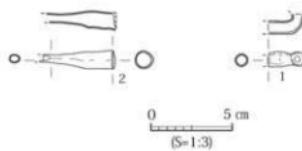
第32図 3-1区包含層出土遺物実測図(2)

№26)。3・4は白磁皿、5は白磁の合子。6～11は中国青花。7は皿B1群、8は皿C群、11は皿E群である。12は李朝陶器の皿。内面には目跡が1か所のこる。13は灰青沙器。図版25-1の№27と同一個体の可能性がある。14は中国陶器、15は産地不明の施釉陶器である。14の器形は袋物か。第37図は肥前系陶器。1・2は碗。1は内外面に施釉。2は胎土が灰黄褐色で黒い。外面に白化粧による波状文を施している。1は17世紀中頃、2は18世紀前半。3は鉢か皿の底部。底部は糸切りで、体部には灰釉がかかる。16世紀末から17世紀初め。4は片口鉢。5と6は鉢で同一個体と思われる。内面に白化粧でハケメによる波状文を施している。17世紀第4四半期。7は甌。口縁部は内外に拡張する。外面を格子目文タタキし、ヨコナデする。肩部には貼花文を飾る。8は甌の胴部下半から底部にかけての破片である。底部の内面には放射状の當て具痕がみえる。

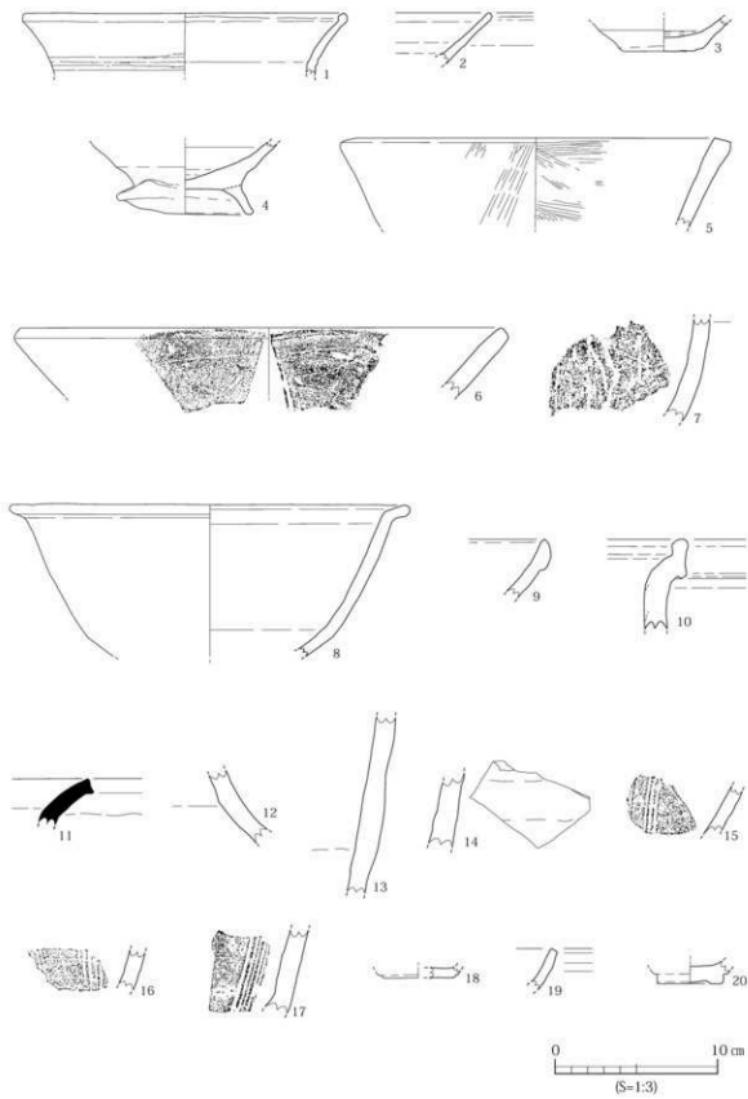
第38図1～6は肥前系磁器。1～3は碗。1は色絵、2・3は呉須で絵付けがされている。1は



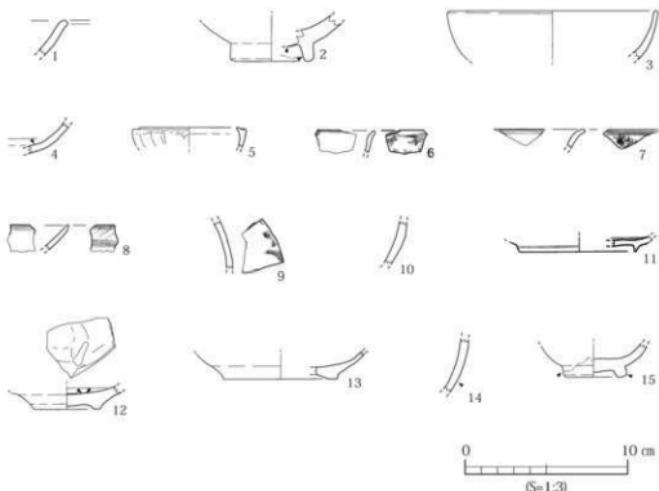
第33図 3-1区包含層出土遺物実測図(3)



第34図 3-1区包含層出土遺物実測図(4)



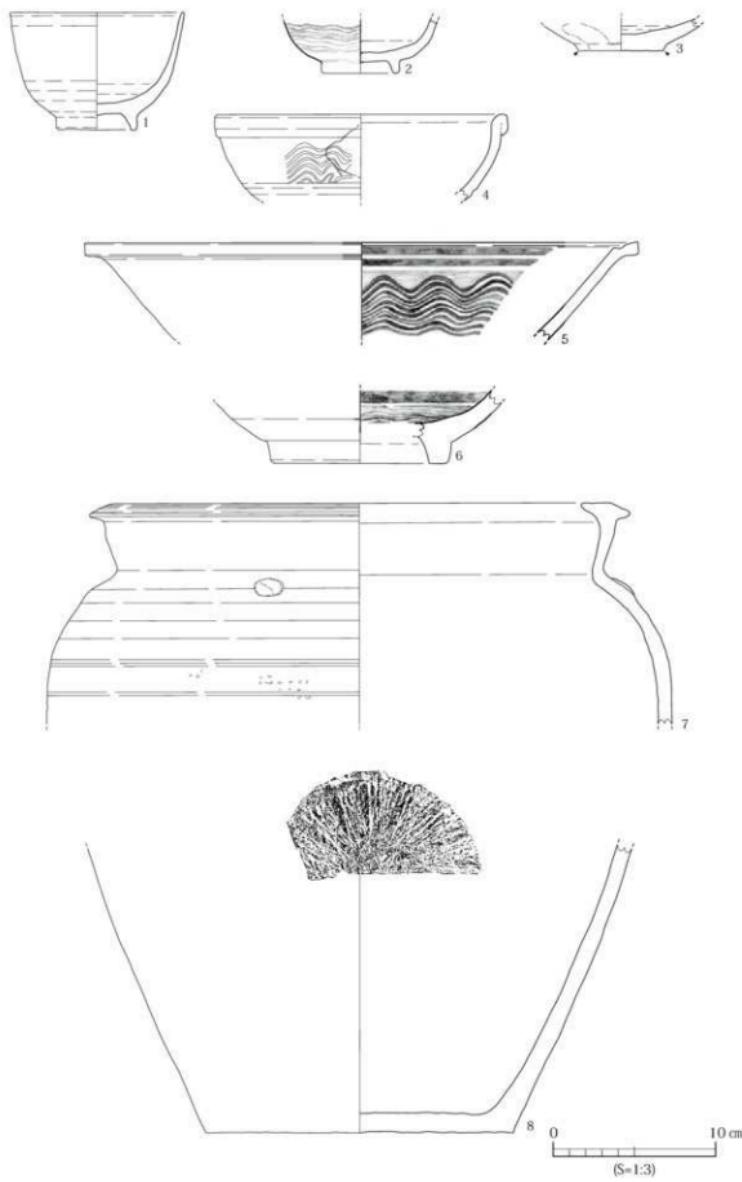
第35図 3-2区包含層出土遺物実測図(1)



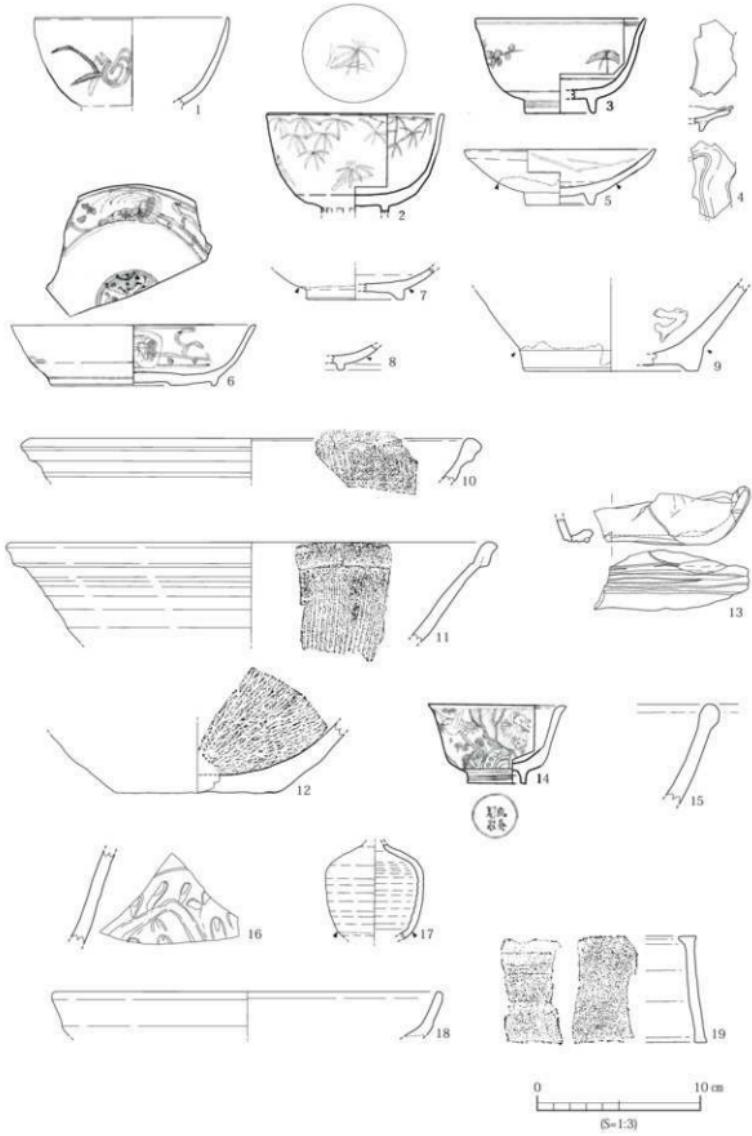
第36図 3-2区包含層出土遺物実測図(2)

18世紀前葉、2・3は19世紀前半。4は変形皿。5は波佐見焼の皿。逆ハ字にひらく体部に高台がつく。内面には絵付けをし、見込みを蛇の目釉はぎする。18世紀前半から中頃。6は染付の皿。19世紀前半。7は瀬戸美濃の丸形碗。18世紀。8・9は萩焼系の陶器である。9はこね鉢で内面に重ね焼きの跡がある。8は18世紀後半から19世紀、9は18世紀前半。10・11は須佐焼の擂鉢。10は口縁部を直立して折り返す。擂り目は口縁上端部まで引きっぱなし、擂り目の間隔は3.0cm空く。I-A類、第1期で17世紀後半。11は口縁部を折り返し、ヨコナデにより突帯状にする。擂り目は口縁下端部までひく。I-D類、第3期で18世紀後半。12は明石焼系の擂鉢。無高台で内面には放射状に擂り目を9~10条1単位で刻む。13は備前焼の香炉。正面に孔があく。正面と背面を別づくりし、底面でとじ合わせている。14は産地不明の磁器碗。底面に呉須で「幽□□製」と書かれている。外面には花鳥の絵付けが施されている。15~17は在地産の陶器。15は布志名焼の鉢。内外面に緑釉をかけ、口縁部には白色釉を流し掛けしている。18世紀後半。16は鉢の胸部。内外面に灰釉を施し、外面にはヘラ掘りによる文様を描く。瀬戸戸窓の模倣品で、19世紀第1四半期頃と考えられる。17は小壺で茶入れの可能性がある。内外面には鉄釉がかけられている。近代か。18は土師器の焙烙。口縁部は外傾し、下端が突出する。外底部は接合部分で剥離する。19は五徳で、外面に縦書きで「イ十七」と刻まれる。

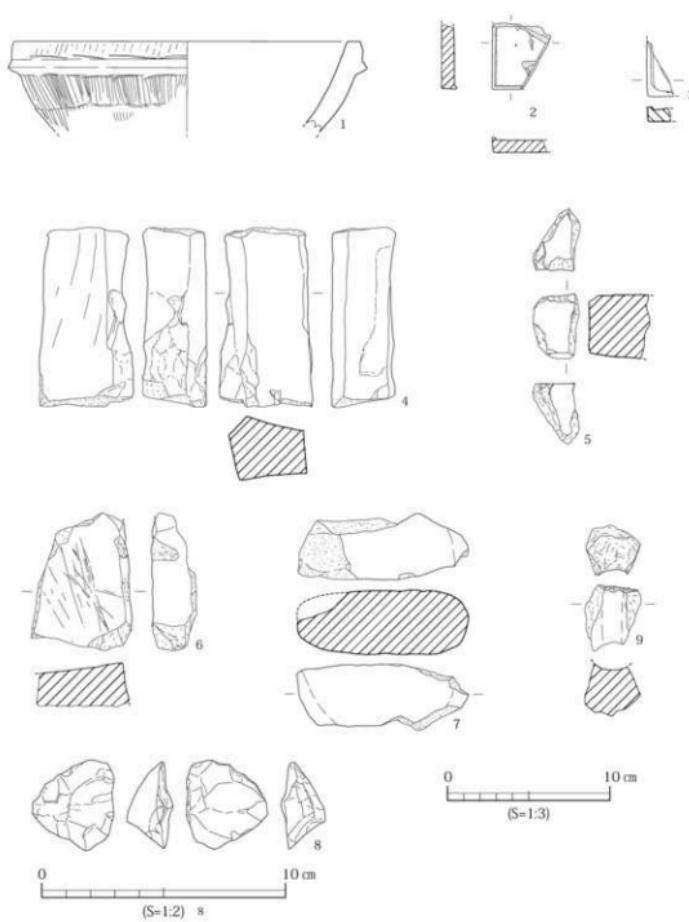
第39図1~7は石製品である。1は石鍋。滑石製。口縁部外面に鈎を刻む。鈎は断面三角形で頂部は尖る。鈎の下方には縦方向の加工痕がよく残る。外面に煤が付着する。内面は横方向に丁寧に研磨する。木戸分類III-d類に相当し15世紀と思われる。石鍋は1区でも小破片が出土しており、今回が2点目である。2・3は石硯。台形硯の一部と思われる。縦帶は幅0.3cmで側面は外傾し、底面は平坦である。石材は赤色頁岩が使用されている。4~6は砥石である。4は長方体状で、断面は



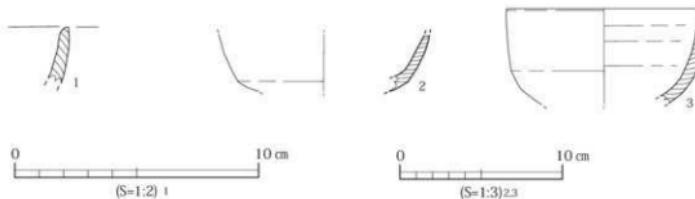
第37図 3-2区包含層出土遺物実測図(3)



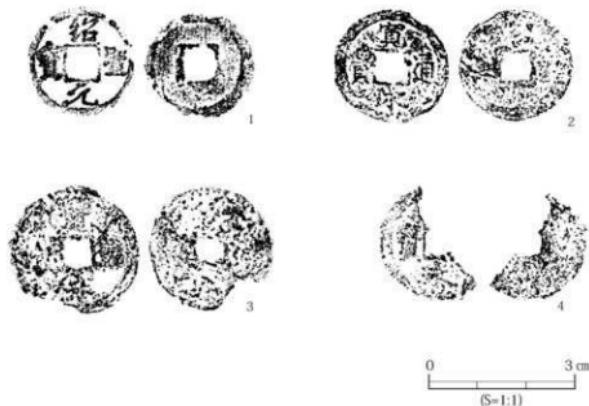
第38図 3-2区包含層出土遺物実測図(4)



第39図 3-2区包含層出土遺物実測図(5)



第40図 3-2区包含層出土遺物実測図(6)



第41図 3-2区包含層出土遺物実測図(7)

五角形をしている。4は一面、5・6は残っている全ての面が使用されている。7は玄武岩製の磨石。両面が使用されている。8はメノウ系石(玉髓)製。平面三角形をし、左辺が敲打により白くなっている。火打石と思われる。9は羽口である。小片のため径は復元できない。先端はガラス質化している。

第40図1～3は漆器椀である。2は調査区北端のB3グリッド、1・3は自然流路に近いA6グリッドから出土した。内外面とも黒色漆塗で、内面は黒色漆を下地とし、そのうえに赤色漆を塗布している。樹種は1がクスノキ科、2・3はブナ属である。

第41図1～4は銭貨である。1はB7グリッドから出土した「紹聖元寶」(北宋 1094年初鋤)1枚である。2～4はA7グリッドから出土している。2は「寛永通寶」(1697年初鋤)、3は「寛永通寶」(1636年初鋤)、4は「□永□寶」(寛永通寶 1636年初鋤か)である。これまでに本遺跡からは1区で9枚、2区で12枚、計21枚の銭貨が出土している。銭種が判明しているものはすべて渡来銭(模鋤銭の可能性もある)である。内訳は北宋銭が8枚と最も多く、つぎに唐銭と明銭が2枚ずつである。

第4章 総括

高浜I遺跡は出雲平野の中央部、里方町・高岡町・平野町に広がっている。今回調査した3区は、この三つの町境にあたる地点である。

調査の結果、3区は自然河道に面した微高地の縁辺にあたることがわかった。ふたつの自然河道は、それぞれ東西・南北方向に流れ、調査区外の西で合流していたものと思われる。いずれも15~16世紀代には埋没している。出土遺物から集落は14世紀から展開し、17世紀に盛期を迎えたと推定される。当該期の明確な遺構は確認できないことから、居住域の中心は調査区北東から東に展開していると考えられる。

本書は当遺跡の最終報告となる。3次にわたる調査成果をあらためて整理し、まとめたい。

第1節 遺跡の立地と様相（第42・43図）

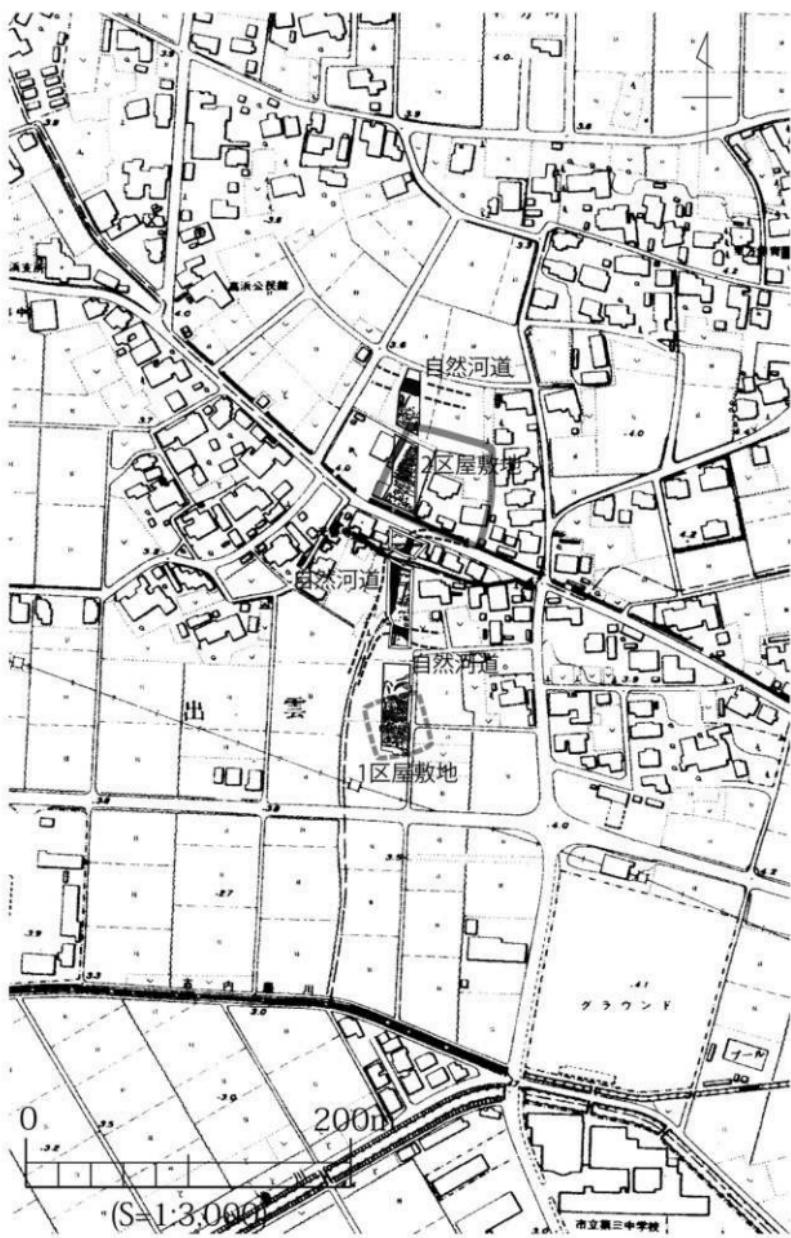
2区は標高3.5m、3区が3.8~3.5m、1区は3.5mで遺構面を検出している。2区と3区は北東から南西に延びる微高地上から縁辺部にあたる。いっぽう1区は青灰色粘質土上に30cm程度の盛り土をおこなっており、屋敷地が作られるまえは湿地帯であったことがわかる。

1区からは15世紀から16世紀初頭の屋敷地を検出している。屋敷地は厚さ30cmの盛り土により造成され、南北には明確な区画溝・遮蔽施設のないことが注目される。建物跡は5棟が復元されている。そのうちSB01が最も大型の建物で、桁行6間(12.05m)以上、梁間2間(4.7m)ある。柱穴から土師質土器、備前捕鉢、白磁IV類皿のほか将棋の駒が出土している。南3mに位置するSK53には多量の木製品が投棄されていた。永正三年(1506)の木簡、将棋盤、「罷二郎」の墨書がある三方、漆器椀、建具(格子)などである。

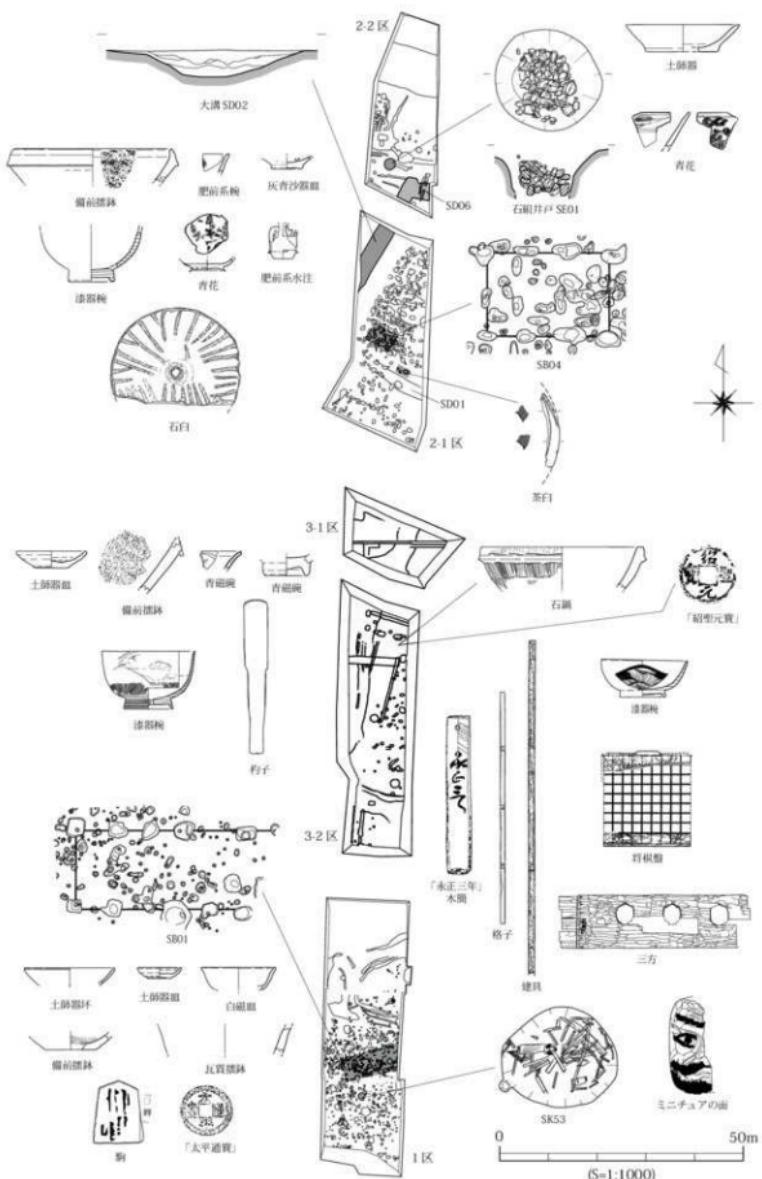
2区は1区と異なり微高地上に位置する。14世紀中頃から17世紀初頭まで存続した屋敷地を検出している。敷地の西端は南北方向に走る幅4m、深さ90cmの大溝(SD02)があり、その東に土壘がめぐっていたものと思われる。西大溝(SD02)の北端にはSD06が東から取りついでいる。SD06はSD02にくらべて浅いが、屋敷地の北辺を区画していたものと推定される。またSD02の南約34mを東西に平行して、敷地内を区画する溝SD01がある。建物は2-1区でSB04など6棟が復元されている。規模は2間×1間から1間×5間以上であるが、1区SB01のような大型建物はみられない。建物群の北、2-2区からは石組井戸や墓が検出されている。特殊な遺物としては茶臼が2-1区の柱穴(ピット78)から出土している(第6表)。

3区は前述のとおり1・2区と同時期の建物は見つかっていない。おそらく北東側に当該期の遺構が展開し、調査区内は西・南端を自然河道が流れる居住域の縁辺であった、と推定される。

以上のように、本遺跡は南端に15~16世紀代初頭を中心とする屋敷地(1区)、北端に14世紀後半から17世紀初頭まで存続した大溝と土壘に囲まれた屋敷地(2区)が展開している。注目されるのは1区の屋敷が微高地上ではなく、大規模な盛り土により敷地を造成している点である。いまひとつ注目されるのは、敷地の北・南辺に区画溝・遮蔽施設が検出されていないことである。1区は、三方やミニチュアの面などの特殊な遺物が出土している。報告では屋敷地の性格について、神社関連遺構とする見方も示しつつ、塩治氏の系譜にある国人領主層や有力土豪の居館とした。



第42図 高浜I遺跡の中世屋敷跡復元図



第43図 高浜I遺跡遺構全体図

第2節 古墓の様相（第1表）

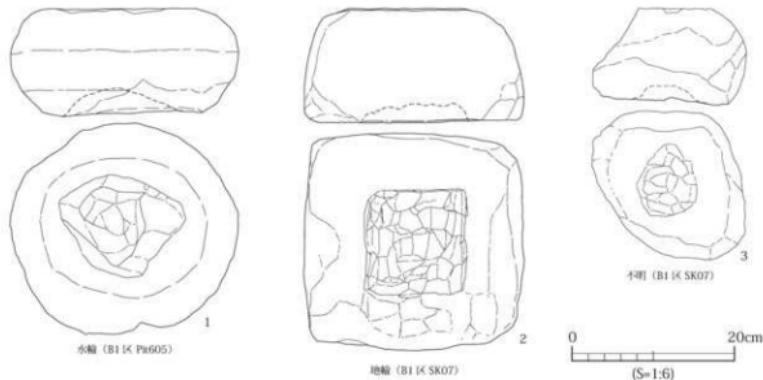
本遺跡からは、2-2区で5基、3-2区で2基の古墓を検出している。いずれも屋敷地（集落）の縁辺に位置する。2-2区では屋敷地外に土壙墓が密集し、敷地内に火葬墓が確認されている。

2区 SX03は土壙墓で、主軸は南北にとり、土師器皿1点を副葬している。SX08は北西・南東に主軸をとり、古銭5枚（銭種不明）が副葬されている。SX04・05は火葬場の可能性が指摘されている。いずれも15世紀後半から16世紀代に位置付けている。

3区 SX01は蓋と底板が無く、墓壇底面に直径2cm、長さ45cm前後の棒（枝）を平行に6本並べ、それを側板と小口板で挟む構造である。出雲平野で同様の構造をした古墓は、姫原西遺跡C区1号墓・3号墓、蔵小路西遺跡B2区墓1、白枝荒神遺跡1号墓がある。年代は15～16世紀に位置付けられている。SX01はNRO1埋没後に造られており、他遺跡の例からも16世紀代と考えられる。3区 SX02は蓋・底板をもつ木棺墓である。非常に狭小な内部空間であり、子供などを埋葬した可能性がある。新寛永通宝を副葬しており、17世紀末以降と思われる。

また墳墓には共伴していないが、NRO2から五輪塔の水輪部が出土している。凝灰岩製の小型品で、本遺跡からは初めての出土である。出雲平野の集落遺跡（屋敷地）では蔵小路西遺跡、白枝荒神遺跡などで石塔が出土している。蔵小路西遺跡ではB1区の柱穴（P605）および土壙（土坑17）から五輪塔の部材が出土している（第44図）。本遺跡と同様に凝灰岩製の小型品である。土壙からは備前IV期の擂鉢と共に、屋敷地の存続時期からも15世紀後半と考えられる。また白枝荒神遺跡I区1号井戸からも凝灰岩製の空風輪部が投棄されており、16世紀代と考えられている。古志本郷遺跡A区 SX01、SE05、C区 SE10で五輪塔の部材が出土している。同遺跡HII区 SK108・SE07・SE14でも井戸に投棄された状態で出土している。

出土した石塔の部材は20～30cmの大いな小型品で、梵字を刻まないものが多い。時期はおおむね15世紀後半から16世紀代の所産と考えられる。石塔の産地は特定できないが、平野南部の丘陵に位置する権現山石切場では五輪塔などの製作が行われている。既往の研究によれば、当該期は石塔の造立数が増加していたとされており、出雲平野においても同様の様相を示すことがわかる。



第44図 蔵小路西遺跡出土五輪塔尖測図

第3節 出雲平野における遺跡の分布と土地利用 一古代・中世を中心について

3次にわたる発掘調査で、高浜Ⅰ遺跡では自然河道が3本確認されている。第2章でも記したように、出雲平野は斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された平野である。沖積平野であるがために、微高地の周りには後背湿地や自然河道が無数に存在していたと思われる。出雲平野^{注1}においてこれまでの発掘調査により確認した自然河道は、高浜Ⅰ遺跡も含め23遺跡でその数は35本である^{注2}。そのうち10本が弥生時代または古墳時代初頭には埋没している。古墳時代に8本、古代に1本、中世に6本が埋没し、近世まで続いたのは10本である。自然河道の埋没後は湿地帯となり、中世～近世に安定した場所には遺構が築かれるようになる。

そのうち、築山遺跡と角田遺跡のそれぞれ西端の自然河道は微高地を廻るように、現在の県道277号線、西に半円形を描く旧道、市道南本町線上へつながっていたと思われる。姫原西遺跡と小山遺跡第2地点の自然河道は現在の県道276号線上でつながり、矢野遺跡の西側を北西へと流れる。里方本郷遺跡の自然河道は、東に位置する山持遺跡の自然河道とつながると思われる。高岡遺跡第2地点の自然河道と300m西南に位置する高岡Ⅱ遺跡の自然河道はつながる可能性があり、旧斐伊川の本流になりえるような大きさである。

第45図は、「出雲国風土記」(以後略して『風土記』と記す)時代の地形を明治28年の地図をもとに推定復元したものである。明治28年の地図に「島根県古代文化センター編『解説出雲国風土記2014』」の推定水域を利用し、遺跡の分布からも認められる微高地、及び発掘調査により確認された自然河道、水域・沼沢地の範囲を復元している。

旧神戸川は、三田谷Ⅰ遺跡から平野に達した付近で北上する支流が想定できるが詳細が不明なため復元していない。旧斐伊川の流れは、平野中央部から北部にかけて自然河道が何本も検索されているが詳細が不明なため復元していない。ただし、現在のような東への流れもあったものと思われる。

第46～51図は、縄文時代から中世後半の遺跡分布図である。第45図を利用している。遺跡の詳細は、第1表を参照していただきたい。

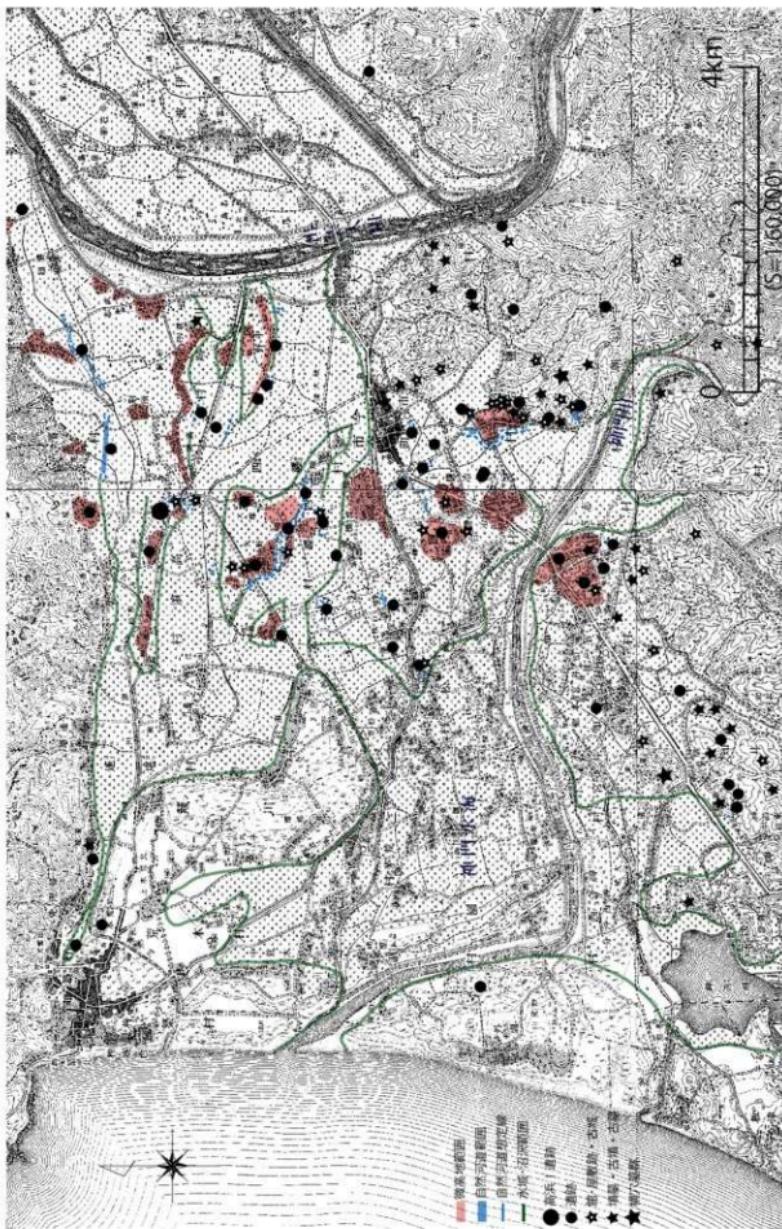
以下、出雲平野の遺跡の分布と土地利用などの状況について、高浜Ⅰ遺跡（平野北部地域）と関連する古代と中世を中心として述べることとする。

【古代以前】第46～48図

縄文時代の出雲平野は定住するには未だ不安定な状況であったようで、集落遺跡は皆無である。あるいは三瓶山の噴火などによる大規模な洪水砂により埋没しているかもしれない。弥生時代は、早くに形成された微高地に、自然河道や人工的に掘削して築かれた大溝で集落を囲繞することが知られている。

古墳時代に入るとまもなく集落を囲繞していた大溝などに土器を大量に廃棄し、弥生時代からの集落は縮小し廃棄されていく。そして古墳時代の集落は、平野中央部からほとんどが消え、平野南の丘陵上の遺跡が存続する。古墳の様相は、集落の展開と同様な動きをみせている。後期になると平野中央部に集落が戻り始める。大型古墳が築かれ、それに序列をなすような古墳も築かれるようになり、平野部にも古墳が築かれる。

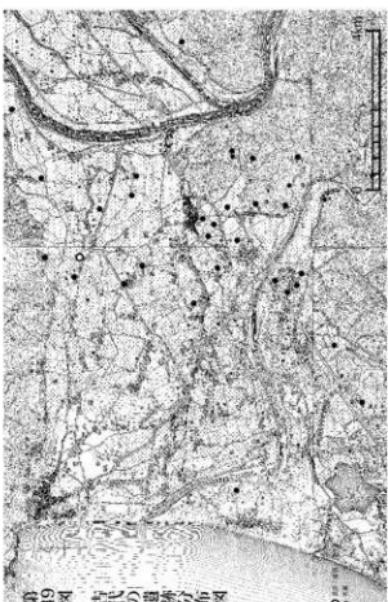
高浜Ⅰ遺跡が位置する平野北部地域では、弥生前期の遺跡として北山裾からやや平野に位置する里方本郷遺跡がある。里方本郷遺跡と山持遺跡の集落は北方の谷田谷川、伊努谷川のそれぞれ扇状地



第45図 出雲平野の遺跡分布図（明治28年地図）



第47図 桜井時代の遺跡分布図



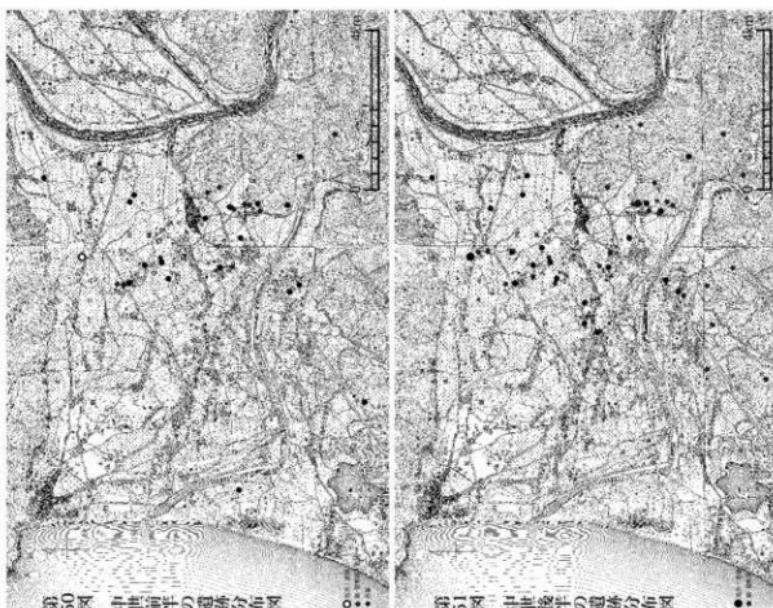
第49図 古代の遺跡分布図



第46図 神文時代の遺跡分布図



第48図 古墳時代の遺跡分布図



第50図 中世前半の遺跡分布図

第51図 中世後半の遺跡分布図

上にあったものと想定される。更に南に位置する高岡遺跡第2地点・高岡II遺跡の集落は北方に位置する高岡遺跡・稻岡遺跡あるいは南方に位置する中野遺跡群の北にある微高地にあったと想定される。

【古代】第49図

奈良時代に築かれた遺跡は古墳時代から継続しているものがほとんどである^{注3}。

出雲平野西部に遺跡が築かれていらない範囲は、『風土記』で「神門水海」と記された入海の範囲と重なる^{注4}。日本海と現在の神戸川（『風土記』では「神門川」）を挟んだ南北に延びる砂浜は齒の松山と呼ばれた砂洲である。当時は現在の神戸川の河口付近が「神門水海」の水門であり、「神門川」の河口は旧古志橋西側辺りでその付近から「神門水海」へ広がるようになると思われる^{注5}。現在の斐伊川は『風土記』では「出雲大川」として現在の川跡地区の辺りで西流していたと考えられる。「神門水海」は周囲 35 里 74 歩（約 18.8km）として示されているので、当時は出雲平野の西半分（高松地区から浜山西側の大社荒木地区）を占めていたのであろう。浜山南縁から白枝町の間を通して浜山東側の潟湖とつながり、そこに東から流れてきた「出雲大川」が注いだものと思われる。平野部には二大河川に沿うように何本もの自然河道が流れ^{注6}、微高地上や北山・南部の丘陵上や山裾に遺跡を築いている。

平野北部地域は、神門郡「八野郷」北部、出雲郡「伊努郷」に比定される。この地域には、何本

もの川が流れていたことが高浜Ⅰ遺跡をはじめとして高岡遺跡第2地点・高岡Ⅱ遺跡・里方本郷遺跡・山持遺跡などの調査によって明らかである。試掘調査において、高浜Ⅰ遺跡と下澤遺跡の間には遺構空白地帯が確認されており、自然河道があったと思われる。第45図を見ると、その東に位置する里方本郷遺跡・山持遺跡の自然河道とつながる可能性がある。また高浜Ⅰ遺跡と大塚遺跡の間にも遺構空白地帯が確認されている。その東に位置する高岡遺跡第2地点・高岡Ⅱ遺跡の自然河道とつながる可能性があり、ここにひとつの大きな流れがあっても不思議ではない。出雲郡と神門郡の境となるはずの「出雲大川」の本流は定かではないが、この流路は本流のひとつの可能性は高い。

高浜Ⅱ遺跡は「出雲大川」の本支流の低微高地上に当たり、標高2.3～2.7mで遺構を検出している。同じく北山の山裾に位置する下澤遺跡は客垣谷川の扇状地先端に位置し、水田跡が検出されている。水田は谷からの土石流による埋没を受けて、2回作り直している。そのような環境の下でも水田耕作を行ったのは、集落として安定した北側の扇状地上を利用したかったと考えられる。山持遺跡では盛土工事を行なった道路状遺構、畝状遺構・水田耕作跡を検出している。居住区域は北方の伊努谷川の扇状地上であることが想定できる。古代まで自然河道であった高岡遺跡第2地点では、当該期には湿地になり水田耕作地として利用され始める。

【中世】第50・51図

中世は、「神門水海」が沖積作用により徐々に縮小し、その周辺は湿地帯となる。湿地帯は地盤が安定して平野部が徐々に広がっていき、新たな遺跡が展開してくる。新たな湿地帯は沼沢地として広がり、水田耕作地も広がっていったものと思われる。「神門水海」が縮小するにつれて水海域が狭くなり、中世の山陰道は神西湖の北側を通っていたと考えられている^{注7)}。

平野中央部地域は、中世になって新たに展開する遺跡が多く、沖積作用により新たな微高地ができたものと思われる。新たに築かれた遺跡としては、微高地上に位置する渡橋沖遺跡、「神門水海」の汀線に最も近く微高地及び後背湿地にまたがる部分に展開する余小路遺跡・余小路遺跡の約200m北東の微高地上に位置する白枝本郷遺跡である。古代から継続する遺跡としては矢野遺跡がある。矢野遺跡では13～14世紀の屋敷地が築かれ、中世後半には居住域を微高地西側の自然河道が埋没した付近へ移動している。古代から継続中世後半に拡大する遺跡として屯田遺跡がある。蔵小路西遺跡は12世紀後半～15世紀前半に堀をめぐらす館跡が築かれる。姫原西遺跡では古墳時代初頭に埋没する自然河道の右岸に15世紀後半～16世紀後半の古墓が纏まって墓域を形成する。中野美保遺跡・中野清水遺跡では、中世後半には遺跡全体が水田耕作地となる。

高浜Ⅰ遺跡は、旧斐伊川の本支流が流れている場所に築かれる。旧斐伊川の東側と浜山東側の潟湖のほぼ中間の位置である。高浜Ⅰ遺跡が所在する平野北部は、浜山東側の潟湖が「神門水海」と共に縮小していき、旧斐伊川が西流する場所では湿地帯が増えやや安定した場所が出来上がっていったと思われる。しかし北西に位置する高浜Ⅱ遺跡では当該期には遺跡を廃絶している。北山裾の下に位置する下澤遺跡は水田が放棄され湿原に、里方本郷遺跡は自然河道が埋まり沼地となり土地利用はされていない。山持遺跡では当該期には水田耕作地として利用されている。更に南に位置する高岡遺跡第2地点では古代から引き続き水田耕作地として利用されている。高浜Ⅰ遺跡中央東側の2区では、14世紀中頃～17世紀初頭までの堀をめぐらす屋敷跡が見つかっている。屋敷跡の南側(3区)には自然河道が流れ、その南側(1区)には15世紀～16世紀に大規模な造成(盛土)を行なって敷地を確保し遺構を築いている。

以上のように、平野北部地域や平野中央部地域に新たに展開する館跡・屋敷跡・集落は、以前は湿地帯ではなかったかと思われるような場所に遺跡を築いている。原慶三は「近年の研究成果によると、西国武士や荘園領主の支配の拠点と、新たに東国から入部した地頭の館では立地条件が大きく異なっている。すなわち、前者の支配拠点が早くから開発が進んだ川の支流沿いの谷の出口部分に所在することが多いのに対し、後者は川の本流沿いの低湿地の近くに所在して、低湿地開発の拠点となつたとするのである。地頭は、東国で身についた低湿地の開発経験と技術をもとに、それまで開発が遅れていた平野部を自ら支配領域とした。」^{注8}とする。これを出雲平野に当てはめると、前者は神戸川左岸や右岸（平野南部）の屋敷跡、後者は平野中央部や北部の屋敷跡に当たると考えられる。

【近世】

中世からは継続して營まれる遺跡が多いようである。斐伊川の主流も寛永12（1635）年頃に土木工事によって東に流れを変え、上流からの鉄穴流しにより天井川となっていく。「神門水海」の名残りは神西湖となり、神戸川も現在の位置に定まり、浜山の東側の潟湖も縮小して菱根池となっていたものが寛永年間（1624～1643年）に干拓されて水田地帯となる。そしてほぼ現在（明治28年図景観）の地形となったようである。また灌漑水路の掘削・整備などが行なわれ、出雲平野は穀倉地帯へと発展していく。今市・大津を中心に旧山陰道沿いの微高地上にも町屋が形成され、人馬が行き交っていた様子が想像される。近世に村単位の居住域が集約され、出雲平野の景観が出来上がったものと思われる。

注1 平成17（2005）年市町村合併前のほぼ田出雲市域

注2 「第1表 遺跡一覧表」より、米田の管見内

注3 米田美江子「遺跡分布から見た出雲平野の形成史 表1」「島根考古学会誌 第23集」2006 島根考古学会

注4 「第1図 高浜I遺跡の位置と周辺の道路」または「第45図 出雲平野の遺跡分布図」

注5 第45図から、天神赤川を引線と考えたラインどり、視覚的には神門郡家から西へ4里50歩（約2.3m）付近から水海と見られていたようである

注6 発掘調査の結果、自然河道は「出雲大川」の流れに沿うように、平野南部から中央部にかけては南北方向、平野北部は東西方向の流れがみられる

注7 関宏三「中世の神戸川南岸地域の特色」「出雲国風土記の研究IV 神門水海南辺の研究（論考編）」2013 島根県古代文化センター

注8 原慶三「第二編臨治の歴史 第三章第一節平安末～鎌倉期の塩治」「出雲塩治誌」2009 出雲塩治誌編集委員会

第4節 出雲平野の中世の館跡及び屋敷地

出雲平野では、中世の館跡及び屋敷地と思われるような遺跡が、高浜I遺跡を含め9遺跡が知られている。築山遺跡のように複数検出された遺跡もある。しかし屋敷地全体を調査した例はない。館跡及び屋敷地としたものは、堀（最大幅が3.0m以上）・土塁が廻るもの、堀状の大溝（最大幅が3.0m未満）が廻るもので、方形区画を想定すると一辺が30m以上のものである。淨音寺境内館跡・三木氏館跡が現在もその痕跡を残している。また居館・屋敷地内のほとんどに鍛冶関連遺物が出土してお

り、居住域内で小鍛冶が行なわれていたものと考えられる。以下、屋敷地跡を検出した遺跡を南部から概観していく。

下古志遺跡では、16～17世紀に遺跡南西部^{注1}で堀状の大溝（幅2.0～1.5m、L字状に検出）で囲まれた屋敷地跡が築かれる。建物跡が1棟のみ検出されているが、敷地内の状況は不明である。屋敷地跡の南西部や東側でも区画溝が検出されており、集落の小単位ではないかと思われる。

築山遺跡は平野南の丘陵下方（北）に位置し全体が居住域となっている。その中で方形区画が第52図のように、5箇所（屋敷A～E）見つかっている。高浜I遺跡と同じように屋敷地が近接していることから、その様相を以下詳しく述べる。

屋敷Aは塩治神社が正徳3（1713）年に現在地に移転する前の敷地である。現在の塩治神社からは150m西に位置し、微高地の東縁辺部に当たる。発掘調査により北辺と南東辺が検出され、一町四方であることが確認された。幅3.5～1.0mの堀に囲まれている。南辺が幅1.0mと狭く、この付近に門があったものと考えられる。報告書では15～16世紀の堀と判断しているが、屋敷地内で13～14世紀頃のL字状の溝で舟形木製品を使った祭祀が行なわれている。海上交通を押さえていた塩治氏との関連がみられ、その頃には屋敷Aに旧塩治神社が所在していたと思われる。北東部では畠状遺構が検出されており敷地内で自家用耕作を行なっていたようである。小鍛冶も行なわれており鍛冶関連遺物が出土する。また北側の堀の外には土壙墓が集中している。

屋敷Aの南約70mには東西に隣接した状況で屋敷地を囲む堀（屋敷B・C）が見つかっている。両屋敷の南辺は屋敷Aの南辺から約70mある。屋敷Aの南辺には門が開くことから、両屋敷との間には空閑地があったと思われ、この二つの屋敷地は半町四方と推定される。その場合、屋敷Aとは20mの距離が開くことになる。西側の屋敷B（堀幅4.0～3.0m、L字状で検出）は13～14世紀、東側の屋敷C（堀幅3.5～1.0m、L字状で検出）は14～15世紀に營まれていたと考えられている。調査範囲が狭く屋敷地内の状況は不明である。

遺跡の南西部には塩治判官館跡推定地内で検出された13～14世紀の屋敷D（堀幅3.0～2.5m）が、上塩治築山古墳の西側をかすめるように造られていたものと想定される。13～14世紀の東西溝SD3154と南北溝SD3141が2条検出されている。報告書^{注2}では、東西溝SD3154は調査区南壁の手前でなくなり、南に屈曲すると想定されている。しかし、北側の上端線を東に延長すると、築山4号墳を壊している東西方向の掘方上端線とつながる。一連の遺構であり、SD3154は東に延びていた可能性がある。ふたつの溝は時期と規模が一致し、調査区内でほかに同様の遺構もみられない。このことから、東西溝SD3154と南北溝SD3141は屋敷地の南・東辺を区画した堀と想定される。SD3141の南端から北に約74m離れた上塩治築山古墳7T^{注3}で、時期が一致する南北溝SD03が検出されている。一連の南北方向の堀の可能性があり、屋敷地の規模は南北に約一町と推定される。一町四方を想定した場合には、SD3141から西に約100m付近を南北に通る小道が屋敷地境の痕跡であるかもしれない。なお屋敷地内からはSD3154に平行する柵列、建物跡1棟を検出している。

屋敷Eは、屋敷B・Cの35m南に位置する。屋敷A～Dと比較すると小規模な30m四方の15世紀頃の敷地である。敷地を廻る溝はコの字状に検出され、幅は1.0mと狭い。このような小区画は、別の屋敷地か、屋敷A～Cに付属するものかは不明である。

寿昌寺遺跡は築山遺跡の屋敷Dの南方に位置し、14～15世紀の屋敷地を囲む堀（幅3.0～2.0m）が検出されている。検出された南辺と東辺の堀に対応する北側と西側それぞれ約80mのところには



第52図 築山遺跡・角田遺跡・寿昌寺遺跡の中世屋敷跡復元図¹⁶

小道が通っている。屋敷地境の可能性があり、約 80m 四方の屋敷地跡と推定できる。なお西側の小道は北に位置する築山遺跡屋敷 D の屋敷地とした小道とつながっている。調査範囲の敷地内は近世の耕作関連遺構に壊されており、井戸しか検出されていない。

築山遺跡屋敷 A の北に位置する角田遺跡では 12 ~ 13 世紀の幅 2.0 ~ 1.5m の堀状の大溝（L 字状で検出）で囲まれた半町四方の屋敷地跡が見つかっている。調査範囲内では井戸のほかに土壙墓と思われる遺構が 2 基検出されているのみである。この屋敷地は微高地の縁辺部に位置しており、東側は約 60m 先で大井谷へと地形が下がっていく。

天神遺跡では、遺跡南部に中世前半期の屋敷を囲うような堀状の大溝（幅 2.3 ~ 2.0m）が検出され、北西部でも中世後半の堀状の大溝（幅 2.0 ~ 1.8m）が L 字状に検出されている。前者は調査範囲が狭く大溝以外の状況は不明であるが、後者は調査した範囲内では、建物跡は検出されず溜池や井戸と共に土壙墓と考えられる遺構が纏まっている。

高西遺跡の所在する微高地に浄音寺境内館跡がある。この館は、塩治高貞の弟時綱の系統である後塩治氏の居館（14 世紀以降）ではないかと考えられている。土墨の一部が残り堀の痕跡が見られる。

余小路遺跡では、16 世紀後半から 17 世紀にかけての堀（幅 3.0 ~ 2.0m）をめぐらす 40m 四方の屋敷地跡があり、建物跡などが検出されている。敷地内には約 50cm 幅の小溝が、堀の近くを並走して造られている。近世に入ると屋敷地の内外に墓域が造られる。屋敷地の外側と思われる北東域の方に、屋敷地跡と同時期の柱穴の堀方が大きい建物跡が数軒建て替えを繰り返しながら展開する。

蔵小路西遺跡は 12 世紀後半～15 世紀前半の堀（幅 4.0m）をめぐらす一町四方の館跡で、この地を基盤としていた朝山氏のものと考えられている。堀の周囲は遺構の空閑地となっており土墨が築かれていたものと思われる。全国的には 13 世紀、早くとも 12 世紀終わり頃に方形館が出現し、14 世紀以降に堀・土墨をもつ居館が整うとされている^{注4}。本遺跡でも堀を掘削したのは 13 世紀以降と考えられる。西側の堀内には橋をかけたような痕跡があり、出入口があったと考えられている。建物群は西堀側と東堀側南寄りの 2 グループに分かれ、井戸や水溜めも多く掘られている。東堀南寄り建物群の北側は広場のよう遺構が無い。15 世紀後半には西側の建物群に木棺墓・土壙墓を築き、墓域に変えている。また屋敷地の外には旧河道による湿地が広がり、水田耕作が行なわれていたものと思われる。

小山遺跡第 1 地点のトレンチ調査地は、蔵小路西遺跡館跡の北西約 10m に位置する。館跡とほぼ同時期の土坑・柱穴などが検出されており、館に関わる小集落が存在したと思われる。また小山遺跡第 2 地点には、佐々木塩治氏から分かれた三木氏の屋敷跡と伝えられる三木氏館跡が所在する。

矢野遺跡では、遺跡北東部に幅 2.0 ~ 1.5m の堀状の大溝で囲まれた 13 ~ 14 世紀の 30m 四方の屋敷地（屋敷 A）が築かれる。東側には外溝が楕円形に延びて堀状の大溝との間に空白地帯を作っており耕作地であったと思われる。堀状の大溝から外溝が派生するコーナーには水溜めが造られ堀状の大溝と外溝がつながっている。敷地内には井戸・水溜め、多数のピットが検出されている。屋敷 B は、屋敷 A の 130m 南方に築かれている。築山遺跡屋敷 E と同じく小規模な敷地を廻る溝で、幅は 1.0m と狭く、L 字状に検出された 12 ~ 13 世紀の敷地である。東西に走る道状遺構に平行して築かれている。



写真1 高浜I遺跡2区遠景（上空：南から）



写真2 高浜I遺跡2区近景（上空：南から）

以上のように、発掘調査された中世から近世初頭の屋敷地（屋敷地を区画する溝を伴うもの）は9遺跡15箇所であった。あらためて、これらと高浜I遺跡の1区・2区屋敷地を比較してみたい。
1区・2区の屋敷地配置

1区の区画が明確でないため、築山遺跡（屋敷A～E）のような計画的配置が明らかでない。ただ建物の軸は一致しておらず計画性はないと考えられる。

2 区の屋敷地

大溝と土塁をもつ平地の居館には蔵小路西遺跡と淨音寺境内遺跡、三木氏館跡がある。蔵小路西遺跡は朝山氏、淨音寺境内遺跡は塙治氏一族の居館と推定され、一町四方の規模に復元されている。館の内部は蔵小路西遺跡では居住（公的）部分と倉庫などが区分されており、三木氏館跡も土塁によつて同じように区画されたと考えられている^{注5}。2 区屋敷地も SD01 により北と南が区画されており、施設配置が区分されていた可能性がある。3 つの館跡と 2 区の屋敷地は同規模の大溝と土塁を有する点は共通する。屋敷地の規模は 3 区で遺構が確認されなかつたことから一町四方とは考えにくい。県道矢尾今市線に北面するあたりとし、半町四方程度と推定される（第 42 図）。

1 区の屋敷地

出雲平野の屋敷地で大規模な盛り土造成をおこなったものは確認されなかつた。1 区の屋敷地の特異性が追認されたといえる。館の主は塙治氏の系譜にある国人領主層や有力土豪とみている。低湿地を大規模開発し拠点とした歴史的背景については、再検討する必要があるだろう。また屋敷地の北辺（および南辺）を区画する施設がない点も注目される。この屋敷地の性格を反映した可能性も考えられ、あわせて検討する必要があるだろう。

注1 掘査地点の詳細（調査地区名等）は、「第1表 古代～近世前半の遺跡一覧表」にゆだねる。以下も同じである

注2 出雲市教育委員会「篠山遺跡Ⅳ」「県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」出雲市の文化財報告 6 2009

注3 出雲市教育委員会「土塙治篠山古墳」2004

注4 島根県教育委員会「蔵小路西遺跡」「一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告 2」1999 でも、橋口定志・広瀬和雄・

峰岸純大「中世別館」「季刊自然と文化」1990 を参考に摘載している

注5 山根正明「埋蔵文化財の語る中世の塙治」「出雲塙治誌」出雲塙治誌編集委員会 2009

注6 注2の「附図3」を改変

第5節 おわりに

以上、高浜 I 遺跡 1～3 区の屋敷地および墳墓の様相について、出雲平野の調査事例をふまえて検討を加えた。出土遺物については十分な検討を加えることはできなかつたが、遺跡の立地基盤の形成と土地利用、屋敷地の成立と変遷について見通しを示せたものと思う。

1990 年代以降、島根県と出雲市により行われた斐伊川放水路・出雲バイパス・東林木バイパスなど大規模開発事業に伴う調査で、出雲平野の調査事例は飛躍的に蓄積された。この四半世紀以上にわたる調査成果を総合化し、出雲平野の集落の動態や景観の復元にあらためて取り組む必要がある。

第1表 古代～近世前半 遺跡一覽表

(清路No.13第1回上)

No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古文書 中世地主[古墳主] (s=sec.) (11=sec.) (11=sec.)	遺跡の概要	出土物 回数	占率 (%)	石塔 ④	内訳
16	上次畠遺跡	上畠町	17.8~22.0		・古代～近世初期は耕作・開拓地 ・遺地は墓場	○	4.9	③古墳を建てる建物跡・削土跡を検出。磯の引口・鍛造跡・窓跡等	
17	長原遺跡	大津町	30.6~30.0		・近世の農業地 ・古文書「荒らび古代田開拓の遺跡」		1.3	④古墳は土壙墓	
18	丸谷口遺跡	上畠町	100.2~ 110.0		・古文書「荒らび古代田開拓と13世紀にかけての大規模な改土」、15世紀にかけての多段階の改土が記載。土壙墓等が複数ある。 ・遺跡は耕作地、建築物、石礫敷き道等が複数ある。	○	4.5 a	③耕作跡の遺物を出土。 ⑤古墳を建てる建物跡・五輪塔跡・石垣跡等を検出。山頂付近に約7×5m範囲の石礫敷地(中世)・五輪塔跡的一部分上に位置する遺跡を認めた。	
19	寺崎寺遺跡	上畠町	10.4~11.7		・古文書には「耕作地・林地」と記載。後半にかけて、14～15世紀頃から山周辺の山麓へ移転して森林化が進む。 ・土壙墓が集中。後半にかけて、14～15世紀頃から山周辺の山麓へ移転して森林化が進む。	○	○	②14～15世紀の土壙墓90基の方針地帯を認めた。集石柱等が出土。 ③耕作跡の遺物を出土。 ④古墳を建てる建物跡を認めた。	
20	高山遺跡	上畠町	8.7以下~ 11.1		・耕作地、墓場 ・施設全體が範囲 ・古文書「高山寺落成の跡」では「アンド寺はすしてて物跡が施され、山野寺落成の跡」「吉田「無」門」「金」「家」「西」「井」、鉢林、井戸池、木桶、灯明皿、漆器上器が多く出土し、弘法大師御施設、萬葉抄がある。 ・遺跡は耕作地(1B+1A+1C+1D)で構成が認められている。付近には物跡等が複数ある。 ・遺跡は耕作地(1B+1A+1C+1D)で構成が認められている。付近には物跡等が複数ある。	○	1.3	①耕作跡の遺物を出土。 ②窓跡や土壙墓を検出。窓跡、土壙墓、井戸等が出土。自然河床は場所 付近の施設(1B+1C+1D)西側の自然河床で自然河床より生前の初期を検出。北に位置する吉田農耕跡を検出した。自然河床とつながる。 ③田舎宿泊施設の上部墓(1基)と窓跡(3基)。 ④古墳を建てる建物跡を検出。窓跡を検出。自然河床は場所	
21	角田遺跡	上畠町 塩治町	8.0~9.0		・耕作地 ・地形的条件による集中地 ・古文書に記して3段階分野に「地形的条件の存在」。 ・耕作地開拓・施設地開拓・土壙地の構成がある。 ・東西の自然河床に施設地を認めた。東側は古墳時代、西側は平安時代のものである。 ・井戸群が集中する。	○	○	①耕作跡の遺物を出土。 ②窓跡や土壙墓を検出。 ③田舎宿泊施設の上部墓(1基)と窓跡(2基)。 ④古墳を建てる建物跡を検出。	

番號 No.	遺跡名	所在地 (町名)	立地標高 (m)	古文書中世地名[古墳名] (8~10c) (11~14c)	遺跡の概要	自然河川			内訳 ①生息する魚類 ②河川に接する自然河川(2次)で、古代には生息 して現在無 ③遺跡が近い範囲(3次)の木构造基と土壤層1基がやや 触れておられる
						河川 名	河川 長 km	河川 面積 km ²	
32 毛上田遺跡	白枝町	3.0~4.4	・遺跡南側(105m)で土器群、水瓶が分散する。自然河川 上流に位置する。	・遺跡北西側(36m)に居住域 ・古墳時代中期(175m)に集落は発達。近年に耕作地	1本 ○	○	3.5km	0.6km ²	④調査がまだ未だ施設基と土壤層1基がやや 触れておられる
33 白枝東神遺跡	白枝町 黄瀬町 天神町	2.5~3.4	・古墳時代中期(175m)に土器(長圓寺古 谷)で、門脇郡北方郷(山田塚)に至る。	・13~14歳の集落 ・発達した内部構造(住居跡を中心とした複数施設、区画溝、櫛列を伴う建物跡 など)には建物基石の痕跡がある	3本 ○	○	9.5km	1.0km ²	⑤調査の初期段階(115m)にはやや安定期であるが、それ以前は開 拓時代中期(175m)に自然河川が古河時代前期にはほぼ埋没し、古 河時代中期(175m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
34 井原遺跡	白枝町 尼翁下町	2.0~2.9	---	---	1本 ○	○	3.5km	0.6km ²	⑥調査の初期段階(115m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
35 渡橋中央遺跡	渡橋町	3.5~3.8	---	・12世紀後半から13世紀初頭を中心とした集落跡 - 朝山 氏の居館	3本 ○	○	5.5km	0.5km ²	⑦調査の初期段階(115m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
36 越小堀西遺跡	渡橋町 小堀町	3.0~4.8	---	・遺跡東側(101m)に位置する原野跡内に建物跡、井戸、 古井が確認される。屋敷跡外には農業の排水池が広がり、自然河 道の増設後、灌漑を利用した水田耕種地帯があつたと考えられる	1本 ○	○	3.5km	0.6km ²	⑧調査の初期段階(115m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
37 越前西遺跡	越前町	3.5~5.0	---	・自然河川河岸に、11~15世紀頃の建物跡、約20m自然河川 に古窯及び瓦窯跡が集中する	1本 ○	○	3.5km	0.6km ²	⑨調査の初期段階(115m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
38 上長丘貝塚	西船町	7.0~9.0	---	・遺跡東部、地上遺構(小礫砂岩)に開むる遺跡か、大量の土堆出 土・貝殻形成。	○	○	3.5km	0.6km ²	⑩調査の初期段階(115m)には現地所では木构造基と土壤層1基 が認められ、他の土器も基が判明
39 中野西遺跡	中野町	3.5~3.9	---	・神門本塗の塗低地、遺構はほとんど無く包含層に遺物が多 く出土。	○	○	3.5km	0.6km ²	⑪遺跡の周囲1~1.5kmの範囲(10~11世紀)に建物跡 が認められており、そのうちの1つは中世後半の土器
40 中野東保遺跡	中野町	3.6~4.5	---	・田代伊(川)の東西両側に築堤、築堤の背側、16世紀前半の建物跡 などがある。	1本 ○	○	3.5km	0.6km ²	⑫中世後半~近世は本田耕作地(洪水による)へ回の復旧跡 が認められる。

第2表 出土土器観察表

Fig	遺物 番号	厚真区 段番	出土 地点	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調		胎土	施成	調整・備考		
										外: N6/ 内: N6/	1mm以下の砂粒を含む			外: 平行タタキ 内: 同心円状具痕		
9	1	17	2	B5	茶褐色 土	須恵器	便			灰色	外: N6/ 内: N6/	1mm以下の砂粒を含む	良好	外: 平行タタキ 内: 同心円状具痕		
9	2	17	2	B6	茶褐色 土	中世須恵器	鉢		8.2	灰色	外: 7.5VR6/1 内: N6/～N5/	1mm以下の砂粒を含む	良好	外: ナデ 内: 放射状に体部は黒いハケメ、底面は緑のハケメ		
9	3	17	2	B6	茶褐色 土 (安那系)	陶器	甕			外: 淡黄色 内: 淡黄褐色～褐色	外: 7.5VS5/1 内: 10VR4/2～ 10VR4/1	2mm～3mmの砂粒を多く含む。 3mm～4mmの砂粒を含む(淡黄色)	良好	調査機の可能性あり		
9	4	17	2	B8	青灰色 粘質土	須恵器	环			外: 淡灰色 内: 淡白色～褐色	外: N6/ 内: N6/～N5/	灰	良好	外: 回転糸切刃 回転ナデ 内: 回転ナデ		
19	1	18	2	SD03		土師器	鉢			外: に赤い褐色 内: 淡灰色	外: 10VR7/3 内: 7.5YR4/1	1～2mmの砂粒を含む	良好	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ		
19	2	18	2	SD03		土師器	鉢			外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色～に赤い褐色	外: 7.5VR6/4 内: 7.5VR6/3～ 10VR6/3	2～4mmの砂粒を含む	良好	外: 黑化現象 内: 粗いハケメ		
19	3	18	2	SD08	陶器 (肥前系)	瓶				に赤い褐色～淡	10YR6/3～ 2.5YR6/3	0.5mm以下の砂粒を含む(赤褐色) に赤い褐色のYR7/3	良好	外: 白化現象 ハケメ 内: 黑化現象 ハケメ		
20	1	18	2	SK01	青磁 (鹿島系)	瓶				明オリーブ色	2.5GY7/1	0.5mm以下の砂粒を含む(灰白色) 灰白色(5Y7/1)	良好	龍坂系青磁瓶 II-B類		
20	2	18	2	SK02	青磁 (中国青磁)	土師器	环			浅黄褐色～灰白色	7.5VR6/3～ 7.5VR6/2	1mm以下の砂粒を含む	良好	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ		
20	3	18	2	SK02	青磁 (中国青磁)	瓶				オリーブ灰色	10YR6/2	1mm以下の砂粒を含む(灰白色)5Y7/1	良好	外: 旋轉 回転ナデ 内: 回転ナデ		
20	4	18	2	SK04	陶器 (唐津系)	皿				外: 淡褐色 内: 淡褐色	外: 5VR5/2 内: 5VR4/2	1mm～2mmの砂粒を含む(灰白色) 2.5YR7/1	良好	外: 旋轉 回転ナデ 内: 回転ナデ		
20	5	18	2	SK06	陶器 (備前系)	盤	29.4			外: 淡白色 内: 淡褐色	外: 7.5VR6/1 内: 5YR6/1	0.5mm以下の砂粒を含む(淡褐色) に赤い褐色の5YR6/1	良好	外: 回転ナデ 内: 陶器A盤 日日6条以上 備前IV期		
20	6	18	2	SK07	陶器 (肥前系付)	瓶	13.8	2.7	9.2	白色		0.5mmの砂粒を含む(白)	良好	外: 頂端で破 内: 旋轉で破		
21	1	19	2	NR01	下層	土師器	瓶	7.8	1.9	3.8	に赤い褐色	5YR7/4	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ	
21	2	19	2	NR01	灰白色 土	陶器 (備前系)	瓶			外: に赤い褐色 内: 淡褐色	外: 5VR5/4 内: 7.5YR4/2	1～2mmの砂粒を含む(灰 色N6/)	良好	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ 日日8条以上 備前IV期		
21	3	19	2	NR01	灰褐色 粘質土	瓶				外: オリーブ灰～明 オリーブ灰色 内: 明オリーブ灰色	外: 2.5GY6/1～ 2.5GY7/1 内: 2.5GY7/1	赤(灰白色)2.5YR6/1	良好	外: 蓮弁文		
21	4	19	2	NR01	青磁 (鹿島系)	瓶				4.8	赤(オリーブ灰)～に赤 い黄色	7.5W6/2～2.5W6/3 2mm～3mmの砂粒を含む(に赤い 黄色)5YR7/4	不良			
25	1	20	2	NR02		土師器	皿			灰白色	10YR8/2	2mmの砂粒を含む	良好	外: 旋轉ナデ 内: 旋轉ナデ		
25	2	20	2	NR02		土師器	柱状高台 部	4.4		に赤い褐色	外: 5YR7/4 内: 7.5YR7/4	2mmの砂粒を含む	良好	外: 旋轉ナデ 内: 旋轉ナデ		
25	3	20	2	NR02		陶器	甕			外: オリーブ色・ 白色 内: 淡黄褐色	外: 5VR2/2 内: 10YR6/2	1～3mmの砂粒を含む(褐 色5YR6/1)	良好	外: 自然釉 内: 指泡え		
29	1	21	2	SX01		土師器	环	11.4		外: に赤い褐色 内: に赤い褐色	外: 10VR7/2 内: 7.5YR7/3	1mm以下の砂粒を含む	良好	外: 黒斑		
29	2	21	2	SX01		瓦質土器	鉢			外: 灰色 内: 淡灰色	外: N6/ 内: 2.5YR6/1	1mmの砂粒を含む	良好	外: ナデ 内: 粗いハケメ		
31	1	21	1	B1	黄灰色 土上面	須恵器	甕			外: 淡灰色 内: 淡白色	外: N7/ 内: 2.5YR7/1	0.5mm以下の砂粒を多く含む	良好	外: 格子文 内: 同心円状具痕		
31	2	21	1	C1	黄褐色 土	土師器	瓶	11.4	2.5	7.6	淡黄褐色	10YR8/3	1mm以下の砂粒を含む	良好	外: 回転ナデ 内: 回転糸切刃	
31	3	21	1	C1	灰色粘 質土	土師器	瓶			外: に赤い褐色 内: に赤い褐色	外: 2.5YR6/3 内: 5YR6/4	2mm～3mmの砂粒を含む、9mmの 縫合を含む	良好	外: 黒斑 内: 全面研磨 黒斑		
31	4	21	1	C1	青灰色 粘質土	陶器 (安那系)	甕			外: 淡褐色 内: 淡褐色	外: 5YR5/1 内: 10YR6/1	1～3mmの砂粒を含む(灰 色5YR6/1)	良好	外: ナデ 内: ナデ		
31	5	21	1	B1	灰白色 土	陶器 (備前系)	瓶			外: 淡褐色 内: 明赤褐色	7.5YR4/2	1～4mmの砂粒を多く含む に赤い褐色2.5YR5/0	良好	外: ナデ 内: 指泡え		
31	6	21	1	B1	灰白色 土 (備前系)	瓶				外: 淡褐色 内: 明赤褐色	外: 2.5YR6/6 内: 2.5YR5/6	1～3mmの砂粒を含む(赤 色2.5YR5/0)	良好	外: ナデ 内: ナデ 備前IV期(IVB-1類)		
31	7	21	1	A1	灰色土	白磁				灰白色	2.5GY8/1	密(灰白色N6/)	良好	外: 内面とも施釉		
31	8	21	1	B2	灰色土	青磁				灰色	7.5YR6/1	0.5～2mmの砂粒を含む (黄灰色2.5YR6/7)	良好	外: 内面とも施釉		
31	9	21	1	A1	造形土 (手積込)	陶器	瓶			灰白色	5YR7/2	1～2mmの砂粒を含む(灰 色10YR6/1)	良好	外: 内面とも施釉		
32	1	22	1	C2	造形土	陶器 (肥前系)	瓶	10.4		黑褐色・黃褐色	10YR2/3～2.5YR5/6	2mm以上の砂粒を含む(灰 色10YR6/1)	良好	外: 流し運び 内: 流し運び		
32	2	22	1	B2	青灰色 粘質土	陶器 (肥前系)	皿		4.4	外: に赤い褐色 内: 淡オーブン色	外: 7.5VR6/3 内: 5Y5/3	1mm～2mmの砂粒を多く含む に赤い褐色2.5YR7/1	良好	外: 施釉 内: 施釉 回転ナデ		

Ptg	番号	写真 図版	採取地 位置	出土 地点	層位	種別	岩種	口径 (cm)	基高 (cm)	基底 (cm)	色調	胎土	焼成	調整・備考	
32	3	22	1	C1 調査区 東側面	灰色粘 質土	陶器 (肥原系)	砂芯+燒 結物				外:赤褐色 内:灰褐色	外:2.5VR6/3 内:2.5VS5/1	1~2mmの砂粒を含むに よる、2.5cm以下	良好	外:鉄錆 内:当て板
32	4	22	1	B2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	甕	18.0			外:褐色 内:灰褐色	外:7.5VR4/4 内:7.5VS3/1	1mm以下の砂粒を含むに よる、2.5cm以下	良好	外:鉄錆 内:当て板
32	5	22	1	B2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	瓶		14.6		外:黒褐色 内:灰褐色	外:10VR5/2 内:7.5VR3/1	2~3mmの砂粒を多く含む に由る、2.5cm以下	良好	外:鉄錆 内:鉄錆 磨目
32	6	22	1	B2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	合子	6.4	1.8		白色		白色(白色)	良好	外:蓮華唐草文
32	7	22	1	C2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	小丸罐	7.6	5.2	3.4	白色		白色(白色)	良好	外:蓮葉で給付 内:第3頭で給付
32	8	22	1	B2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	方形盆		4.7		白色		白色(白色)	良好	外:蓮葉で給付 内:第3頭で給付(蓮葉唐草文)
32	9	22	1	C2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	八角盆	18.4	6.3	8.6	白色		1mm以下の砂粒を含む(白 色)N9	良好	外:蓮葉で給付 内:蓮葉で給付 可能性あり
32	10	22	1	B1 調査区 南側面	灰白色 土	陶器 (肥原系)	瓶		7.0		灰オリーブ色	7.5VB/2	1mm以下の砂粒を少し含む(灰 色)N7/1	良好	外:圓錐
32	11	22	1	B2 調査区 南側面	灰色土	陶器 (肥原系)	瓶				外:にぶい赤褐色 内:にぶい赤褐色	外:2.5VR4/3 内:2.5VS5/3	1mm以下の砂粒を少し 含む(灰白色)10VR8/2	良好	外:鉄錆 内:鉄錆 磨目
32	12	22	1	B2 調査区 南側面	造成土	陶器 (肥原系)	瓶		3.2		明黄褐色	2.5VB/6	0.5mm以下の砂粒を少し 含む(灰黃褐色)10VR8/3	軟質	外:磨目
33	1	22	1	C1 調査区 南側面	造成土	陶器 (布志名地)	瓶	10.4	4.8		明綠色	10GV7/1	0.5mm以下の砂粒を少し 含む(灰白色)2.5N7/1	良好	外:施釉 下平ケン 内:施釉 ぼかして茶刷
33	2	22	1	A3 耕作土	耕作土	陶器 (布志名地)	瓶		4.0		白色		0.5mm以下の砂粒を含む(白 色)	良好	外:第3頭で 内:蓮葉で給付 丸く塊化
33	3	22	1	C1 調査区 南側面	造成土	陶器 (布志名地)	小壺		3.0		暗褐色	10VR3/3	1mm以下の砂粒を含む(灰黃 褐色)10VR3/3	良好	外:鉄錆 内:鉄錆 人字入法
33	4	23	1	C2 調査区 南側面	造成土 (灰白色)	陶器 (備他施)	德利		5.0		暗赤色 内:暗赤褐色	外:10R3/2 内:10R3/4	0.5mm以下の砂粒を含む (灰 色)5.5~6.5VR6/4	良好	外:鉄錆 磨目 備他(ごん)模様
33	5	22	1	C2 調査区 南側面	造成土 (石見地)	陶器 (石見地)	瓶	36.0			外:暗褐色 内:にぶい褐色	外:7.5VRG/2 内:2.5Y7/1	1mm以下の砂粒を含む(灰 色)2.5VR8/2	良好	外:末焼 内:口縁部はナデ ナデ
33	6	23	1	C2 調査区 南側面	造成土 (石見地)	陶器 (石見地)	瓶		8.4		オリーブ灰色	5YR7/2	1mm以下の砂粒を含む (灰黃褐色)2.5Y7/2	良好	外:落明鏡(豆鏡) 内:墨書き 落明鏡(豆鏡) 内:墨書き
33	7	23	1	B2 調査区 南側面	造成土 (石見地)	陶器 (石見地)	瓶		7.8		黑色	10YR1.7/1	0.5mm以下の砂粒を含む (灰黃褐色)10VR8/3	良好	外:末持輪 底面に墨書き 内:田舎子ナダ
33	8	23	1	C2 調査区 南側面	造成土 (石見地)	陶器 (石見地)	甕		8.6		外:暗色 内:浅黃褐色	外:10VR7/4 内:5YR7/6	0.5mm以下の砂粒を含む (灰黃褐色)10VR8/3	良好	外:田舎子ナダ 内:墨書き 内:田舎子ナダ
33	9	22	1		造成土	土師器	培塿	34.4			内:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	外:10VR5/3 内:10VR7/4	1~2mmの砂粒を含む	良好	内:圓錐に備付着
35	1	23	2	A6 調査区 西側面		調査土器	浅井	19.6			外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色~ 灰黃褐色	外:10YR7/2 内:10YR7/2~ 10YR8/2	1~2mmの砂粒を含む	良好	外:2条の沈線 ナダ ナダ
35	2	23	2	B2 調査区 南側面		土師器	壺				浅黃褐色	7.5YR9/6		良好	外:回転ナダ 内:回転ナダ
35	3	23	2	B3	灰灰褐 色土	土師器	壺		5.0		にぶい黄褐色	10YR7/3		良好	外:回転ナダ 内:回転ナダ
35	4	27	2	B7		土師器	高台付壺		8.5		黄灰色	外:2.5VB/6 内:2.5VS7/2	1mm以下の砂粒を少し含む	良好	外:回転ナダ 内:回転ナダ 高台にぬぐひ
35	5	23	2	B7	黄灰褐 色土	土師器	鉢	22.0			外:にぶい黄褐色 内:浅黃褐色	外:10YR7/3 内:10YR8/3	0.5~2mmの砂粒を含む	良好	外:細かいケメ 内:細かいケメ
35	6	23	2	A3~B3		土師器	鉢	29.6			灰白色	2.5VB/2	2mmの砂粒を含む	良好	外:細かいケメ 内:細かいケメ 3条以上の様
35	7	23	2	B5	黄灰褐 色土	土師器	鉢				外:灰白色 内:にぶい褐色	外:10YR8/1 内:10YR7/2	1~2mmの砂粒を含む	良好	外:ナダ 内:4条以上の様
35	8	23	2	B8	黄灰褐 色土	土師器	鍋	24.6			外:灰褐色 内:灰褐色	外:2.5YR4/2 内:2.5YR7/2	2~4mmの砂粒を含む	良好	外:黒錆 内:回転ナダ
35	9	23	2	B7	黄灰褐 色土	瓦質土器	鉢				灰褐色~灰白色	N4~10VG7/1	1mmの砂粒を含む	良好	外:ナダ 内:ナダ
35	10	23	2	B6		陶器 (焼器系)	甕				黄褐色	2.5V4/1	1mm以下の白色砂粒を含 む(白色)2.5cm以下	良好	外:ナダ 内:ナダ
35	11	23	2	A3	黄灰褐 色土	中世漬器	壺				灰白色	2.5Y7/1	1mmの砂粒を含む	良好	外:ナダ 内:ナダ
35	12	24	2	A7 調査区 西側面		陶器 (焼器系)	甕				外:灰褐色 内:灰褐色	外:BVRS/2 内:7.5YS/1	1mmの砂粒を含む(灰 色)2.5VR6/4	良好	外:ナダ 内:ナダ 指込孔

Ptg	樹物 番号	写真 図版	樹高 枝番	出土 地点	層位	種別	器種	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	色 調	胎土	焼成	調査・備考	
35	13	24	2	A3	耕作土 (備後地)	陶器	甕				外:赤褐色 内:灰紫色	外:2.5VR6/1 内:2.5VR6/2	1~5mmの砂粒を含むに ない赤褐色2.5VR4/3	良好	外:ナダ 内:ナダ
35	14	24	2	A6	黄灰褐 色土	陶器 (備後地)	甕				外:褐色 内:灰紫色	外:10VR4/1 内:2.5YR5/3	1~2mmの砂粒を多く含 むにない赤褐色2.5VR4/4	良好	外:ナダ 内:ナダ
35	15	24	2	A3	耕作土 (備後地)	陶器	罐				外:灰褐色 内:灰白色	外:2.5VR5/2 内:2.5YR3/2	1~2mmの砂粒を含むに ない赤褐色2.5VR4/4	良好	外:同形ナダ 内:罐7条以上 使用瓶
35	16	24	2	A6	耕作土 (備後地)	陶器	罐				外:灰褐色 内:暗褐色	外:2.5VR4/2 内:2.5YR3/3	1~4mmの砂粒を含むに ない暗褐色2.5VR4/4	良好	外:ナダ 内:罐5条以上 使用瓶
35	17	24	2	A7	灰白色 土	陶器 (備後地)	罐				灰色	外:2.5V4/1 内:2.5Y4/1	0.5~2mmの砂粒を含むに ない灰褐色2.5VR4/3	良好	外:ナダ 内:罐6条以上 使用瓶
35	18	24	2	A7	黄灰褐 色土	陶器 (吉備戸地)	罐且類	4.2			外:淡黃褐色 内:灰白色	外:2.5VR8/4 内:5V6/2	0.5mm以下の砂粒を含むに ない淡黃褐色10YR8/3	良好	外:底部切削 内:罐
35	19	24	2	B8	黄灰褐 色土	陶器 (吉備戸地)	加皿				灰黄色	2.5Y7/2	1mm以下の砂粒を含むに ない白灰色2.5V7/1	良好	外:施釉 内:施釉
35	20	24	2	B6	黄灰褐 色土	陶器 (戸戸美濃)	天日晒	4.0			外:灰白色 内:黑色	外:2.5V7/1 内:10V2/1	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰白色2.5V7/1	良好	外:施釉 内:施釉
36	1	25	2	B3	黄灰褐 色土	青磁 (中国青磁)	碗				灰白色	7.5VR2/2	0.5mm以下の砂粒を含むに ない白色2.5V7/2	良好	外:施釉 内:施釉
36	2	25	2	A4	黄灰褐 色土	青磁	碗	4.6			明オーラブ灰 色	2.5GY7/1	1~2mmの砂粒を含むに ない明黄褐色10YR6/6	良好	外:施釉 内:施釉 火を受けている
36	3	25	2	B4		白磁	皿	12.8			灰白色	8Y7/1	0.5mm以下の砂粒を含むに ない白灰色8Y7/1	良好	火を受けている
36	4	25	2	A7	黄灰褐 色土	白磁	皿				白色(輪裏) 灰白色(輪なし)	10YR8/1(輪なし)	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰白色2.5Y8/1	良好	外:施釉 内:見込みを輪なし
36	5	25	2	B5	黄灰褐 色土	白磁	合子	6.6			白色		0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰白色2.5Y8/1	良好	外:施釉 内:施釉
36	6	25	2	B6	調査区 灰褐色	青花	碗				白色		0.5mm以下の砂粒を含むに ない白色	良好	外:共箱で輸付け 内:口唇部に擦傷
36	7	25	2	B3	黄灰褐 色土	青花	皿				白色		1mm以下の砂粒を含むに ない白色	良好	外:共箱で輸付け 内:二重蓋 青花扣印
36	8	25	2	B3	灰色土	青花	皿				灰白色	7.5Y7/2	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰白色2.5Y8/2	良好	外:共箱で輸付け 内:二重蓋 青花扣印C群
36	9	25	2	B4	黄灰褐 色土	青花	瓶				外:明緑色 内:灰白色	外:2.5GY7/1 内:2.5Y8/1	0.5mm以下の砂粒を含むに ない明緑色2.5Y8/1	良好	外:施釉 内:施釉
36	10	25	2	B4	黄灰褐 色土	青花	瓶				灰白色~明緑色	10Y7/2~10GY7/1 2.5Y7/1	1mmの砂粒を含むに ない灰白色2.5Y7/1	良好	火を受けている
36	11	25	2	B8	黄灰褐 色土	青花	皿				7.1 白色		0.5mm以下の砂粒を含むに ない白色	良好	外:共箱で 内:二重蓋 青花扣印B群
36	12	25	2	A5	黄灰褐 色土	陶器 (李朝)	皿				にない黄褐色	10YR7/2	1~2mmの砂粒を含むに ない黄色2.5Y7/2	良好	外:施釉 内:施釉 日曆1箇所
36	13	25	2	A3	黄灰褐 色土	朝鮮陶器 (或青沙器)	皿				7.0 黄褐色	2.5VR6/1	1mmの砂粒を含むに ない黄褐色2.5Y7/1	良好	外:共箱で同一固体の可能性あり 内:施釉
36	14	25	2	B4	黄灰褐 色土	陶器 (中国青釉陶 器)	不明				(灰褐色)(輪裏) (灰褐色)(輪なし)	2.5YR4/2(輪裏) 10R5/1(輪なし)	1mmの砂粒を含むに ない灰褐色2.5YR5/1	良好	外:施釉 内:施釉
36	15	25	2	A5	耕作土	陶器	碗				明黄褐色~暗褐色 (輪裏) (灰白色)(輪なし)	10YR7/6~6 10YR3/4(輪裏) 10YR8/2(輪なし)	0.5mm以下の砂粒を含むに ない明黄褐色2.5YR8/1	良好	外:施釉 内:無釉
37	1	27	2	A5	黄灰褐 色土 (肥后系)	陶器	碗	10.6	7.2	4.8	灰白色(輪裏) にない褐色(輪なし)	2.5YH4/2(輪裏) 5YR7/4(輪なし)	5~6mmの砂粒を含むに ない褐色2.5YR7/4	良好	外:施釉 内:高台葉付は無釉 内:施釉
37	2	25	2	A5	灰色土 (肥后系)	陶器	碗				灰黄褐色	10YR4/2	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰黄褐色2.5YR5/1	良好	外:白化粧
37	3	25	2	B3	青灰色 粘質土	陶器 (肥后系)	林か皿				外:オーラブ色(輪 裏)にない黄褐色 (輪なし) 内:灰オーラブ色~ オーラブ黒色(輪 裏)	外:5V5/4(輪裏) 5YR6/2(輪なし) 内:5Y5/3~5Y2/2 (輪なし)	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰褐色2.5YR5/2	良好	外:灰褐色 底削り切付 内:灰褐色
37	4	25	2	A5	調査区 西側底	陶器 (肥后系)	片口鉢	18.0			灰白色	8Y7/1	0.5mm以下の砂粒を含むに ない灰褐色2.5YR5/2	良好	外:白化粧 ハケメ抜灰 内:白化粧
37	5	25	2	A4	灰色土	陶器 (肥后系)	鉢	34.0			灰褐色(輪裏) 褐色(輪なし)	2.5VR6/2(輪裏) 7.5VR6/2(輪なし)	1mmの砂粒を含むに ない灰褐色2.5YR7/4	良好	外:白化粧 ハケメ抜灰 内:白化粧
37	6	25	2	A5	黄灰褐 色土	陶器 (肥后系)	鉢		10.6		外:褐色 内:灰褐色	外:2.5YR6/6 内:2.5YR6/2	1mmの砂粒を含むに ない褐色2.5YR6/4	良好	外:白化粧 ハケメ抜灰 内:白化粧
37	7	26	2	B3	耕作土	陶器 (肥后系)	甕	30.3			灰褐色(輪裏) にない赤褐色(輪なし)	5YR4/2(輪裏) 2.5VR5/3(輪なし)	1~2mmの砂粒を含むに ない赤褐色2.5YR4/3	良好	外:格子目タテタキ 内:格子目当て具柄

Fg	樹物 番号	写真 回数	採取地 位置	出土 地点	層位	種別	器種	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	調査・備考	
37	8	26	2	B3	耕作土 (肥沃土)	陶器	甕		19.0	墨褐色	7.5VR3/2	1~2mmの砂粒を多く含む 灰~墨褐色(10YR6/3)	良好	外:ヨーナグ 内:ヨーナグ 頂部に放熱状 況のため当面	
38	1	26	2	A3	黄灰褐色 土色土	陶器 (肥沃土)	瓶	11.8			白色	墨(灰)白色2.5YR1/1		良好	外:灰~赤褐色 内:赤褐色
38	2	27	2	B3	耕作土 (肥沃土)	陶器 (肥沃土)	瓶	11.0	4.0	灰白色	10YR8/1	灰(灰)白色2.5YR1/1	良好	外:施釉 内:施釉 烧成で給付け 外:施釉 烧成で給付け	
38	3	27	2	B3 調査区 北側周	耕作土 (肥沃土)	陶器 (肥沃土)	瓶	10.4	5.8	4.2	灰白色	NR/	0.5mmの砂粒を含む灰白 色2.5YR1/1	良好	外:施釉 内:施釉 烧成で給付け 外:施釉 烧成で給付け
38	4	26	2	B3	耕作土 (肥沃土)	陶器	灰皮皿				灰白色	2.5YR1/1	墨(灰)白色2.5YR1/1	良好	外:施釉 内:施釉
38	5	27	2	A5	黄灰褐色 土色土	陶器 (肥沃土)	瓶	11.8	3.4	4.2	灰白色(輪裏) に似る褐色~灰自 (輪なし)	10YR8/1(輪裏) 5YR7/4~2.5YR7/2 (輪なし)	墨(灰)白色2.5YR1/1	良好	外:施釉 内:施釉 高台は無輪 見込みは轮の目録 は無
38	6	27	2	B3 調査区 北側周	耕作土 (肥沃土)	陶器 (肥沃土)	瓶	15.0	3.7	10.0	灰白色~白色	NR/	0.5mmの砂粒を含む(灰白 色2.5YR1/1)	良好	外:施釉 内:施釉 烧成で給付け 外:施釉 烧成で給付け
38	7	26	2	B4	黄灰褐色 土色土	陶器 (肥沃土)	丸形瓶		5.8	灰白色(輪裏) に似る褐色~灰自 (輪なし)	2.5GYR6/1(輪裏) 10YR8/2(輪なし) 10YR8/2	1mmの砂粒を含む(灰白色 2.5YR1/1)	良好	外:施釉 内:施釉 高台は無輪 見込みは轮の目録 は無	
38	8	26	2	B5	茶褐色 土色土	陶器 (肥沃土)	瓶				灰白色(輪裏) に似る黄色(輪なし)	7.5YR7/2(輪裏) 2.5YR6/3(輪なし)	0.5~1mmの砂粒を含む (黄褐色2.5YR7/2)	良好	外:施釉 内:施釉 高台は近無輪 施釉
38	9	26	2	A6	耕作土 (肥沃土)	陶器	捏ね		10.6	灰白色(輪裏) 浅黃褐色(輪なし)	10YR8/2(輪裏) 10YR8/4(輪なし)	1~3mmの砂粒を含む浅 黃褐色10YR8/4	良好	外:施釉 内:施釉 高台は近無輪 重ね棒の跡	
38	10	26	2	A5	耕作土 (肥沃土)	陶器	捏ね	27.0			外:灰褐色 内:灰紫色	外:5YR4/2 内:2.5YN4/2	墨(浅黄褐色)10YR8/3	良好	外:铁锈 内:铁锈 植日 1~3mm
38	11	26	2	A4	黄灰褐色 土色土	陶器 (肥沃土)	捏ね	30.0			に似る赤褐色	2.5VR4/3	1~2mmの砂粒を含む浅 黄褐色10YR8/3	良好	外:铁锈 内:铁锈 植日 1~3mm
38	12	26	2	A5	黄灰褐色 土色土	陶器 (明石礁系)	捏ね		10.0	赤色	10R5/6	1~2mmの砂粒を含む赤 褐色10R5/4	良好	外:底部は切削 内:放热灰に植日9~10条1 單位	
38	13	26	2	B3	耕作土 (偏紅色)	陶器	香炉				に似る赤褐色 に似る黄色(自然 色)	5YR4/4 2.5YR6/3(自然軸)	0.5mm以下砂粒を含む(灰 褐色10R5/3)	良好	都未か明出
38	14	28	2	B3	耕作土 青灰色 土色土	陶器	瓶	8.4	4.8	3.6	白色		墨(白色)	良好	外:共箱で給付け 底面に 「曲口口製」
38	15	26	2	B3	耕作土 (有志名鉢)	陶器	鉢				外:灰白色 内:オリーブ灰褐色	外:7.5YR8/1 内:5YR6/3	墨(灰褐色)2.5YR7/2	良好	外:鐵錫 内:鐵錫
38	16	26	2	B3	耕作土 (在地底)	陶器	鉢				外:オリーブ灰褐色 内:灰白色	外:5YR6/2 内:5YR7/2	1mm以下の砂粒を含む(灰 褐色2.5YR7/1)	良好	外:鐵錫 内:鐵錫 鉢水槽の標品
38	17	26	2	B3	耕作土 (在地底)	小壺					外:黒色(輪裏) に似る褐色(輪なし) 内:暗褐色(輪裏)	外:7.5VR2/1(輪 裏)7.5YR6/4(輪なし 内:7.5YR4/3(輪 裏)	墨(浅黄褐色)10YR8/4	良好	外:施釉 内:施釉 灰~白地に白色模を 押しつけ 外:施釉
38	18	26	2		灰白色 土	土師器	培塿	23.6			外:黑褐色 内:に似る褐色	外:7.5YR3/1 内:7.5YR3/4	1mmの砂粒を含む	良好	外:ナダ 内:ナダ
38	19	26	2	B3	耕作土 土師器	五徳		6.7			に似る褐色	7.5YR5/4	1mmの砂粒を含む	良好	外:「イナセ」の刻
39	9	28	2	B4	黄灰褐色 土色土	製鉄関連	羽口				青褐色(先端) に似る黄褐色(内 面)	SHG2/1(先端) 内:10YR7.2(内面)	2mmの砂粒を含む		先端はガラス質化
No.1	18	2	SD01			陶器	不明					1~2mmの砂粒を含むに 似る黄褐色(10YR7/3)			
No.2	18	2	SD07			青磁 (中国青磁)	輪花瓶				オリーブ灰褐色	10YR6/2	墨(灰)白色2.5YR1/1	良好	
No.3	18	2	SK02			青磁					灰白色	7.5YR7/2	1mmの砂粒を含む(灰白 色2.5YR7/1)	良好	
No.4	18	2	SK02			陶器 (高麗青磁)	瓶				灰色	10YR6/1	2mm以下砂粒を含む(黄 灰色2.5YR6/1)	良好	内:集族
No.5	19	2	NB01			陶器	甕				外:に似る黄褐色 内:黄褐色	外:10YR6/3 内:2.5YR6/2	1mm以下砂粒を含む(黄 褐色2.5YR7/3)	良好	外:特殊材看 燒成不明
No.6	20	2	NB02			白磁	瓶				白色		墨(白色)	良好	外:白磁 内:白磁
No.7	20	2	NB02			白磁	瓶				灰白色	2.5YR8/1	1mmの砂粒を含む(灰白 色2.5YR8/2)	良好	外:施釉 内:施釉
No.8	20	2	NB02			陶器 (偏紅色)	甕				外:灰褐色 内:灰褐色	外:2.5YR5/2 内:1.5YR5/2	1~2mmの砂粒を含む(黄 褐色2.5YR7/4)	良好	外:ナダ 内:ナダ
No.9	19	2	NB02			陶器 (偏紅色)	甕				墨(白)	7.5YR5/2	1~4mmの砂粒を含む(灰 白色2.5YR7/2)	良好	外:ナダ 内:ナダ
No.10	21	1	B1			灰白色 土	陶器				褐灰色	7.5YR5/1	1~2mmの砂粒を含む(灰 褐色2.5YR7/2)	良好	外:ナダ 内:ナダ
No.11	21	1	C1			造形土 青磁	陶器				灰白色	10Y7/2	墨(灰)白色10Y7/2/2	良好	内:外面にも施釉

Fig	遺物 番号	写真 図版 枚番	調査区分 柱番	出土 地点	層位	種別	器種	口徑 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調	胎土	焼成	調整・備考	
	No12	21	1	A1	灰白色 (中国白磁)						灰白色	5V7/2	泥(灰白色2.5V8/1)	良好	
	No13	24	2	A3	黄灰褐色 土	土器部	鉢				灰白色	10V8R/2	2mmの砂粒を含む	良好	外:ハケヌ 内:ハケヌ
	No14	24	2	A5	耕作土 (備前焼)	甕					外:にぶい赤褐色 内:褐色	外:16VR5/3 内:12.5VR4/3	1~3mmの砂粒を含む(に ぶい褐色2.5V8/3)	良好	外:回転ナゲ 内:回転ナゲ
	No15	24	2	A4	黄灰褐色 土	陶器 (備前焼)	甕				外:褐色 内:黄褐色	外:16VR4/2 内:12.5VR4/1	1~3mmの砂粒を含む(に ぶい褐色2.5V8/1)	良好	外:ナゲ 内:ナゲ
	No16	24	2	A5	黄灰褐色 土	陶器 (備前焼)	甕				灰色	N5/	2~3mmの砂粒を含む(黄 褐色2.5V8/1)	良好	外:ナゲ 内:ナゲ
	No17	24	2			陶器 (備前焼)	甕				外:灰色 内:にぶい赤褐色 灰色	外:N5/ 内:5VR5/3~N5/ 2.5V7/1	2mm以下の砂粒を含む(灰 白色2.5V8/1)	良好	外:ナゲ 内:ナゲ
	No18	24	2	A6	黄灰褐色 土	陶器 (中空陶器)	甕				褐灰色	10V8S/1	1mm以下の砂粒を含む(に ぶい黄褐色10V7/3)	良好	外:ナゲ 内:ナゲ
	No19	24	2	A6	耕作土 (中空陶器)	甕					外:褐色 内:灰褐色	外:17.5VR5/2 内:17.5VR4/2	1~2mmの砂粒を多く含む (にぶい黄褐色10V7/4)	良好	外:ナゲ 内:ナゲ
	No20	24	2	B7	耕作土 (窓戸美濃)	甕					暗褐色~黒色	10VR3/4~ 10VR2/1	泥(灰白色2.5V8/1)	良好	窓戸美濃
	No21	24	2	A3	耕作土 (炎跡系)	甕					外:暗オーブル色 内:オーブル黒色	外:15V4/3 内:15V3/2	1~3mmの砂粒を含む(灰 白色2.5V7/1)	良好	外:自然釉
	No22	25	2	A3	黄灰褐色 土	青磁	瓶				灰白色	7.5VR7/2	泥(灰白色2.5V8/2)	良好	外:施釉 内:施釉
	No23	25	2	B5	黄灰褐色 土	青磁 (中国青磁)	瓶				オリーブ灰色	2.5GV6/1	泥(灰白色2.5V7/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No24	25	2	B5	黄灰褐色 土	青磁 (窓戸美濃)	瓶				オリーブ灰色	10V6/2	1mm以下の砂粒を含む(灰 白色2.5V7/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No25	25	2	B3	黄灰褐色 土	青磁	瓶				オリーブ灰色	10V6/2	泥(灰白色2.5V8/1)	良好	外:施釉 内:施釉
	No26	21	2	A5	耕作土 (中国青磁)	瓶					明オリーブ灰色	2.5GY7/1	0.5mm以下の砂粒を含む (灰白色2.5V7/1)	良好	
	No27	25	2		調査区分 北側廻	粗粒陶器 (灰青沙器)	瓶				黄灰色	2.5V6/1	0.5mm以下の砂粒を含む (黄灰色2.5V6/1)	良好	36-13と同一個体の可能性あ り
	No28	25	2	B4		粗粒陶器 (灰青沙器)	瓶				灰オリーブ色	7.5V6/2	1mm以下の砂粒を含む(灰 色2.5V6/1)	良好	

第3表 出土木製品観察表

Fig	遺物 番号	写真 図版 枚番	調査区分 柱番	出土 地点	層位	分類	器種	長さ・口径 (cm)	幅・器高 (cm)	厚さ・底径 (cm)	その他 寸法(cm)	木製か	細種	備 考
18	1	17	2	E-1-33		建築部材	柱	85.5	16.5			芯持材		えつき孔1箇所
22	1	19	2	NR01 (A6)		容器	漆器柄	15.2	9.5	8.0			シチノヒ	外:漆塗壁9 内:漆塗壁9
22	2	19	2	NR01	下層	調理加工具	杓子	41.8	6.5	0.8		絆目	スギ	丸形品、先端の裏面・側面と持ち手の 一部が黒く焼けている
22	3	19	2	NR01	下層	その他	加工材	15.8	4.8	2.2		板目	マツ属複数管 束茎属	指材
26	1	20	2	NR02	—	—	—	17.9	3.3	0.4		絆目	スギ	板材
26	2	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	柱	25.9	2.9	2.1		芯持材	ガバズミ属	
26	3	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	柱	30.2	4.7~5.3	4.8~6.3		芯持材	カツラ	
26	4	20	2	NR02	青灰色粘質土	土木材	柱	52.3	8.5	8.8		芯持材	マツ属複数管 束茎属	
40	1	28	2	A6	黄灰褐色土	容器	漆器柄						クスノキ科	外:漆塗壁9 内:漆塗壁9
40	2	28	2	B3	青灰色粘質土	容器	漆器柄						ブナ属	外:漆塗壁9 内:漆塗壁9
40	3	28	2	A6	黄灰褐色土	容器	漆器柄	12.0					ブナ属	外:漆塗壁9 内:漆塗壁9

第4表 出土銭貨観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区段	出土地点	層位	名 称	剖 面	銭径(A) (mm)	銭径(B) (mm)	内径(A) (mm)	内径(B) (mm)	錢厚 (mm)	重 量 (g)
30	1	21	2	SN02	柱内	寛永通寶	1697	23.58	23.59	18.93	18.74	1.16	2.91
30	2	21	2	SN02	柱内	寛永通寶	1697	24.11	23.98	18.74	19.21	1.13	2.12
30	3	21	2	SN02	柱外	不明		24.23	-	19.40	-	0.89	2.03
41	1	28	2	B7		祐聖元寶	1094	23.06	22.20	18.88	19.19	1.30	2.05
41	2	28	2	A7		寛永通寶	1697	23.34	23.55	18.74	18.68	1.33	3.07
41	3	28	2	A7		寛永通寶	1636	-	25.42	-	-	1.16	2.32
41	4	28	2	A7		□永□寶	1636	-	-	-	-	1.20	0.97

第5表 石・金属製品観察表

Fig	遺物番号	写真図版	調査区段	出土地点	層位	器種	径・長さ (cm)	鉄高・幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
25	4	20	2	NR02		五輪帶水輪	30.3	18.5	29.2	1175	緑灰岩	
39	1	28	2	B7		石鏡	21.4		1.2	198	滑石	断面三角形の筒 外: 構から下は縱方向の縫から削り、端付垂 内: 横方向に研磨 木戸分類III-3類
39	2	28	2	B7		石鏡	(4.1)	(3.7)	1.2	39	赤色頁岩	
39	3	28	2	B3	耕作土	石鏡	(3.5)	(1.5)	0.9	6	赤色頁岩	
39	4	28	2	A5	黄灰褐色土	礫石	11.0	5.6	3.9	366	流紋岩	
39	5	28	2	A3	耕作土	礫石	(4.0)	(2.0)	(3.7)	46	流紋岩	
39	6	28	2	A3	耕作土	礫石	(7.9)	(5.7)	(2.5)	126	玄武岩	
39	7	28	2			礫石	(10.0)	(4.1)	4.0	276	玄武岩	
39	8	28	2	B4	耕作土	火打石	2.9	2.7	1.5	9	メルカ系石	
34	1	23	1	C2		錐管	(2.0)	0.8	0.1			椎管
34	2	23	1	A1		錐管	(4.7)	1.1	0.1			吸い口

第6表 2区出土石製品観察表

Fig	番号	写真図版	調査区段	出土地点	層位	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備 考
15	16	25	1	5'×178		礫石(上臼)	(8.5) (35.2)			113.0	安山岩質凝灰岩	
15	17	25	1	5'×160		礫石	(10.6)	5.8	4.6	349.0	流紋岩	全面使用 刃先痕
15	18	25	1	5'×119		礫石	(6.7)	6.2	6.5	260.0	流紋岩	1面使用 刃先痕
21	1	29	2	SD02		礫石(上臼)	30.0		10.6	750.0	ダイサイト	
21	2	29	2	SD02		礫石(上臼)	36.0		10.7	1,350	ダイサイト	
24	4	30	1	SN01		礫石	31.8	25.6	14.5	1,295	流紋岩	槌痕
36	3	31	1	SE01		礫石	(5.6)	6.3	3.6	119.0	流紋岩	2面使用 刃先痕
36	4	31	2	SE01		礫石	(12.8)	6.2	5.0	536.0	流紋岩	3面使用
42	7	36	1	B2	包赤層	礫石	(5.4)	5.4	3.7	150.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	2面使用 刃先痕
42	8	36	1	B3	包赤層	礫石	(8.2)	6.4	(2.7)	189.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	2面使用 刃先痕
42	9	36	2	B6	包赤層	礫石	6.7	5.3	2.7	74.0	流紋岩(流紋岩質凝灰岩)	4面使用 刃先痕
42	10	36	2	B6	包赤層	礫石	7.4	4.6	2.1	155.0	砂岩	4面使用 刃先痕
42	11	36	1	B3	包赤層	礫石	(2.5)	(2.6)	1.6	15.0	砂岩	2面使用 刃先痕

★高浜1遺跡(2区)の「第4表 高浜1遺跡出土石製品観察表」に石材を追加した表

写真図版



1. 3-1 区表土掘削後（南東から）



2. 3-1 区調査終了後（南東から）



1. 3-2 区表土掘削状況（北から）



2. 3-2 区調査終了後（南から）



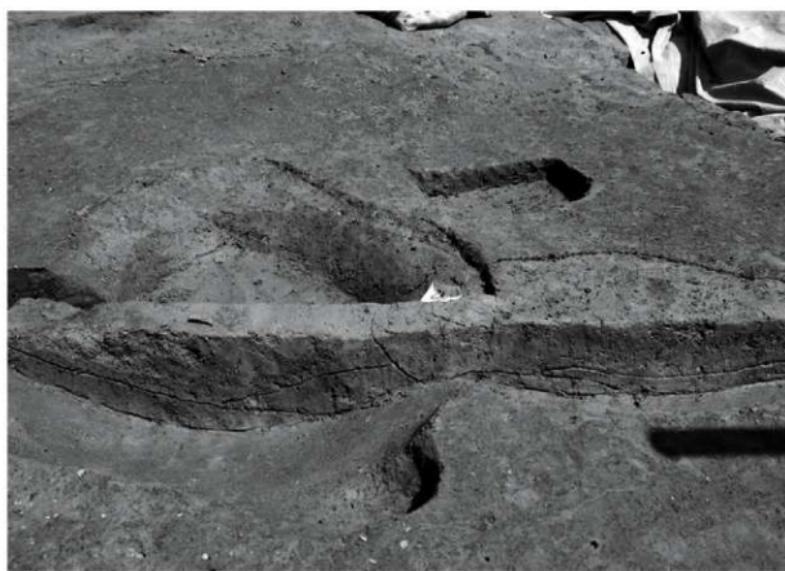
1. 3-1 区北壁土層堆積状況（西から）



2. 3-2 区東壁土層堆積状況（南から）



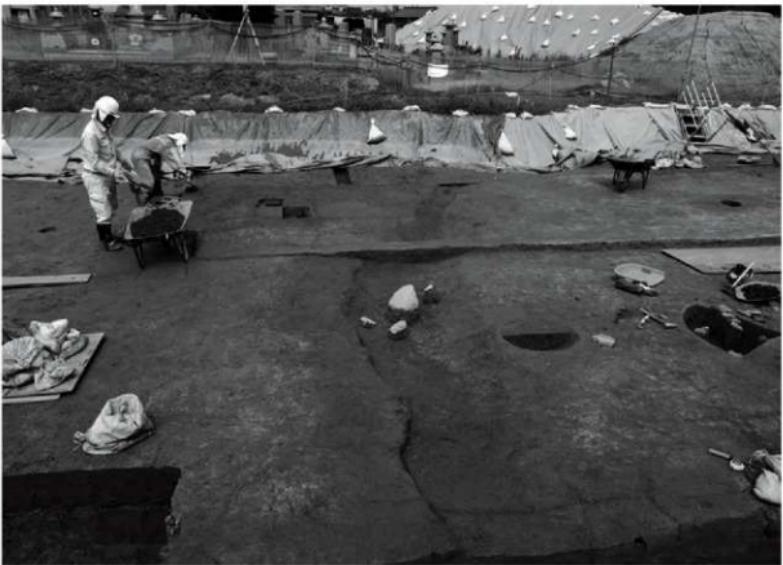
1. 3-2 区ビット検出状況（東から）



2. 3-2 区ビット半裁状況（南から）



1. ピット 33 完掘後（北から）



2. SD01 調査状況（東から）



1. SD01 土層堆積状況（東から）



2. SD04・05 土層堆積状況（南から）



1. SK01 半裁状況（東から）



2. SK02 調査状況（東から）



1. SK06 土層堆積状況（南から）



2. NR01 調査状況（東から）



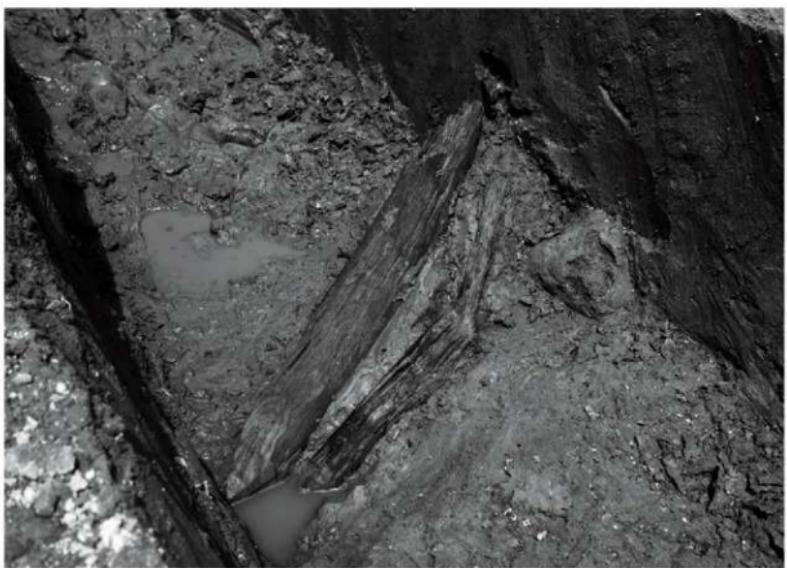
1. NR01 漆器椀 (第 22 図 1) 出土状況 (東から)



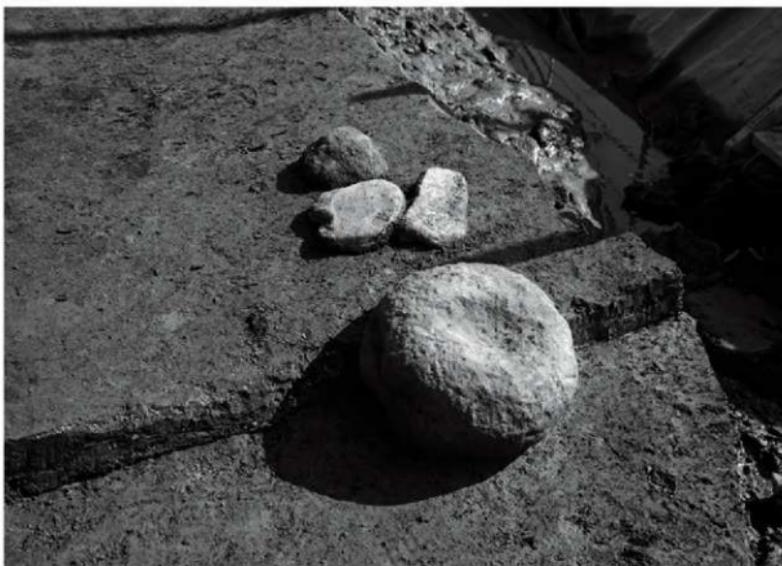
2. NR01 构子状木製品 (第 22 図 2) 出土状況 (東から)



1. NRO1 完掘状況（東から）



2. NRO2 杭(第 26 図 2~4) 出土状況（東から）



1. NRO2 五輪塔水輪部(第25図4) 出土状況(北から)



2. SD04・SD05 完掘状況(南から)



1. SX01 検出状況（東から）



2. SX01 半裁状況（北東から）



1. SX01 人骨出土状況（北東から）



2. SX01 底面検出状況（北から）



1. SX02 検出状況（東から）



2. SX02 検出状況（北から）



1. 土師器鍋（第35図8）出土状況（東から）



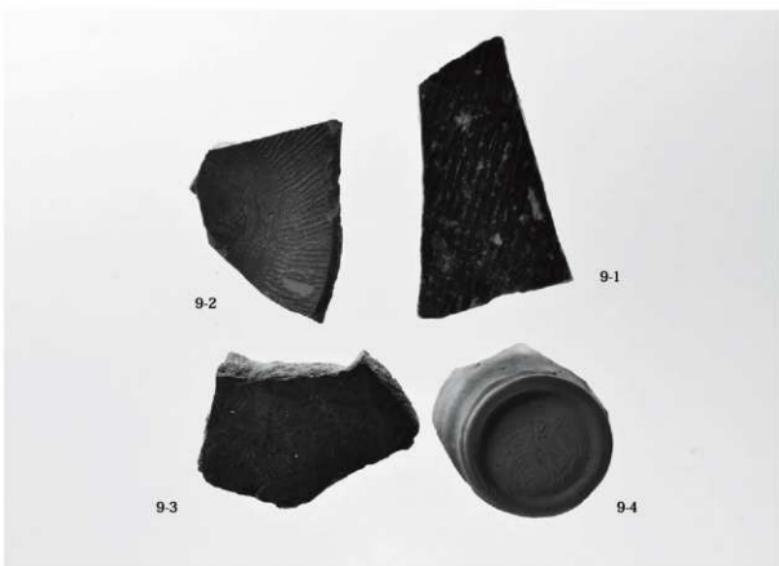
2. 青灰色粘質土：須恵器（第9図4）出土状況（東から）



1. 茶褐色土：中世須恵器（第9図2）出土状況（北東から）



2. 茶褐色土：須恵器壺（第9図1）出土状況（西南から）



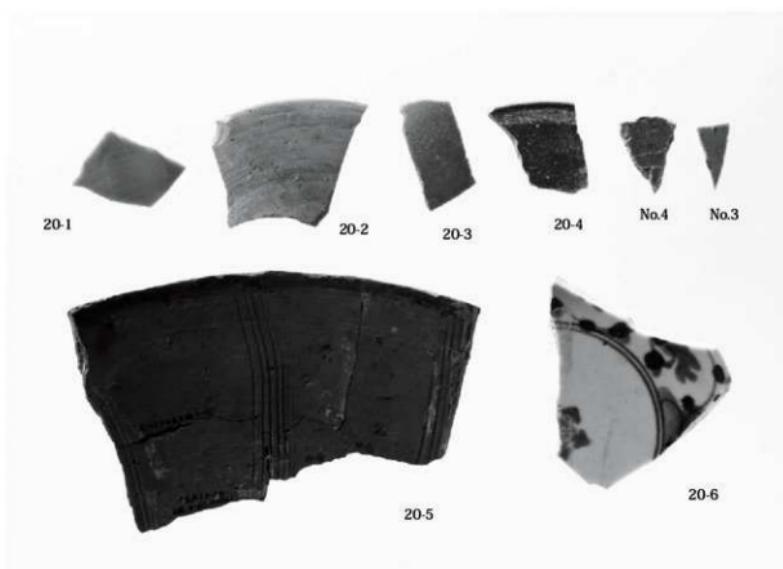
1. 茶褐色土・青灰色粘質土出土遺物（第9図）



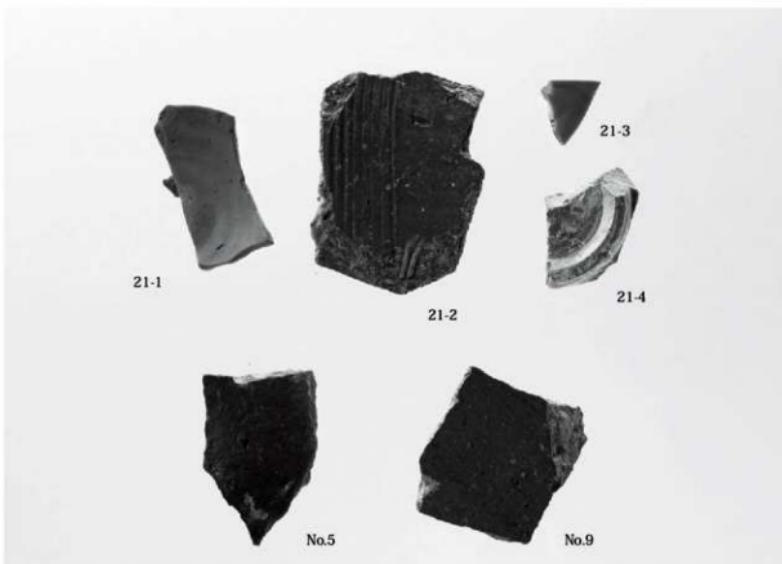
2. ピット33出土遺物（第18図）



1. 溝状窯出土遺物（第 19 図）



2. 土坑出土遺物（第 20 図）

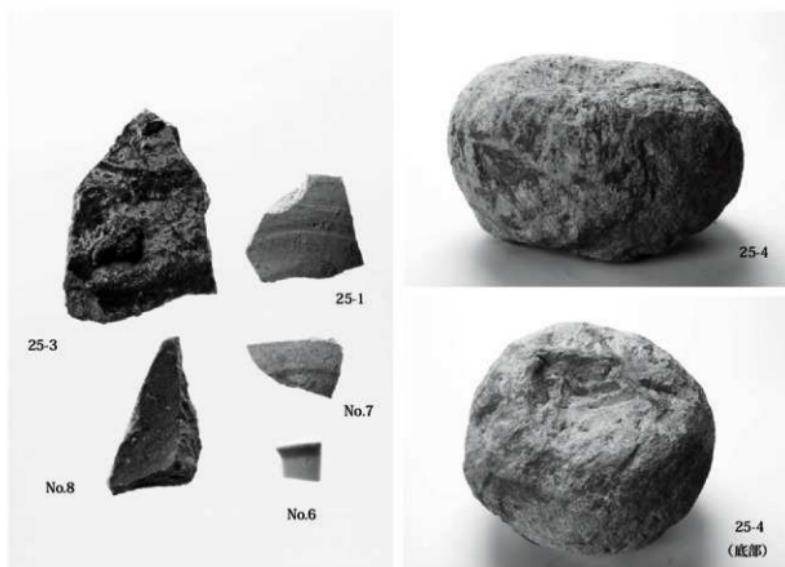


1. NR01・02 出土遺物（第 21 図）

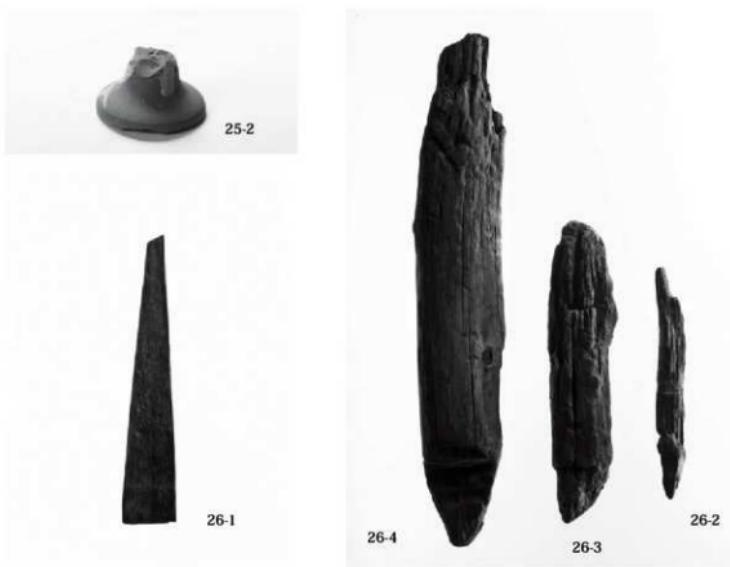


2. NR01 出土遺物（第 22 図）

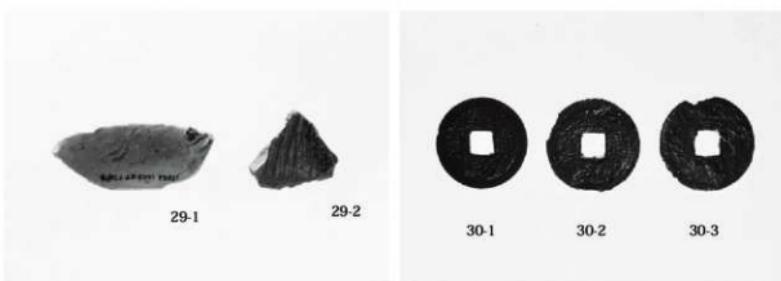
图版 20



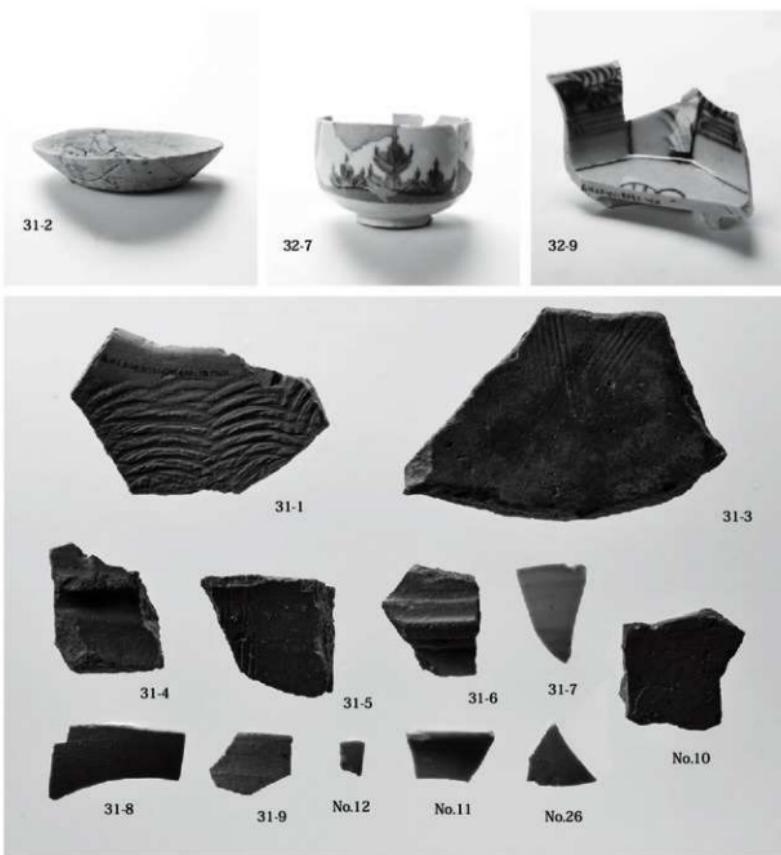
1. NR02 出土遺物（第 25 図）



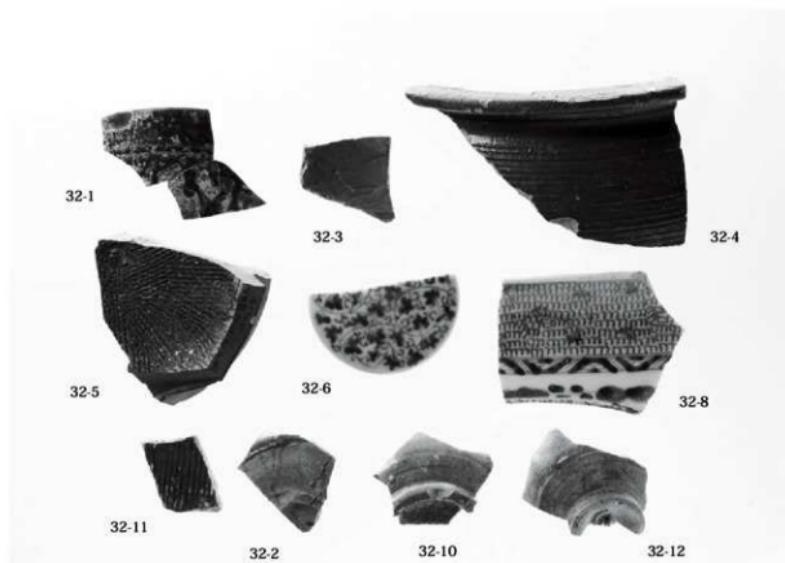
2. NR02 出土遺物（第 25・26 図）



1. SX01・02 出土遺物 (第 29・30 図)



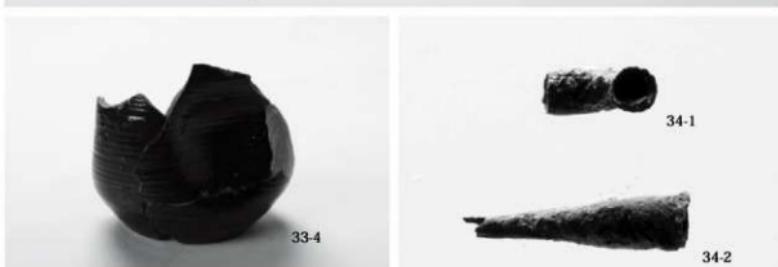
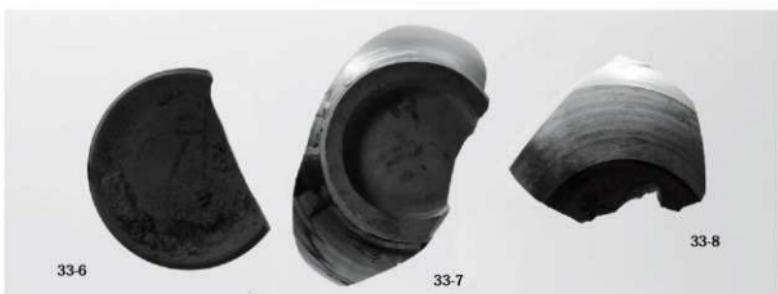
2. 3-1 区・3-2 区包含層出土遺物 (第 31・32 図)



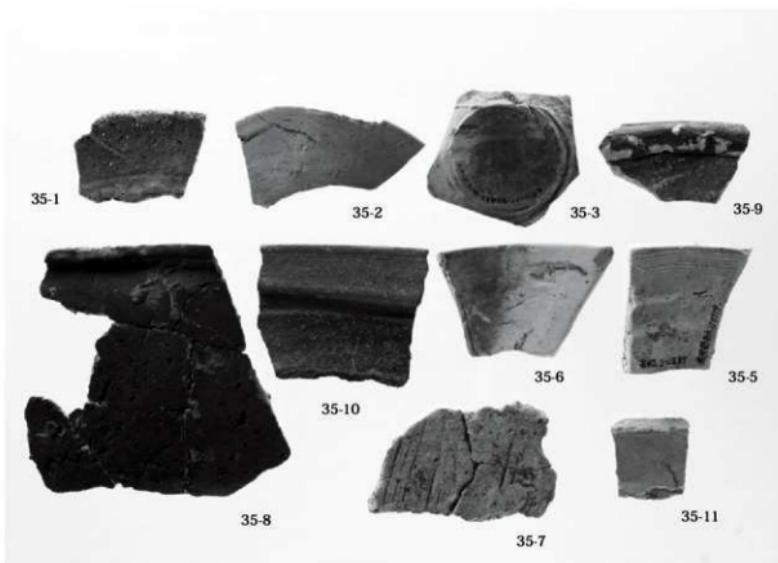
1. 3-1 区包含层出土遗物 (第 32 图)



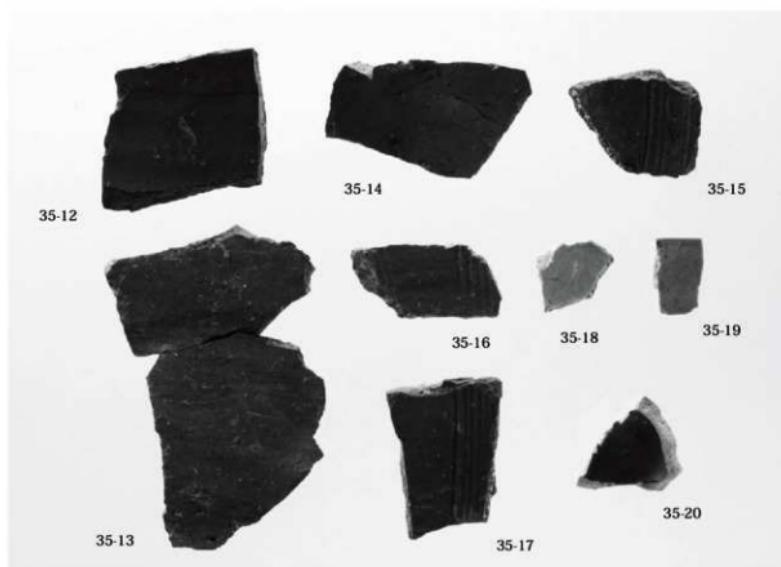
2. 3-1 区包含层出土遗物 (第 33 图)



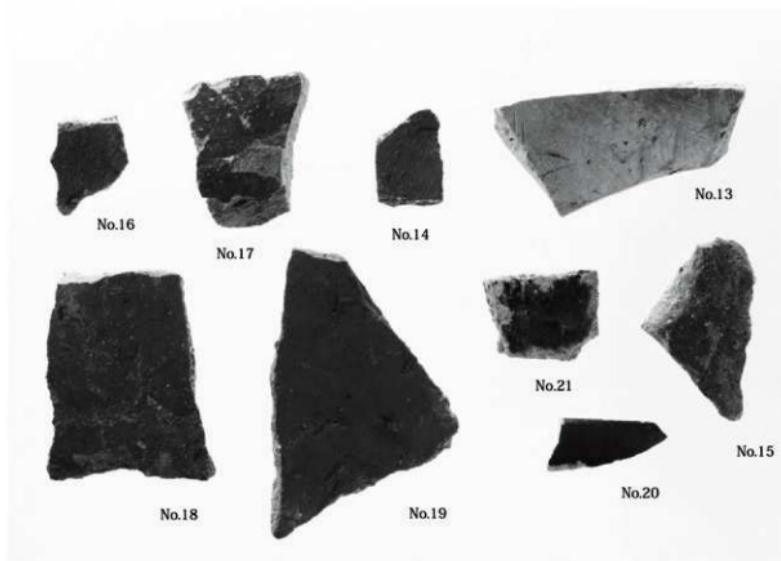
1. 3-1 区・3-2 区包含层出土遺物 (第 33・34 図)



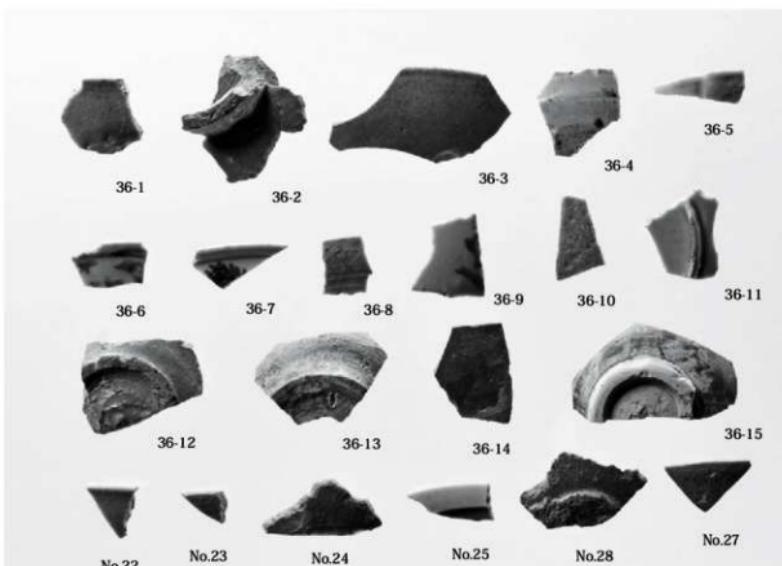
2. 3-2 区包含层出土遺物 (第 35 図)



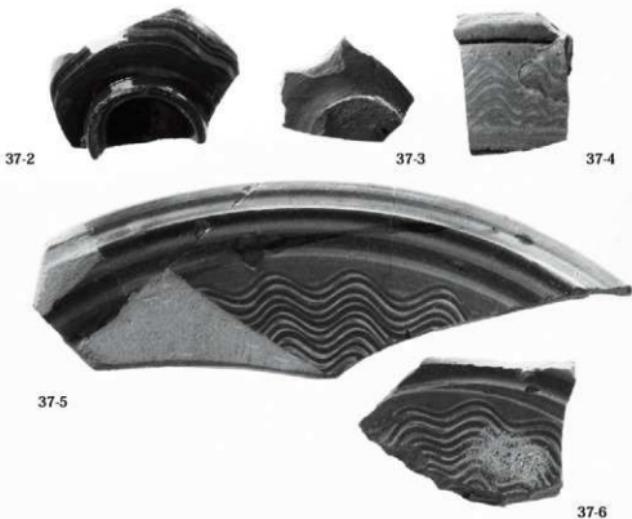
1. 3-2 区包含层出土遗物 (第 35 图)



2. 3-2 区包含层出土遗物



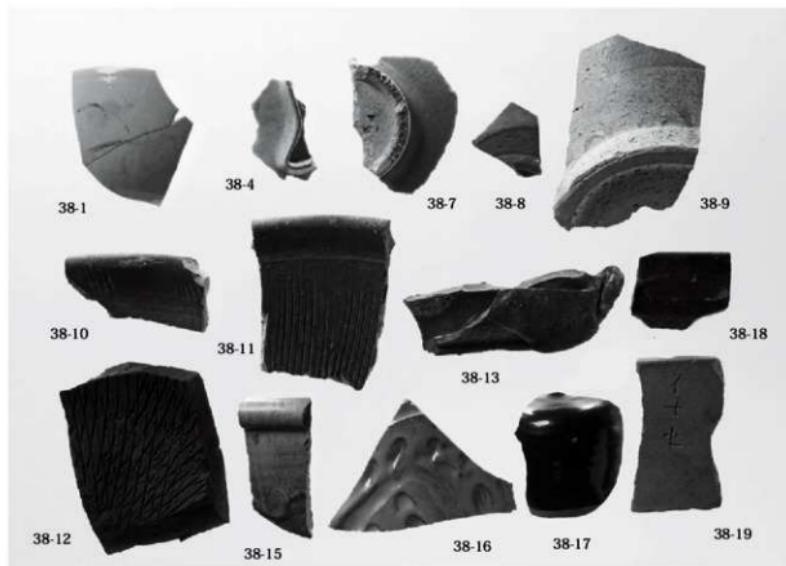
1. 3-2 区包含層出土遺物（第 36 図）



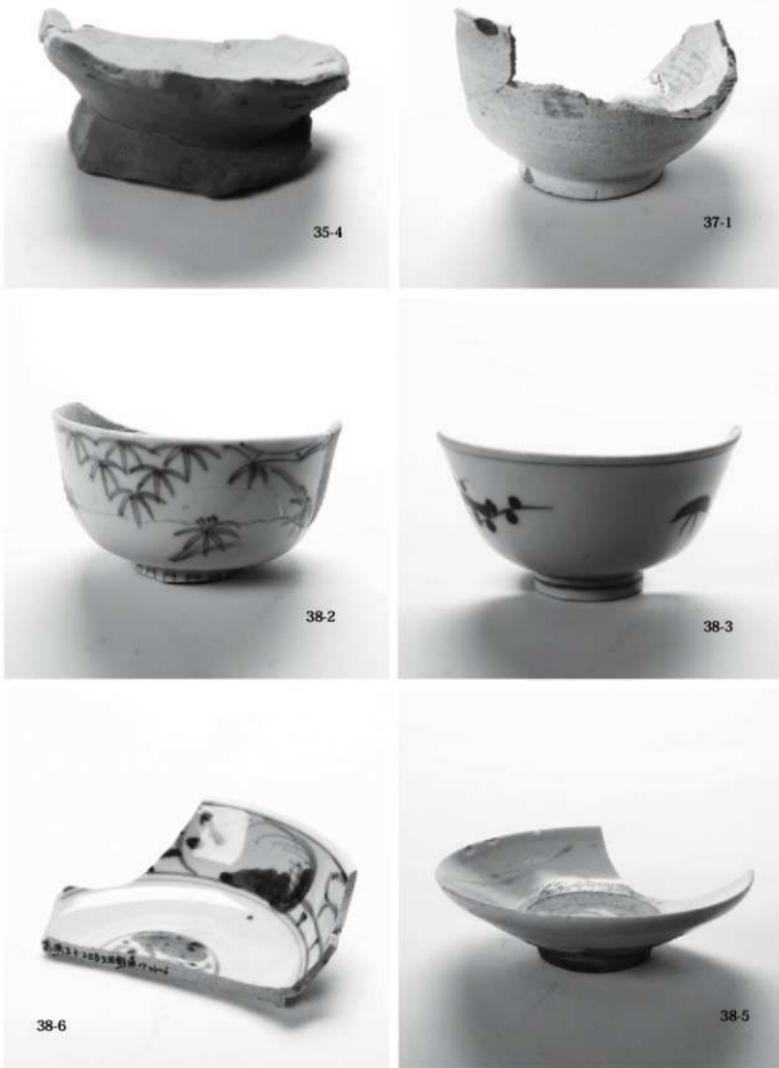
2. 3-2 区包含層出土遺物（第 37 図）



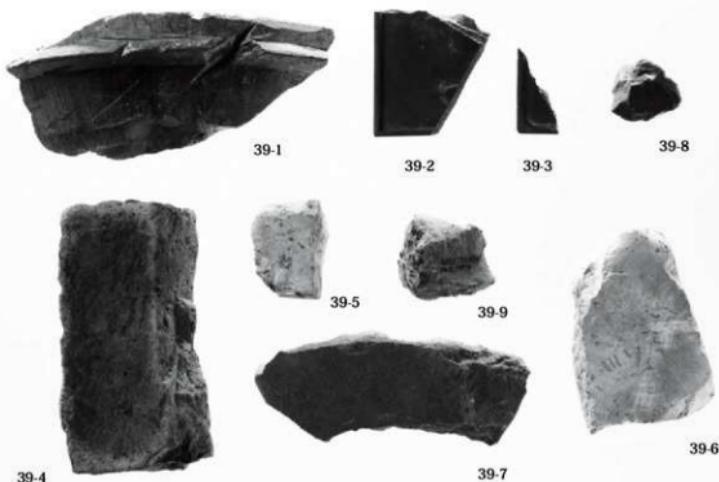
1. 3-2区包含層出土遺物（第37図）



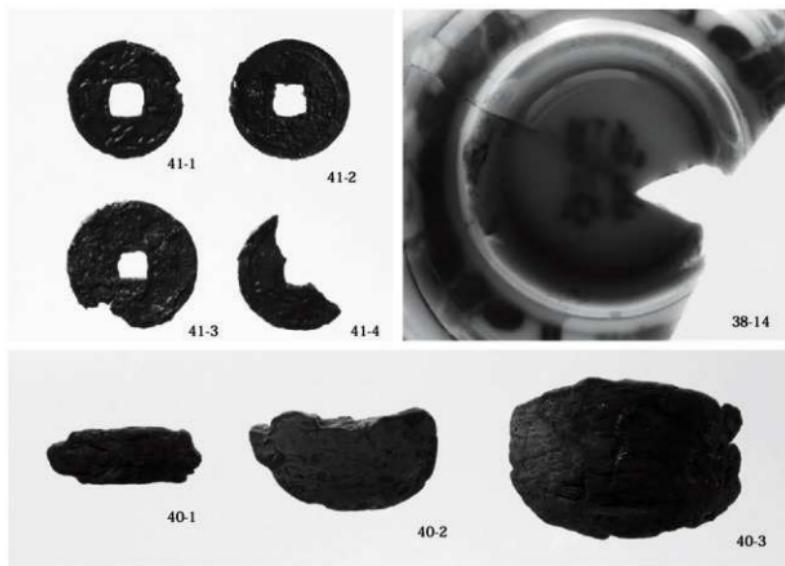
2. 3-2区包含層出土遺物（第38図）



1. 3-2 区包含层出土遗物 (第 35·37·38 图)



1. 3-2区包含層出土遺物（第39図）



2. 3-2区包含層出土遺物（第38・40・41図）

報 告 書 抄 錄

報告書抄録

フリガナ	タカハマイチ イセキ							
書名	高浜I遺跡(3区)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業(大塚工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	4							
編著者名	間野大添 米田美江子							
編集機関	島根県教育厅埋蔵文化財調査センター							
所在地	<p>〒 690 - 0131 島根県松江市打出町 33 番地 TEL 0852-36-8608 (代) FAX 0852-36-8025 E-mail mailbun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/mailzobunkazai/</p>							
発行年月日	西暦 2019 年 3 月 15 日							
発行 年数 通算名	所在地	コード	北緯	東經	発掘期間	発掘面積 (m ²)	発掘原因	
たかはいわ 高浜 I 遺跡	しまねけんいわしまし 島根県出雲市 里方町 平野町 高岡町	市町村 道路番号 32203	W171	35° 23° 11°	132° 44° 54°	20170522 ~ 20170904	1,000	道路建設
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
高浜 I 遺跡	集落跡	中世	自然河道 2 条 柱穴群 土坑 7 基 墓 2 基 溝状遺構 8 条	縄文土器、土師質土器、 輸入陶磁器、国産陶器、金属製品、 木製品	1 ~ 3 区の総括			

要約

高浜 I 遺跡のこれまでの調査では、1 区で、15 世紀から 16 世紀の削跡を検出し、日本最古の将棋盤などが出土している。2 区では、14 世紀中頃から 17 世紀初頭の甌と土器をもつ削跡を検出している。

今回調査した 3 区(1 区と 2 区の間)は、自然河道に面した高高地の縁辺にあたる。15 世紀から 16 世紀に埋没した自然河道の東に、集落跡が広がっていた。集落跡は 14 世紀から廻り、17 世紀初頭に盛期を迎えたと推定される。

3 次にわたる調査により、中世の層數地と周辺の景観が明らかになっただけでなく、出雲平野における土地利用の変遷を知る貴重な成果を得ることができた。

高浜Ⅰ遺跡（3区）

一般県道矢尾今市線地方道路交付金事業（大塚工区）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4

発行 2019(平成31)年3月

発行者 島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131

島根県松江市打出町 33

TEL 0852-36-8608

印刷 株式会社報光社

TAKAHAMA I SITE

Loc.3 Excavation Report

March,2019

Shimane Prefectural Board of Education